

2019 年度版

汚 染 負 荷 量 賦 課 金

申告書類作成 マニュアル

作成



独立行政法人
環境再生保全機構

- はじめにお読みください 2
- Excel雛型ファイル編集時のご注意 3

全体的な手続きの流れについては、
別冊の「汚染負荷量賦課金 申告・納付の手続き」を
ご覧ください。

はじめに

- 汚染負荷量賦課金申告書の作りかた 7

申告書

- 算定様式 (A 様式) の作りかた 13
- 算定様式 (B 様式) の作りかた 19
- 算定様式 (C 様式) の作りかた 24
- 算定様式 (D 様式) の作りかた 31
 - ・ D 様式 (a) 32
 - ・ D 様式 (b) 34

A
—
B
—
C
—
D

- 加重平均一覧表の作りかた 39
- 排出ガス測定的一般事項 (E 様式および b 様式共通) 44
- 算定様式 (E 様式) の作りかた 46
 - ・ E 様式 (共通) 47
 - ・ E 様式 (イ) 48
 - ・ E 様式 (ロ) 50
 - ・ E 様式 (ハ) 52
- 算定様式 (b 様式) の作りかた 60
 - ・ b 様式 (共通) 61
 - ・ SO_x 濃度測定値をもとに作成する場合 62
 - ・ SO₂ 濃度測定値をもとに作成する場合 64

加重平均
—
添付書類
E
—
b

- 困ったとき 70
 - ・ 誤りの多い事例 70
 - ・ FAQ 70
 - ・ Excel 雛型ファイルについて 71

困ったとき

- 業種名とその分類一覧 72
- 標準的硫黄分一覧 73
- 燃原料コード表 73
- 端数処理のしかた一覧 74
- JIS Z 8401 による数値の丸めかた 75
- 申告後に誤りを訂正する場合 76

必要なときに

はじめにお読みください

本書は、オンライン申告用のExcel雛型ファイルを例に説明しています。
用紙申告、オンライン申告、FD・CD申告で内容が異なる場合、右図のアイコンで区別し、説明しています。

- 凡例
- 用紙申告
 - オンライン申告
 - FD・CD申告

申告・納付の流れ

「汚染負荷量賦課金 申告・納付の手続き」(別冊：以下「**申告・納付の手続き**」) および「汚染負荷量賦課金 申告書類作成マニュアル」(本書：以下「**作成マニュアル**」)をよくお読みになり、下記手順にしたがって、適正に申告納付いただきますようお願いいたします。

申告の期限：2019年5月15日(水)

別冊の「申告・納付の手続き」をご覧ください

初めてオンライン申告するときは

あらかじめ、「電子申告等届出書」を作成し、代表者印を押印のうえ、独立行政法人 環境再生保全機構まで提出してください。

法人名・住所に変更がある場合は

あらかじめ、「名称等変更届出書」を提出してください。(別冊「申告・納付の手続き」参照)

1 申告書類を用意する

- 「申告書類を用意する」(→別冊「申告・納付の手続き」)のチャートにしたがって、申告書類またはExcel雛型ファイルを用意してください。

申告書類の入手のしかた

- 用紙申告**：管轄の商工会議所から申告書と昨年の申告に使用した算定様式と同じ様式が送付されます。不足がある場合は管轄の商工会議所にお問い合わせください。
- オンライン申告**：オンライン申告システムにログインし、ダウンロードしてください。
 - ログインするには、機構から発送される認証情報が必要です。認証情報は、「電子申告等届出書」により届け出のあった担当者に対して、機構から郵送されます。
- FD・CD申告**：以下のいずれかの方法で入手できます。
 - 環境再生保全機構のサイトからダウンロードしてください。
 - 商工会議所にFD、CD、USBメモリーなど(以下「**メディア**」と呼称します)を持参し、ファイルを保存します。

本書をご覧ください

2 申告書類を作成する

- 各種データや基礎資料などを用意する。
- 必要に応じて、硫黄酸化物排出量(SOx排出量)の算定のための添付書類(39～69ページ)を作成する。
- 各種データ・添付書類をもとに、所定の算定様式を作成する。(13～38ページ)
- 算定様式をもとに、申告書を作成する。(7～12ページ)

3 申告する

- 申告前に、必要な申告書類・Excel雛型ファイルがそろっているか、確認してください。
- 用紙申告、FD・CD申告の場合、申告書に押印もれがないか確認してください。(9ページ)
- 用紙**：申告に必要な書類一式を持参または郵送で、管轄の商工会議所に提出してください。
- オンライン**：オンライン申告システムにログインし、作成した全てのExcel雛型ファイルを送信してください。送信後は、忘れずに送信記録を印刷し、大切に保管してください。
- FD・CD**：下記を持参または郵送で、管轄の商工会議所に提出してください。
 - Excel雛型ファイルを用いて作成し、用紙に出力のうえ、押印した申告書
 - 申告書を含む全てのExcel雛型ファイルを保存したメディア(FD、CD、USBメモリー)

4 申告後にしていただきたいこと

- 提出した申告書類は、大切に保管してください。
 - 用紙**：各申告書類の控えを保管してください。
 - オンライン**：申告したExcel雛型ファイルと送信情報(オンライン申告)を出力し、保管してください。
 - ※ 過去5年分の申告書類作成に使用した原始帳票類も、併せて保管してください。
- 汚染負荷量賦課金を、忘れずに納付してください。

別冊の「申告・納付の手続き」をご覧ください

Excel 雛型ファイル編集時のご注意

はじめに

● Excel 雛型ファイル編集時のご注意
● はじめにお読みください

動作環境について

オンライン申告、Excel 雛型ファイルのダウンロード・編集などができる環境は下記の通りです。

項目	条件
OS	Windows 7 (SP1)、Windows 8.1、Windows 10
ソフト	Excel 2010、Excel 2013、Excel 2016
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11、Microsoft Edge 256 ビット TLS 暗号化通信が可能なこと
接続環境	インターネットに接続されていること

- 上記動作環境は、OS とソフトを標準的な環境でインストールしている状況下で動作確認を行ったものです。事業場の固有な環境により動作不良が発生する場合がありますので、必要に応じ事業場のシステム管理者に確認して適切な対応を行ってください。
- 128 ビット SSL 暗号化通信に設定されている場合は、下記手順で設定を変更してください。
 - ① ブラウザから、[ツール](#) ▶ [インターネットオプション](#) ▶ [詳細設定](#) をクリックする。
 - ② 「設定」ウインドウから、「TLS1.0 を使用する」、「TLS1.1 の使用」、「TLS1.2 の使用」にチェックを入れる。
 - ③ [OK](#) をクリックする。
- Excel 雛型ファイルを使用する際、様々なトラブルが発生することがあります。その場合は、「困ったとき」(70 ページ)をお読みになり、トラブルに応じて正しくご対応ください。
- どうしてもトラブルが解決できない場合には、用紙申告に切り替えていただくこともありますのでご了承ください。
- 提出したデータがウイルス等に感染している可能性がある場合には、速やかに補償業務部業務課までご連絡ください。

Excel 雛型ファイルの署名について

最新の Excel 雛型ファイルには、環境再生保全機構の署名*が施されています。

この署名に対して、「この発行者のドキュメントをすべて信頼する」(4 ページ)を選択すると、以降は環境再生保全機構の署名がある全ての Excel 雛型ファイルは、「コンテンツの有効化」をしなくても開くことができるようになります。

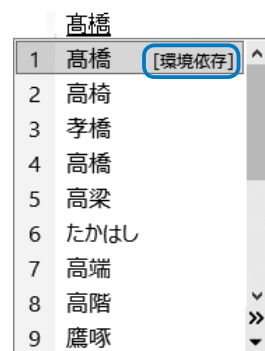
※ Excel VBA をデジタル証明書で署名し、署名検証された Excel VBA のみ有効とするように設定されています。これにより、セキュリティレベルを下げずに、入力作業をすることができます。

環境依存文字についてのご注意

Windows OS を使用する場合、漢字の変換時に右の画面のように「環境依存」と注釈がつく文字があります。

この環境依存文字をご使用になりますと、文字化けなどの原因となり、文字を正しく扱えなくなることがあります。

環境依存文字は使用せず、代わりの文字を使うなどしていただきますようお願いいたします。



- Excel 雛型ファイルや名称等変更届出書の入力時に環境依存文字を入力して保存しようとすると、エラーメッセージが表示され、保存ができません。
- ファイルをアップロードするときに、アップロードするファイルが保存されているフォルダ名に環境依存文字が含まれている場合、誤った送信情報が記録されてしまうことがあります。

Excel 雛型ファイル編集時のご注意

ファイルを開く時のご注意

Excel 雛型ファイルは、「環境再生保全機構の署名」が施されております。

初めてファイルを開く際に、下記手順で「環境再生保全機構の署名」を承認していただくと、それ以降はExcel 雛型ファイルを開く際に「コンテンツの有効化」を行う必要は無くなります。(下記はExcel2013の例)

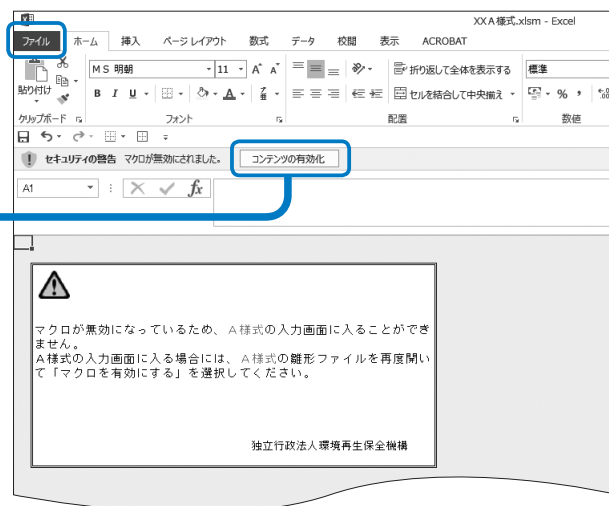
ご注意

- 「算定様式の追加」を行い保存したExcel 雛型ファイルは、保存時に署名が破棄されていますので、設定を変更しても、開く時にメッセージが表示されます。その時は、手順1の画面で「コンテンツの有効化」をクリックするか、セキュリティレベルを変更してください。(6ページ)

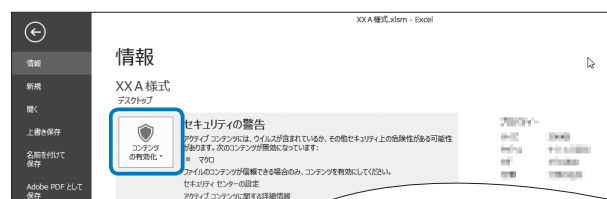
1 ファイルをクリックする。

メッセージが表示された画面で、**コンテンツの有効化**をクリックしても、ファイルを開くことができます。

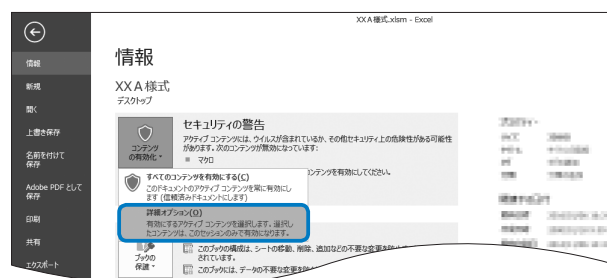
- 「算定様式の追加」を行って保存したために署名が破棄されたExcel 雛型ファイルを、セキュリティレベルを変更せずに開くことができます。



2 コンテンツの有効化をクリックする。



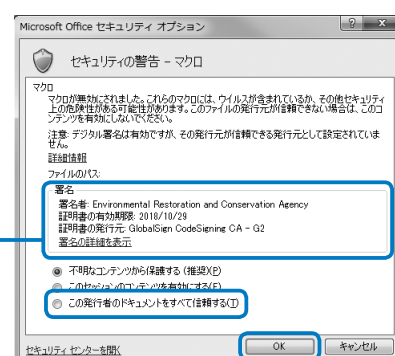
3 詳細オプションをクリックする。



4 この発行者のドキュメントをすべて信頼する (T) をチェックし、OKをクリックする。

- 設定が変更されました。
- 以降は、環境再生保全機構の署名のあるExcel 雛型ファイルを開いても、メッセージが表示されなくなります。
- 設定を変更後、開いているExcel 雛型ファイルをいったん閉じて、再度開いてください。

環境再生保全機構の署名が表示されます。



お願い

- セキュリティに問題がある場合には、Excel 雛型ファイルの入力が終了後、元の設定に戻してください。詳しくは、システムの管理者にお問い合わせください。(元の設定に戻すと、Excel 雛型ファイルを開くときに上記設定が必要となります。)

Excel (64ビット版) 使用時のご注意

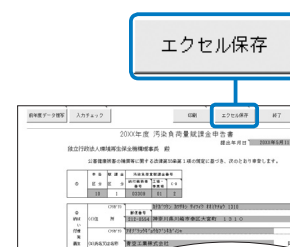
- Excel 雛型ファイルは、32ビット版と64ビット版があります。32ビット版のExcel 雛型ファイルを64ビット版のExcelで開こうとすると、右記のようなエラーが表示され、開けません。その場合、再度オンライン申告サイトにアクセスし、64ビット版のExcel 雛型ファイルをダウンロードしてください。
- 詳しくは、別冊の「申告・納付の手続き」の20ページをご覧ください。



ファイルを保存する際のご注意

- Excel 雛型ファイルを保存する際は、必ず **エクセル保存** をクリックして保存してください。他の方法では正常に保存できません。
- 詳しい操作のしかたは、各Excel 雛型ファイルの説明をご覧ください。
- Excel 雛型ファイルの名称を変更すると、「アップロードエラー」となり、アップロードができません。ファイル名は変更しないでください。

例：申告書の場合



ファイルを閉じる際のご注意

- Excel 雛型ファイルを閉じる際は、必ず **終了** をクリックして閉じてください。他の方法で閉じることはできません。
- 詳しい操作のしかたは、各Excel 雛型ファイルの説明をご覧ください。

例：申告書の場合



Excel 雛型ファイル編集時のご注意

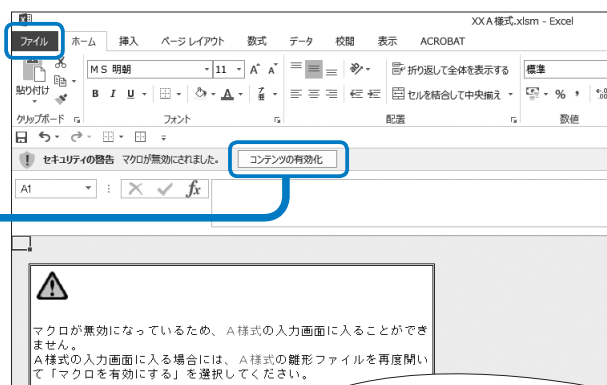
Excelのセキュリティレベルを変更する

「算定様式の追加」を行い保存したExcel雛型ファイルは、保存時に署名が破棄されています。そのようなファイルを開く際は、下記手順でセキュリティレベルを変更してください。

1 ファイルをクリックする。

メッセージが表示された画面で、**コンテンツの有効化**をクリックしても、ファイルを開くことができます。

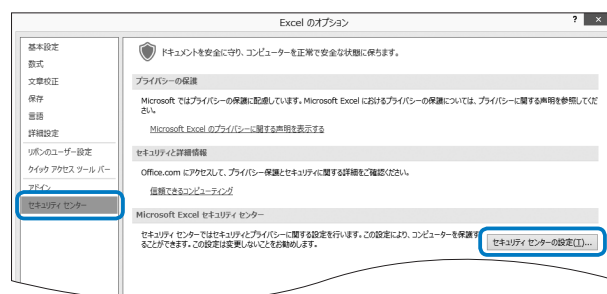
- 「算定様式の追加」を行って保存したために署名が破棄されたExcel雛型ファイルを、セキュリティレベルを変更せずに開くことができます。



2 オプションをクリックする。

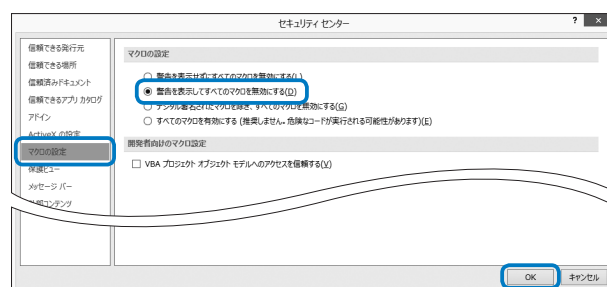


3 セキュリティセンターを選択し、セキュリティセンターの設定(T)をクリックする。



4 マクロの設定を選択し、警告を表示してすべてのマクロを無効にする(D)をチェックし、OKをクリックする。

- 設定が変更されました。
- 以降は、Excel雛型ファイルを開いても、メッセージが表示されなくなります。
- 設定を変更後、開いているExcel雛型ファイルをいったん閉じて、再度開いてください。



お願い

- セキュリティに問題がある場合には、Excel雛型ファイルの入力が終了後、元の設定に戻してください。詳しくは、システムの管理者にお問い合わせください。(元の設定に戻すと、Excel雛型ファイルを開くときに上記設定が必要となります。)

汚染負荷量賦課金申告書の作りかた

汚染負荷量賦課金申告書とは

汚染負荷量賦課金の納付義務者が、汚染負荷量賦課金を申告するために使用する書類です。
所定の算定様式によって算定した硫黄酸化物(SOx)の排出量に基づき、汚染負荷量賦課金を算定します。

納付義務者の要件

- ① 1987年(昭和62年)4月1日にばい煙発生施設等を設置していたこと
- ② その施設が硫黄酸化物を排出し得るものであったこと
- ③ その施設が設置されていた工場・事業場における最大排出ガス量の合計が
 - ・旧指定地域の場合、5,000m³/h以上
 - ・その他地域の場合、10,000m³/h以上であったこと

詳しくは、別冊の「申告・納付の手続き」(3ページ)の「公害健康被害補償制度について」をご覧ください。

準備

申告に必要な算定様式と添付書類を用意してください。

- 必要な書類は、別冊の「申告・納付の手続き」(10ページ)の「申告書・算定様式・添付書類の選び方」のチャートから選択してください。

作成時の留意点

申告書にあらかじめ入力された納付義務者名、所在地などに変更がある場合は

- 「名称等変更届出書」を提出ください。(「申告・納付の手続き」72ページ)
申告書に変更後の名称や住所などを記載するだけでは変更されません。
必ず「名称等変更届出書」を提出してください。

Excel雛型ファイルに入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目(セル)が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ(,)は、自動で表示されます。(例:「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。)
- 各セルの右上の「✖」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例:

(フリガナ)	
(イ)住所	住所は、半角 100(または、全角 50)文字以下で入力して下さい。
(フリガナ)	

Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず「入力チェック」をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。(11ページ)
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

用紙申告する際の留意点

- 申告書(事業者用)の裏面の記載も併せてご覧ください。
- 4枚1組の複写式となっていますので、黒のボールペンではっきり記入してください。
- 印刷された所在地・電話番号・業種名などに変更がある場合は、取消し線を引き、変更後の所在地・電話番号・業種名などを余白に記入の後、訂正印を押してください。

はじめに

申告書

● 汚染負荷量賦課金申告書の作りかた
● Excel雛型ファイル編集時のご注意

汚染負荷量賦課金申告書の作りかた

🌐 操作のしかたは、10ページ
をご覧ください。

① 申告区分・賦課金区分・汚染負荷量賦課金番号

🌐 あらかじめ入力されています。

📄 別途配布の「申告書情報」に記載の番号を入力してください。

提出年月日を入力してください。

● 「/」(スラッシュ)区切りで西暦を入力してください。

(例:「2019/5/11」と入力すると、「2019年5月11日」と表示されます。)

前年度データ複写	入力チェック	印刷	エクセル保存	終了
----------	--------	----	--------	----

20XX年度 汚染負荷量賦課金申告書

提出年月日 20XX年5月11日

独立行政法人環境再生保全機構理事長 殿

公害健康被害の補償等に関する法律第55条第1項の規定に基づき、次のとおり申告します。

①	申告区分	賦課金区分	汚染負荷量賦課金番号
	10	1	納付義務者番号 工場・事業場 C・D
			03309 01 2

② 納税義務者 施設等設置者	(ア)住所	〒1310 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310		
	(イ)氏名又は名称	青空工業株式会社		
	(ロ)代表者氏名	青空一郎	(ハ)同左代理人	大森一夫
	(ニ)資本金	8,230,000 千円		
	(ホ)電話番号	044-520-9503		

③ 対象工場・事業場	(イ)所在地	〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港1丁目2-3		
	(ロ)名称	仙台工場		
	(ハ)工場長氏名	大森一夫	(ニ)業種名	鉄鋼業
	(ホ)立方メートル/時 (m3N)	92,016		

汚染負荷量 算定様式 の 排出量 取り込み	過去分 現在分	(イ)硫酸酸化物排出量		(ロ)単位排出量あたり賦課金 (円/立方メートル)		(ハ) = (イ) * (ロ) 汚染負荷量賦課金額
		単位換算量 (m3N/算定基礎期間)	円 銭	円 銭	円 銭	
		41,233	11.14			459,335
		前年の排出量 (m3N/年)	31,163	○ XXX. XX	○ XXX. XX	3,463,455
				○ XXX. XX	○ XXX. XX	
				○ XXX. XX	○ 111.14	3,922,700

⑤ 延納の申請 ☒ する ☐ しない

⑥ 汚染負荷量賦課金の期別納付額内訳				
(イ) 全期又は第1期 (初期)	(ロ) 第2期	(ハ) 第3期	(ニ) 第4期	
円	円	円	円	円
980,900	980,600	980,600	980,600	

商工会議所	所属課 環境課
作成担当者	電話番号 022-562-8181 (内201)
	フリガナ タイマモル
	氏名 大伊木守

⑥ 延納の申請

汚染負荷量賦課金額[⑤の(ハ)]の合計が30万円以上の場合、4期に分けて延納することができます。該当する方を選択してください。

する：延納する(4回に分割して支払う)

しない：延納しない(一括で支払う)

この申告書の作成担当者の所属課・電話番号(内線)・氏名を必ず入力してください。★

📄 ①の汚染負荷量賦課金番号を入力すると、自動的に選択されます。
🌐 あらかじめ入力されています。(用紙申告の場合、印字されている商工会議所に提出してください。)

② 納付義務者（ばい煙発生施設等設置者）

☐ ☐ 用紙申告、FD・CD申告の場合は、必ず押印してください。

● 代理人を選任しない場合：「○」部に押印してください。

● 代理人を選任する場合：「●」部に押印してください。

（イ）住 所：住所を郵便番号から入力してください。★

● 郵便番号は、「-」（ハイフン）を含めずに入力してください。

（ロ）氏名又は名称：正式名称（法人名、または自治体名など）を入力してください。★

（ハ）代表者氏名：代表取締役または代表者の氏名を入力してください。

（二）同左代理人：代理人を選任した場合に入力してください。

☐ ☐ 「代理人選任・解任届出書」が別途必要です。

☐ 「電子申告等届出書」で、代理人を選任する届け出が別途必要です。

（ホ）資本金：2019年4月1日現在の額を入力してください。★

● 資本金を有しない事業者は、「0」と入力してください。

☐ 欄の右側に、昨年度の申告書の業種番号と資本金が入力されています。

③ 対象工場・事業場

（イ）所在地：対象工場・事業場の所在地を入力してください。★

（ロ）名称：対象工場・事業場の名称を入力してください。★

● 電話番号について

☐ ☐ あらかじめ入力されています。

☐ 電話番号を入力してください。

（ハ）工場長の氏名：特に定めのないときは、工場などの代表者の氏名を入力してください。

（二）業 種 名：☐ ☐ あらかじめ業種名が入力されています。

☐ 業種名を入力してください。（業種名とその分類一覧：72ページ）

④ 1時間当たりの最大排出ガス量

2019年4月1日現在の工場・事業場におけるばい煙発生施設などの1時間当たりの最大排出ガス量^{*}（湿りガス）の総量を入力してください。

※ 大気汚染防止法の届出値です。

⑤ 汚染負荷量賦課金の計算

計算や端数処理のしかたについて、詳しくは、12ページをご覧ください。

（イ）硫黄酸化物排出量：● 過去分：あらかじめ入力されています。

● 現在分：工場・事業場における全ての施設（ばい煙発生施設以外の施設も含む）から排出された総量を入力してください。（1m³/未満は切り捨て）

（ロ）単位排出量当たり賦課金：● 過去分：あらかじめ入力されています。

（円／立方メートル）

● 現在分：該当する金額の番号を選択してください。★

（金額は別途配布の「汚染負荷量賦課金の申告・納付のお願いについて」をご覧ください。）

（ハ）＝（イ）×（ロ）：☐ 過去分・現在分それぞれの賦課金の総額[(イ)×(ロ)]を記入してください。

汚 染 負 荷 量 賦 課 金 額 ☐ 「合計」欄に、「過去分の総額」＋「現在分の総額」の金額を記入してください。（100円未満の端数は切り捨て）

☐ ☐ （イ）、（ロ）を入力すると、自動的に計算されます。

⑦ 汚染負荷量賦課金の期別納付額内訳

● 「⑥延納の申請」で「する」を選択した場合

☐ 第1期～第4期の金額を計算し、それぞれ記入してください。（計算のしかたは、12ページをご覧ください。）

☐ 第1期～第4期の金額が自動的に計算され、それぞれに振り分けられます。

● 「⑥延納の申請」で「しない」を選択した場合

☐ 「全期又は第1期（初期）」の欄に、⑤の（ハ）で計算した合計金額を記入してください。

☐ 「全期又は第1期（初期）」の欄に合計金額が自動的に入力されます。

お知らせ

● オンライン申告の場合、「★」印の項目はあらかじめ入力されています。

汚染負荷量賦課金申告書の作りかた

ボタン操作のしかた

前年度データ複写

■ 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。(複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です)

1. 前年度データ複写をクリックする。
2. 前年度に提出した申告書のExcel雛型ファイルを選択し、開くをクリックする。

● 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

🌐 ダウンロードしたExcel雛型ファイルに入力済みですので、この操作は不要です。

前年度データ複写

入力チェック

印刷

エクセル保存

終了

20XX年度 汚染負荷量賦課金申告書

提出年月日 20XX年5月11日

独立行政法人環境再生保全機構理事長 殿

公害健康被害の補償等に関する法律第55条第1項の規定に基づき、次のとおり申告します。

①	申告区分	賦課金区分	汚染負荷量賦課金番号		
			納付義務者番号	工場・事業場	C・D
	10	1	03309	01	2

② 納ばい付煙発義生施設等者設置者

(ア)住所 郵便番号 212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310

(イ)氏名又は名称 青空工業株式会社 印

(ウ)代表者氏名 青空一郎 印

(エ)同左 大森一夫 印

(オ)資本金 6,230,000 千円

③ 対象工場・事業場

(イ)所在地 郵便番号 983-0001 宮城県仙台市宮城野区港 1丁目2-3

(ロ)名称 仙台工場

(ハ)工場長氏名 大森一夫

(ニ)業種名 鉄鋼業

(ホ)立方メートル/時 (m3N) 1時間当たりの最大排出ガス量 92,018

⑤ 汚染課金

過去分 算定様式の排出量取り込み 41,233 円 11.14 円 459,335

現在分 前年の排出量 (m3N/年) 31,100 円 3,403,455

⑥ 延納の申請 ⑦ 延納の申請 ⑧ 延納の申請 ⑨ 延納の申請 ⑩ 延納の申請 ⑪ 延納の申請 ⑫ 延納の申請 ⑬ 延納の申請 ⑭ 延納の申請 ⑮ 延納の申請 ⑯ 延納の申請 ⑰ 延納の申請 ⑱ 延納の申請 ⑲ 延納の申請 ⑳ 延納の申請 ㉑ 延納の申請 ㉒ 延納の申請 ㉓ 延納の申請 ㉔ 延納の申請 ㉕ 延納の申請 ㉖ 延納の申請 ㉗ 延納の申請 ㉘ 延納の申請 ㉙ 延納の申請 ㉚ 延納の申請 ㉛ 延納の申請 ㉜ 延納の申請 ㉝ 延納の申請 ㉞ 延納の申請 ㉟ 延納の申請 ㊱ 延納の申請 ㊲ 延納の申請 ㊳ 延納の申請 ㊴ 延納の申請 ㊵ 延納の申請 ㊶ 延納の申請 ㊷ 延納の申請 ㊸ 延納の申請 ㊹ 延納の申請 ㊺ 延納の申請 ㊻ 延納の申請 ㊼ 延納の申請 ㊽ 延納の申請 ㊾ 延納の申請 ㊿ 延納の申請

④ 汚染負荷量賦課金の期別納付額内訳

(イ)全期又は第1期(初期) (ロ)第2期 (ハ)第3期 (ニ)第4期

980,900 980,600 980,600 980,600

商工会議所

作成担当者 所属課 環境課 電話番号 022-562-8181 (内201) フリガナ タイキマモ 氏名 大伊木守

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。(オンライン申告の場合は、印刷不要です。)

■ 申告書は必ず印刷し、押印のうえ提出してください。

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

算定様式の排出量取り込み

下記手順で、作成した算定様式(A～D様式)のデータを取り込み、自動的に前年の排出量を計算します。

1. 算定様式の排出量取り込みをクリックする。
 2. ダイアログボックスの内容を確認して、OKをクリックする。
 3. リストから算定様式を選択し、開くをクリックする。
- 複数の算定様式を選択する場合は、[Ctrl] キーを押しながら、全てのファイルを選択してください。

用紙申告用の申告書について

用紙申告用の申告書には、参考として、前年度の申告内容をもとに次の情報を記載しています。

前年度の申告書に添付
されていた算定様式の
種類と枚数

前年度の申告書に記入
されていた1時間当たり
の最大排出ガス量

① 汚染負荷量賦課金の期別																																	
(イ) 全期又は第1期(初期)	(ロ) 第2期																																
<table border="1"> <tr> <td>十</td><td>百</td><td>千</td><td>万</td><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>万</td> </tr> <tr> <td>9</td><td>8</td><td>0</td><td>9</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>	十	百	千	万	千	百	十	万	9	8	0	9	0	0	0	0	<table border="1"> <tr> <td>十</td><td>百</td><td>千</td><td>万</td><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>万</td> </tr> <tr> <td>9</td><td>8</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>	十	百	千	万	千	百	十	万	9	8	0	6	0	0	0	0
十	百	千	万	千	百	十	万																										
9	8	0	9	0	0	0	0																										
十	百	千	万	千	百	十	万																										
9	8	0	6	0	0	0	0																										
<table border="1"> <tr> <td>十</td><td>百</td><td>千</td><td>万</td><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>万</td> </tr> <tr> <td>9</td><td>8</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>	十	百	千	万	千	百	十	万	9	8	0	6	0	0	0	0	<table border="1"> <tr> <td>十</td><td>百</td><td>千</td><td>万</td><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>万</td> </tr> <tr> <td>9</td><td>8</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> </table>	十	百	千	万	千	百	十	万	9	8	0	6	0	0	0	0
十	百	千	万	千	百	十	万																										
9	8	0	6	0	0	0	0																										
十	百	千	万	千	百	十	万																										
9	8	0	6	0	0	0	0																										

A 3 B 2 (92016) (0401)
 E 6 b 1 2 仙台

注) 「事業者用」裏面の注意をよく読んで記入してください。

作成	所 属 課 環 境 課
担当者	電話番号 022-562-8181(内263)
	フリガナ タイキ マモル
	氏 名 大 伊 木 守

汚染負荷量賦課金申告書の作りかた

「⑤汚染負荷量賦課金の計算」のしかた

過去分賦課金額と、現在分賦課金額をそれぞれ算定し、合計します。

計算式

● 過去分賦課金額

$$\text{算定基礎期間 [1982 年 (昭和 57 年) ~ 1986 年 (昭和 61 年)] の SOx 累積換算量} \times \text{過去分賦課料率} = \text{過去分賦課金額 (1 円未満は切り捨て)}$$

● 現在分賦課金額

$$\text{前年 (2018 年 1 月 1 日 ~ 2018 年 12 月 31 日) の SOx 排出量}^* \times \text{現在分賦課料率} = \text{現在分賦課金額 (1 円未満は切り捨て)}$$

● 汚染負荷量賦課金額

$$\text{過去分賦課金額 (1 円未満は切り捨て)} + \text{現在分賦課金額 (1 円未満は切り捨て)} = \text{汚染負荷量賦課金額 (100 円未満は切り捨て)}$$

※「前年のSOx排出量」について

工場・事業場における全ての施設などから、前年に排出された総量を計算してください。

計算の際は、以下の点にご注意ください。

- 1987 年 (昭和 62 年) 4 月 2 日以後に新設および増設した施設から排出された量を含みます。
- 予備施設から排出された量、試運転により排出された量、および非常用発電機・消火用施設など、大気汚染防止法対象外施設から排出された量を含みます。
- 1 m³/N 未満の端数が生じるときは、これを切り捨ててください。

(例) 同一工場・事業場で、複数の施設がある場合

A 様式 (1 枚目)	12.7 m ³ /N
A 様式 (2 枚目)	23.4 m ³ /N
+) C 様式 (1 枚目)	34.5 m ³ /N
合計	70.6 m ³ /N → 70 m ³ /N

「⑦汚染負荷量賦課金の期別納付額内訳」の計算のしかた

延納を申請した (「⑥延納の申請」で「する」を選択した) 場合、期別納付額を下記のとおりに計算してください。

計算の例

総額が 3,922,700 円の場合は

$$3,922,700 \text{ 円} \times \frac{1}{4} = 980,675 \text{ 円} \cdots \cdots \text{①}$$

● 第 1 期分の納付額は

$$\begin{aligned} & 980,600 \text{ 円} \text{ [①から 100 円未満の端数 (75 円) を引いたもの]} \\ & +) 75 \text{ 円} \times 4 = 300 \text{ 円} \text{ [100 円未満の端数 (75 円) } \times \text{ 4 期分]} \\ & \hline & 980,900 \text{ 円} \end{aligned}$$

● 第 2 期以降の納付額は、980,600 円 [①から 100 円未満の端数 (75 円) を引いたもの] となります。

申告書への記入例

⑤ 汚染 課 負金 の 量計 算	過去分	④ 算定基礎量 (m3/年(算定基礎期間)) 41,233	⑥ 単位排出量当たり賦課金 (円/立方メートル) 11.14		⑦ 汚染負荷量賦課金額 459,335
	現在分	前年の排出量 (m3/年) 31,163	☐ XXX.XX	☐ XXX.XX	3,463,455
			☐ XXX.XX	☐ XXX.XX	
			☐ XXX.XX	☒ 111.14	3,922,700
	⑧ 延納の申請 ☒ する ☐ しない				合計 3,922,700
⑩ 汚染負荷量賦課金の期別納付額内訳					
(イ) 全期又は第1期 (初期) 980,900		(ロ) 第2期 980,600		(ハ) 第3期 980,600	
				(ニ) 第4期 980,600	

総額

第1期分の納付額

第2期以降の納付額

第 1 期分の納付額

第 2 期以降の納付額

算定様式（A様式）の作りかた

算定様式（A様式）とは

燃原料*および廃棄物（清掃工場などで焼却する廃棄物を除く）の使用量、密度および含有硫黄分から硫黄酸化物（SOx）の排出量を求める場合に使用する最も標準的な様式です。

- 脱硫装置などを使用し、脱硫効率を適用する場合は
→E様式も作成し、提出してください。（46ページ）
- 同じ月に、密度や含有硫黄分の異なる燃原料を使用した場合は
→それぞれの成績表などの数値を使用して加重平均した値を入力してください。
また、その場合加重平均一覧表を作成し、提出してください。（39ページ）
- 地方公共団体等の清掃工場で焼却する廃棄物の使用量、密度および含有硫黄分から算定する場合は
→A様式ではなく、D様式を使用してください。
- A様式で算定することができない場合は
→B様式またはC様式を使用し、算定してください。
詳細は、別冊の「申告・納付の手続き」（10ページ）の「申告書類を用意する」に記載のチャートをご確認ください。
- 同じ燃原料を複数の施設で使用している場合は
→1枚のA様式にまとめて入力できます。
（ただし、脱硫装置が設置されている場合は、同じ燃原料を使用している場合、脱硫装置の設置の有無ごとにA様式を作成してください。）

※ 燃原料とは、燃料および原材料のことです。（以下「燃原料」といいます。）

作成時の留意点

Excel雛型ファイルに入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例：

年間排出量の算定の過程を示す書類（A）	
工場・事業場名	工場・事業場名は、半角 100（または、全角 50） 文字以下で入力して下さい。
② No.	A -

Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず「**入力チェック**」をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。（17ページ）
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

用紙申告する際の留意点

- 3枚1組の複写式となっていますので、黒のボールペンではっきり記入してください。
- A様式が不足する場合は、商工会議所か機構に連絡し、入手してください。

算定様式（A様式）の作りかた

共通

① 賦課金番号

- 申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

② No.

- A様式の全使用枚数と通し番号です。
この例では、全5枚のうちの2枚目であることを表します。

🌐📄 Excel雛型ファイルで様式を追加することにより、自動的にNo.が付与されます。

🌐📄 入力方式を選択してください。

- 通常は、「各月使用」を選択してください。
- 灯油、LPGなどで燃原料の硫黄分が0.01%未満の場合は、「合計使用」を選択してください。

⑥ 脱硫の有無

- 脱硫がない場合は「無」、脱硫がある場合は、該当する脱硫方式を選択してください。（複数選択可）

20XX年度汚染負荷量賦課金

年間排出量の算定の過程を示す書類（A）

① 賦課金番号

03309012

工場・事業場名

青空工業(株)仙台工場

② No.

A- 02 枚目

05 全校数

③ 燃原料の種類

C重油

④ 使用量の単位

L

入力方式

☒ 各月使用

☐ 合計使用

⑤ 脱硫の有無

☐ 無

☒ 排煙脱硫

☐ 集じん等脱硫

☐ 製品等脱硫

⑤ 施設名

2号ボイラー、加熱炉

⑦ 使用年月	⑧ 使用量	⑨ 密度	⑩ 含有硫黄分	⑪ 補正後の脱硫効率	⑫ SOx 排出量
XX年		g/cm ³	%	%	m ³ N
1月	440,588	0.944	2.28	84.54	1,026.2
2月	461,324	0.944	2.25	84.54	1,060.3
3月	480,718	0.946	2.23	85.13	1,055.5
4月	499,663	0.945	2.26	85.13	1,110.7
5月	500,841	0.944	2.17	85.89	1,013.3
6月	501,032	0.940	2.22	85.89	1,032.6
7月	480,305	0.941	2.30	86.12	1,010.0
8月	368,274	0.941	2.34	86.12	787.8
9月					0.0
10月	480,392	0.938	2.32	85.78	1,040.6
11月	499,457	0.942	2.34	85.92	1,085.0
12月	506,656	0.942	2.27	85.92	1,067.8
年間計	⑬ 年間使用量 5,219,250				⑭ 年間SOx排出量 11,289.8

入力チェック

前年度データ複写

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

終了

A様式_5

A様式_4

A様式_3

A様式_2

A様式_1

+

🌐📄 操作のしかたは、16ページをご覧ください。

③ 燃原料の種類

-  実際には使用している燃原料の名称を選択してください。
-  実際には使用している燃原料の名称を記入してください。
燃原料のコードは、**燃原料コード表** (73ページ) から選択し、記入してください。

④ 使用量の単位

- 使用する燃原料に応じて、該当する単位を選択してください。(kl やt は使用しないでください。)
- 液体の場合: l 又は kg 固体の場合: kg 気体の場合: m³/h 又は kg

⑤ 施設名

- 「ボイラー」など、対象となる施設の名称を入力してください。
- 同じ燃原料を複数の施設で使用している場合は1枚のA様式にまとめて入力できます。(ただし、脱硫装置が設置されている場合は、同じ燃原料を使用している場合、脱硫装置の施設の有無ごとにA様式を作成してください。)

「各月使用」で入力する場合(通常)

⑦ 使用年月(入力済みです)

⑧ 使用量

- 燃原料の使用量を各月ごとに集計し、**小数点以下の端数を切り捨てた整数値**を入力してください。
-  使用実績が無い月は、その月全体を空欄にしてください。「0」を入力すると、エラーとなります。

⑨ 密度(g/cm³)※

- 燃原料購入先の成績表などの数値を利用して、**小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値**を入力してください。

⑩ 含有硫黄分(%)※

- 燃原料購入先の成績表などの数値を利用して、**小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値**を入力してください。
- 燃原料の硫黄分が硫黄化合物の場合は、硫黄分に換算してください。(18ページ)
- 硫黄分の分析データが無い場合は、**標準的硫黄分一覧** (73ページ) の数値を使用してください。
- 含有硫黄分の単位は、それぞれ下記のとおりです。
液体の場合 (l 又は kg) : 質量% 固体の場合 (kg) : 質量% 気体の場合 (m³/h) : 容量%

※「密度」「含有硫黄分」計算時の留意点

- 自社測定によらざるを得ない場合は、理由・測定方法・測定者・測定データを明記した書類を添付してください。
- 同じ月に密度や含有硫黄分が異なる燃原料を使用した場合は、それぞれの成績表などの数値を使用して加重平均した値を入力してください。また、その場合**加重平均一覧表**を作成し、添付してください。(39ページ)

⑪ 補正後の脱硫効率(%)

- 脱硫装置を使用している場合、または燃原料など硫黄分が吸収または残留する場合には**E様式**を作成し、E様式中の「2. (4) ⑦補正後の脱硫効率」の数値を入力してください。

⑫ SOx排出量(m³/h)

- 月ごとのSOx排出量を計算し、**小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値**を入力してください。(18ページ)
-  ⑧~⑪を入力すると、自動的に計算されます。

⑬ 年間使用量

-  各月を入力すると、自動的に計算されます。
-  1月~12月の使用量の合計を記入してください。

⑭ 年間SOx排出量(m³/h)

-  各月のSOx排出量が、自動的に合計されます。
-  1月~12月のSOx排出量を合計し、**小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値**を記入してください。

算定様式（A様式）の作りかた

「合計使用」で入力する場合（燃原料の硫黄分が0.01%未満）

都市ガス、LPG、軽油、灯油などで硫黄分が0.01%未満の燃原料を使用している場合は、右記のように「年間計」のみ入力してください。

- ④ 入力方式は、「合計使用」を選択してください。（14ページ）
- ⑤ 年間合計欄のみ記入してください。

入力方式

- ☐ 各月使用
- ☒ 合計使用

The screenshot shows the software interface with the '合計使用' (Total Use) radio button selected. Below it, a table displays the annual summary data for the selected facility.

月	使用量	密度	含有硫黄分	補正後の脱硫効率	SOx排出量
1月					
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
年間計	5,219,250				11,289.8

各月の記入欄には、何も入力しません。

ボタン操作のしかた

20XX年度汚染負荷量賦課金

年間排出量の算定の過程を示す書類（A）

①賦課金番号 工場・事業場名 ②No. A-02 校目
03309012 青空工業(株)仙台工場 05 全校数

③燃原料の種類 C重油 入力方式
④使用量の単位 L ☒ 各月使用 ☐ 合計使用

⑤施設名 ボイラー ☐ 脱硫の有無
☐ 無 ☒ 排煙脱硫
☐ 集じん等脱硫 ☐ 製品等脱硫

⑦使用年月 XX年	⑧使用量	⑨密度 g/cm ³	⑩含有硫黄分 %	⑪補正後の 脱硫効率 %	⑫SOx排出量 mgN
1月	440,588	0.944	2.28	84.54	1,026.2
2月	461,324	0.944	2.25	84.54	1,060.3
3月	480,718	0.946	2.23	85.13	1,055.5
4月	499,663	0.945	2.26	85.13	1,110.7
5月	500,841	0.944	2.17	85.89	1,013.3
6月	501,032	0.940	2.22	85.89	1,032.6
7月	480,305	0.941	2.30	86.12	1,010.0
8月	368,274	0.941	2.34	86.12	787.8
9月					0.0
10月	480,392	0.938	2.32	85.78	1,040.6
11月	499,457	0.942	2.34	85.92	1,085.0
12月	506,656	0.942	2.27	85.92	1,067.8
年間計	⑩年間使用量 5,219,250				⑫年間SOx排出量 11,289.8

入力チェック 算定様式の追加 算定様式の削除 印刷 エクセル保存

前年度データ複写 終了

A様式_5 A様式_4 A様式_3 A様式_2 A様式_1

④ 算定様式の追加をすると、ワークシートが追加されます。

● ワークシートの名称は、変更しないでください。変更するとデータを正しく処理できません。

「合計使用」の場合は、「年間計」のみ入力します。

	㊦年間使用量			㊧年間SOx排出量
年間計	10,000	0.795	0.00	0.0

1年間の使用量を
入力する。

密度は、代表的な
数値を入力する。

含有硫黄分は、
「0.00」と入力する。

燃原料の含有硫黄分が0.01%未満のため、
年間SOx排出量は「0.0」となります。

㊦ 自動的に「0.0」と入力されます。

㊧ 「0.0」と記入してください。

前年度データ複写

㊦ 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。（複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です）

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
2. 前年度に提出したA様式のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。

- 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。
Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。（オンライン申告の場合は、印刷不要です。）

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようとすると、メッセージが表示されることがあります。
そのときは、変更を保存して署名を破棄するを選んでファイルを保存してください。（5ページ）
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

A

算定様式

● 算定様式（A様式）の作りかた

算定様式 (A 様式) の作りかた

「⑫ SOx 排出量 (m³/月)」の計算のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を入力してください。

① 固体燃原料使用の場合

計算式 ⑫ SOx 排出量 (m³/月) = ⑧ 使用量 (kg) × $\frac{\text{⑩ 含有硫黄分 (\%)}}{100}$ × $\frac{22.4}{32}$

② 液体燃原料使用の場合

計算式 ⑫ SOx 排出量 (m³/月) = ⑧ 使用量 (ℓ) × ⑨ 密度 (g/cm³) × $\frac{\text{⑩ 含有硫黄分 (\%)}}{100}$ × $\frac{22.4}{32}$

③ 気体燃原料使用の場合

計算式 ⑫ SOx 排出量 (m³/月) = ⑧ 使用量 (m³) × $\frac{\text{⑩ 含有硫黄分 (\%)}}{100}$

● 脱硫ありの場合

計算式 ⑫ SOx 排出量 (m³/月) = 脱硫無しの SOx 排出量 (①、②または③の計算値) × $\left\{ 1 - \frac{\text{⑪ 補正後の脱硫効率 (\%)}}{100} \right\}$

例：液体燃料使用・脱硫ありの場合

③ 燃原料の種類	⑧ 使用量	⑨ 密度 (g/cm³)	⑩ 含有硫黄分 (%)	⑪ 補正後の脱硫効率 (%)
C 重油	440,588 ℓ	0.944 g/cm³	2.28%	84.54%

計算の例

$$\begin{aligned} \text{⑫ SOx 排出量 (m³/月)} &= \text{⑧ 使用量 (ℓ)} \times \text{⑨ 密度 (g/cm³)} \times \frac{\text{⑩ 含有硫黄分 (\%)}}{100} \times \frac{22.4}{32} \times \left\{ 1 - \frac{\text{⑪ 補正後の脱硫効率 (\%)}}{100} \right\} \\ &= 440,588 \times 0.944 \times \frac{2.28}{100} \times \frac{22.4}{32} \times \left\{ 1 - \frac{84.54}{100} \right\} \\ &= 1,026.23 \text{ m³/月} \end{aligned}$$

硫黄化合物分析値の含有硫黄分 (%) への換算のしかた (例)

① 分析値が SO₃ の場合

計算式

$$\begin{aligned} \text{含有硫黄分 (\%)} &= \frac{\text{SO}_3 \text{ 値 (\%)}}{\text{SO}_3} \times \frac{S}{32} \\ &= \frac{\text{SO}_3 \text{ 値 (\%)}}{\text{SO}_3} \times \frac{32}{80} \end{aligned}$$

② 分析値が H₂S の場合

● 分析値の単位が「重量%」

計算式

$$\begin{aligned} \text{含有硫黄分 (\%)} &= \frac{\text{H}_2\text{S 値 (\%)}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{S}{32} \times \text{換算係数}^* \\ &= \frac{\text{H}_2\text{S 値 (\%)}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{32}{34} \times \text{換算係数}^* \end{aligned}$$

● 分析値の単位が「g/m³」

計算式

$$\begin{aligned} \text{含有硫黄分 (\%)} &= \frac{\text{H}_2\text{S 値 (g/m³)}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{S}{32} \times \frac{22.4}{1000} \times \text{換算係数}^* \times 100 \\ &= \frac{\text{H}_2\text{S 値 (g/m³)}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{32}{34} \times \frac{22.4}{1000} \times \text{換算係数}^* \times 100 \end{aligned}$$

※換算係数は、実測により求めてください。

算定様式（B様式）の作りかた

算定様式（B様式）とは

燃原料の使用量および含有硫黄分などを正確に把握することが困難なため、排出ガス測定によって硫黄酸化物（SOx）の排出量を求める場合に使用する様式です。

- 排出ガス測定の頻度は
→原則2か月に1回以上測定してください。
- 測定する項目は
→各回ごとに排出ガス量、SOx濃度、O₂濃度を測定することが必要です。
- 必要な添付書類について
→B様式に入力する排出ガス量およびSOx濃度を明らかにするために**b様式**を作成し、提出してください。（60ページ）
- 燃原料の使用量および含有硫黄分などを正確に把握できる場合は
→B様式は使用せず、**A様式**で算定してください。
- 脱硫装置のある施設で、測定適用期間において、脱硫装置の稼働時間が施設の稼働時間と異なる場合は
→脱硫装置の稼働時と停止時に分けて排出ガス測定を行い、個々にB様式を作成してください。

作成時の留意点

Excel雛型ファイルに入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例：

年間排出量の算定の過程を示す書類（B）

工場・事業場名	工場・事業場名は、半角 100 (または、全角 50)文字以下で 入力して下さい。
---------	---

Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず**入力チェック**をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。（23ページ）
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

用紙申告する際の留意点

- 3枚1組の複写式となっていますので、黒のボールペンではっきり記入してください。
- B様式が不足する場合は、商工会議所か機構に連絡し、入手してください。

算定様式（B様式）の作りかた

① 賦課金番号

- 申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

🌐📄 入力方式を選んでください。

- 通常は「一般用」を選択してください。
- 「積算計使用」は、SO₂濃度を連続測定し、月ごとのSO_x量の積算値で申告する場合のみ使用してください。（この場合も、「⑩補正排出ガス量」、「⑪補正SO_x濃度」、「⑫稼働時間」は可能な限り入力してください。）

② No.

- B様式の全使用枚数と通し番号です。
この例では、全5枚のうちの1枚目であることを表します。

🌐📄 Excel雛型ファイルで様式を追加することにより、自動的にNo.が付与されます。

④ 脱硫の有無

- 脱硫がない場合は「無」、脱硫がある場合は、該当する脱硫方式を選択してください。（複数選択可）

（排出ガス測定により求める場合）

20XX年度汚染負荷量賦課金 年間排出量の算定の過程を示す書類（B）

① 賦課金番号

00233010

工場・事業場名

（株）自神製紙 秋田工場

② No.

B-01 枚目
05 全校数

④ 脱硫の有無

- ☐ 無
☐ 排煙脱硫
☒ 集じん等脱硫
☒ 製品等脱硫

③ 施設名 1号 黒液回収ボイラー

☒ 一般用

☐ 積算計使用

⑤ 年月	⑥ 燃料原料の種類 種類 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	⑥ 使用量	⑥ 単位	⑥ 密度	⑥ 含有硫黄分	⑥ 補正排出ガス量	⑥ 補正SO _x 濃度	⑥ 稼働時間	⑥ SO _x 排出量
年	月	kg	L	g/cm ³	%	m ³ /h	ppm	h	m ³
20XX	1	8,805,988	kg		1.58	88,480	158	720	7,891.8
	2	8,228,158	kg		1.58	71,820	188	872	7,988.3
	3	8,700,805	kg		1.58	75,840	180	744	9,004.1
	4	10,142,078	kg		1.58	80,880	154	720	8,969.0
	5	8,873,888	kg		1.58	78,420	182	744	9,451.8
	6	8,894,124	kg		1.58	78,170	173	720	9,738.8
	7	8,830,541	kg		1.58	75,580	158	521	6,221.5
	8	2,824,849	kg		1.58	77,500	147	223	2,540.5
	9	10,019,408	kg		1.58	79,910	188	720	9,885.8
	10	10,124,518	kg		1.58	78,450	153	744	8,930.1
	11	10,273,851	kg		1.58	81,940	173	720	10,208.4
	12	8,348,475	kg		1.58	72,880	154	879	7,587.7
年間計	黒液	104,988,857	kg						98,004.7

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

終了

B様式_5 B様式_4 B様式_3 B様式_2 B様式_1

🌐📄 操作のしかたは、22ページをご覧ください。

③ 施設名

- 「ボイラー」など、排出ガス測定の対象となる全ての施設の名称を入力してください。

⑤ 年月 (入力済みです)

⑥ 燃原料の種別

- 実際に使用している燃原料の名称を選択してください。
- 実際に使用している燃原料の名称を記入してください。
燃原料のコードは、**燃原料コード表** (73ページ) から選択し、記入してください。
- 3種類以上の燃原料を使用する施設については、年間を通して硫黄酸化物 (SOx) を排出する主な燃原料を2種類選択し、入力してください。

⑦ 使用量

- 燃原料の使用量を各月ごとに集計し、**小数点以下の端数を切り捨てた整数値**を入力してください。
- 使用実績が無い月は、その月全体を空欄にしてください。「0」を入力すると、エラーとなります。

単位

- 使用する燃原料に応じて、該当する単位を選択してください。(kl や t は使用しないでください)
液体の場合: l 又は kg 固体の場合: kg 気体の場合: m³/h 又は kg

⑧ 密度 (g/cm³) ※

- 燃原料購入先の成績表などの数値を利用して、**小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値**を入力してください。

⑨ 含有硫黄分 (%) ※

- 燃原料購入先の成績表などの数値を利用して、**小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値**を入力してください。
- 硫黄分の分析データが無い場合は、**標準的硫黄分一覧** (73ページ) の数値を使用してください。
- 含有硫黄分の単位は、それぞれ下記のとおりです。
液体の場合 (l 又は kg) : 質量% 固体の場合 (kg) : 質量% 気体の場合 (m³/h) : 容量%

※「密度」「含有硫黄分」計算時の留意点

- 自社測定によらざるを得ない場合は、理由・測定方法・測定者・測定データを明記した書類を添付してください。
- 同じ月に密度や含有硫黄分が異なる燃原料を使用した場合は、それぞれの成績表の数値を使用して加重平均した値を入力してください。(39ページ)

⑩ 補正排出ガス量 (m³/h)

- b様式の「4.⑩補正排出ガス量」(62～65ページ) で算定した補正排出ガス量を入力してください。

⑪ 補正 SOx 濃度 (ppm)

- b様式の「4.⑪補正 SOx 濃度」(62～65ページ) で算定した補正 SOx 濃度を入力してください。

⑫ 稼働時間 (h)

- 当該施設が1か月間に稼働していた時間 (**1時間未満は切り捨て**) を入力してください。

⑬ SOx 排出量 (m³/h)

- 「一般用」で入力する場合：

下記の計算式で SOx 排出量を計算し、**小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値**を入力してください。

$$\boxed{\text{⑬ SOx 排出量 (m}^3\text{/h)}} = \boxed{\text{⑩補正排出ガス量 (m}^3\text{/h)}} \times \boxed{\text{⑪補正 SOx 濃度 (ppm)}} \times 10^{-6} \times \boxed{\text{⑫稼働時間 (h)}}$$

- 「積算計使用」で計算する場合：

SO₂ 濃度を連続測定し、月ごとの SOx 量の積算値で申告する場合は、SOx 量に換算した値を **小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値**にして入力してください。

- ⑩～⑫を入力すると、自動的に計算されます。

⑭ 年間使用量

- 各月を入力すると、自動的に計算されます。
- 1月～12月の使用量の合計を記入してください。

⑮ 年間 SOx 排出量 (m³/h)

- 各月の SOx 排出量が、自動的に合計されます。
- 1月～12月の SOx 排出量の合計を記入してください。

算定様式（B様式）の作りかた

ボタン操作のしかた

(排出ガス測定により求める場合)

20XX年度汚染負荷量賦課金
年間排出量の算定の過程を示す書類（B）

①賦課金番号 工場・事業場名 ②No.

00233010 (株)白神製紙 秋田工場 B-01 校目
05 全校数

④脱硫の有無
☐ 無
☒ 排煙脱硫
☒ 集じん等脱硫
☒ 製品等脱硫

③施設名 1号 黒液回収ボイラー ●一般用 ○核算計使用

⑤年月	⑥燃原料の種類 種別 その他名称	⑦使用量	単位	⑧密度 g/cm ³	⑨含有硫 黄分 %	⑩補正排出 ガス量 m ³ N/h	⑪補正 SO _x 濃度 ppm	⑫稼働 時間 h	⑬SO _x 排出量 m ³ N
20XX年	黒液	8,805,988	kg		1.58				
1月	黒液	8,228,158	kg		1.58	88,480	158	720	7,891.8
2月	黒液	8,700,805	kg		1.58	71,820	188	872	7,888.3
3月	黒液	10,142,078	kg		1.58	75,840	180	744	8,004.1
4月	黒液	8,873,988	kg		1.58	80,890	154	720	8,969.0
5月	黒液	8,894,124	kg		1.58	78,420	182	744	9,451.8
6月	黒液	8,830,541	kg		1.58	78,170	173	720	9,738.8
7月	黒液	2,824,849	kg		1.58	75,580	158	521	6,221.5
8月	黒液	10,019,408	kg		1.58	77,500	147	223	2,540.5
9月	黒液	10,124,518	kg		1.58	79,910	188	720	9,685.9
10月	黒液	10,273,851	kg		1.58	78,450	153	744	8,930.1
11月	黒液	8,349,475	kg		1.58	81,940	173	720	10,206.4
12月	黒液		L			72,680	154	879	7,597.7
年間計	黒液	104,988,857							⑬年間SO _x 排出量 m ³ N 88,004.7

入力チェック 算定様式の追加 算定様式の削除 印刷 エクセル保存

前年度データ複写 終了

B様式_5 B様式_4 B様式_3 B様式_2 B様式_1

④ 算定様式の追加をすると、ワークシートが追加されます。

● ワークシートの名称は、変更しないでください。変更するとデータを正しく処理できません。

前年度データ複写

🌐 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。（複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です）

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
2. 前年度に提出したB様式のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。

- 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。
Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。（オンライン申告の場合は、印刷不要です。）

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようとする、とメッセージが表示されることがあります。
そのときは、変更を保存して署名を破棄するを選んでファイルを保存してください。（5ページ）
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

作成時の留意点

Excel雛型ファイルを入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目(セル)が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ(,)は、自動で表示されます。(例:「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。)
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例: 年間排出量の算定の過程を示す書類(C)

工場・事業場名	工場・事業場名は、半角 100 (または、全角 50)文字以下で 入力して下さい。	②施設名
---------	---	------

Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず**入力チェック**をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。(28ページ)
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

用紙申告する際の留意点

- 3枚1組の複写式となっていますので、黒のボールペンではっきり記入してください。
- C様式が不足する場合は、商工会議所が機構に連絡し、入手してください。

③No. C- 01 - 01 現枚数 04 全枚数			④脱硫の種類 ☐ 排煙脱硫 ☐ 集じん等脱硫
⑤硫黄量(2) Kg	⑥補正後の 脱硫効率 %	⑦SO _x 排出量 m ³ N	
301,883			
301,883		84,838.6	
334,510			

印刷

エクセル保存

終了

③ No.

- 施設の通し番号と、施設ごとの全使用枚数・通し番号です。
下記の例では、施設「01」で使用する、全4枚のうちの1枚目であることを表します。

施設の通し番号	施設ごとの通し番号
③No. C- 01 - 01 現枚数	04 全枚数
施設ごとの全使用枚数	

- Excel雛型ファイルでワークシートを追加することにより、自動的に施設ごとの通し番号および使用枚数が付与されます。
- 「施設の通し番号」は、手動で入力してください。

④ 脱硫の種類

- 排煙脱硫・集じん等脱硫を行っている場合は、該当する項目を選択してください。(複数選択可)
- 製品等脱硫のみの場合は、何も選択しないでください。

入力のしかたは、26ページをご覧ください。

操作のしかたは、28ページをご覧ください。

算定様式（C様式）の作りかた

小計

- SOx排出量の算定は、必ず月別に小計欄を設けてください。（小計作成のしかたは、29ページをご覧ください。）
なお、月の途中で次の様式（ワークシート）にまたがって入力しても差し支えありません。
- ☞ 月の間を太い線で区切る、1行あけるなどして、月ごとの区別が明確になるようにしてください。（右記参照）
- ☞ 月内の「⑩硫黄量(1)」「⑭硫黄量(2)」「⑯SOx排出量」を合計し、それぞれ入力してください。
- 排煙脱硫や集じん等脱硫がある場合は、「⑮補正後の脱硫効率」も入力してください。（27ページ）

例：
月の間を
太い線で
区切る

1月	鉄原料	814
	C重油	015
小計		
	石灰石	814
2月	粘土	814

年度	施設名	工場・事業場名	賦課金番号	年間排出量の算定の過程を示す書類（C）
20XX	1号セメント焼成キルン	(株) 堅井セメント 小諸工場	03586011	

⑤ 年月

- 月の数字を入力してください。（例：1月→「1」と入力する）

⑥ 燃原料の種別

- 燃原料の具体的な名称（例：セメント原料の場合は、「石灰石」「粘土」「珪石」など）を入力してください。
- コード欄には、燃原料コード表（73ページ）から該当する番号を選び、入力してください。
（例：セメント原料用石灰は「コード91」、その他セメント原料は「コード84」となります。）

⑦ 装入量

- 「⑥燃原料の種別」に入力した燃原料のそれぞれの装入量（使用量）を月別に整理して小数点以下の端数を切り捨てた整数値を入力してください。
使用する燃原料に応じて、該当する単位を選択してください。（kl やtは使用しないでください）
液体の場合：ℓ 又は kg 固体の場合：kg 気体の場合：m³ 又は kg

⑧ 密度 (g/cm³) *

- 燃原料購入先の成績表などの数値を利用して、小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値を入力してください。

（Sバランスにより求める場合）

20XX年度汚染負荷量賦課金

年間排出量の算定の過程を示す書類（C）

① 賦課金番号
03586011

工場・事業場名
(株) 堅井セメント 小諸工場

② 施設名
1号セメント焼成キルン

⑤年月 XX年	⑥燃料原料の種別 名称		⑦装入量	単位	⑧密度 g/cm3	⑨含有硫黄分 %	⑩硫黄量(1) Kg	⑪製品等 の種別 名称	⑫産出量 kg	⑬含有硫 黄分 %	
	1	石灰石	84	164,026,891	kg	▼	0.006	9,841	クリンカー	125,701,633	0.240
	1	粘土	84	27,991,830	kg	▼	0.444	124,283			
	1	珪石	84	8,109,766	kg	▼	0.013	1,054			
	1	鉄原料	84	4,708,905	kg	▼	0.328	15,445			
	1	C重油	05	19,087,358	L	▼	0.944	9,990	979,958		
小計					▼		422,881				
	12	石灰石	84	182,635,737	kg	▼	0.005	9,131	クリンカー		
	12	粘土	84	31,167,502	kg	▼	0.476	148,357			
	12	珪石	84	9,029,819	kg	▼	0.015	1,354			
	12	鉄原料	84	5,243,130	kg	▼	0.272	14,261			
	12	C重油	05	13,436,397	L	▼	0.943	2,410	305,359		
小計					▼		478,462				
合計					▼		5,272,856				
				kg	▼						

※「密度」「含有硫黄分」計算時の留意点

- 自社測定によらざるを得ない場合は、理由・測定方法・測定者・測定データを明記した書類を添付してください。
- 同じ月に密度や含有硫黄分が異なる燃原料を使用した場合は、それぞれの成績表などの数値を使用して加重平均した値を入力してください。また、その場合**加重平均一覧表**を作成し、添付してください。（39ページ）

⑨ 含有硫黄分 (%)※

- 原料の含有硫黄分については**小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値**を入力してください。
- 燃料の含有硫黄分については燃料購入先の成績表などの数値を利用して、**小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値**を入力してください。
- 硫黄化合物分析値については、含有硫黄分 (%) に表示できるように換算してください。（30ページ）
- 燃原料の硫黄分が硫黄化合物の場合は、含有硫黄分 (%) に換算してください。（30ページ）
- 硫黄分の分析データが無い場合は、**標準的硫黄分一覧**（73ページ）の数値を使用してください。
- 含有硫黄分の単位は、それぞれ下記のとおりです。

液体の場合 (ℓ 又は kg) : 質量% 固体の場合 (kg) : 質量% 気体の場合 (m³/ℓ) : 容量%

⑩ 硫黄量(1)(kg)

- 硫黄量(1)を算定してください。（計算のしかたは、30ページをご覧ください。）
- ⑩⑪⑫⑬を入力すると、自動的に計算されます。

⑪ 製品等の種別

- 燃原料の含有硫黄分が吸収または残留する製品など（例：鉄、セメントクリンカー、ガラス、スラグなど）の名称を、具体的に入力してください。

⑫ 産出量

- 製品などのそれぞれの産出量を月別に整理して**小数点以下の端数を切り捨てた整数値**を入力してください（単位：kg）。なお、産出量の把握は、装入量の把握方法とバランスのとれた方法で行ってください。

⑬ 含有硫黄分 (%)※

- 製品などの含有硫黄分を**小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値**にして入力してください。
- その他の計算時の留意点は、「⑨含有硫黄分 (%)」と同様です。

⑭ 硫黄量(2)(kg)

- 硫黄量(2)を算定してください。（計算のしかたは、30ページをご覧ください。）
- ⑭⑮⑯を入力すると、自動的に計算されます。

⑮ 補正後の脱硫効率 (%)

- 排煙脱硫や集じん等脱硫がある場合は、**E様式**を作成し、E様式中の「2. (4) ⑦補正後の脱硫効率」の数値を小計欄に入力してください。（49, 51, 53 ページ）
- この欄には、
$$\text{製品等脱硫効率} = \left\{ \frac{\text{硫黄量(2)}}{\text{硫黄量(1)}} \times 100 \right\}$$
を入力する必要はありません。

⑯ SOx排出量 (m³/ℓ)

- 月別に求めた「⑩硫黄量(1)」および「⑭硫黄量(2)」の値から算定し、小計欄に**小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値**を入力してください。（計算のしかたは、30ページをご覧ください。）
- ⑯月ごとの小計欄を作成すると、自動的に計算されます。
- 「⑩硫黄量(1)」-「⑭硫黄量(2)」≤0の場合は、「0.0」としてください。

合計 [年間SOx排出量 (m³/ℓ)]

- 最終月の小計欄の下（最下行）に年間の合計欄を設けてください。（合計作成のしかたは、29ページをご覧ください。）
- 1月～12月の「⑩硫黄量(1)」、「⑭硫黄量(2)」、「⑯SOx排出量」について、それぞれ年間の合計値を入力してください。
- ⑯各月の数値を入力すると、自動的に計算されます。

③ No.		④ 脱硫の種類	
C-	01	01 現枚数	☐ 排煙脱硫
	04 全枚数		☐ 集じん等脱硫
⑩ 硫黄量(2)		⑮ 補正後の脱硫効率	⑯ SOx排出量
Kg		%	m ³ /ℓ
301,683			
301,683			84,838.6
334,510			100,766.4
3,721,728			10,857,896.0

算定様式（C様式）の作りかた

ボタン操作のしかた

（Sバランスにより求める場合）

20XX年度汚染負荷量賦課金
 年間排出量の算定の過程を示す書類（C）

①賦課金番号
 03586011

工場・事業場名
 （株）堅井セメント 小諸工場

②施設名
 1号セメント焼成キルン

⑤年月 XX年	⑥燃原料の種類 名称	⑦装入量 t	単位	⑧密度 g/cm ³	⑨含有硫黄分 %	⑩硫黄量(1) Kg	⑪製品等 の種類 名称	⑫産出量 kg	⑬含有硫 黄分 %
	1 石灰石	84	164,026,891 kg		0.006	9,841	クリンカー	125,701,633	0.240
	1 粘土		kg		0.444	124,283			
			kg			1,054			
			kg						
			kg						
			kg						

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

小計作成

合計作成

取り消し

前年度データ複写

入力行の追加

入力行の削除

小計再計算

C様式_4 | C様式_3 | C様式_2 | C様式_1

+

入力行の追加

選んだ行の上に、入力行を1行追加します。

入力行の削除

選んだ行を1行削除します。

小計再計算

小計を再度計算しなおします。

🌐 算定様式の追加をすると、ワークシートが追加されます。

● ワークシートの名称は、変更しないでください。変更するとデータを正しく処理できません。

前年度データ複写

🌐 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。（複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です）

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
2. 前年度に提出したC様式のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。

● 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

③ No. C- 01 - 01 現枚数 04 全枚数

④ 脱硫の種類
☐ 排煙脱硫
☐ 集じん等脱硫

⑤ 硫黄量(2)	⑥ 補正後の脱硫効率	⑦ SO _x 排出量
Kg	%	m ³ N
301,683		

印刷 エクセル保存 終了

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

お知らせ

- 算定様式の削除をクリックすると、最終ページの算定様式が削除されます。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。
 (オンライン申告の場合は、印刷不要です。)

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようすると、メッセージが表示されることがあります。
 そのときは、**変更を保存して署名を破棄する**を選んでファイルを保存してください。(5ページ)
- C様式については、複数の施設があり様式を別にして算定する場合は、次のとおりファイル名の後に様式番号を追加して保存してください。
 例：「30C様式1」、「30C様式2」
 それ以外の場合、アップロードできなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

小計作成

選んだセルの行に、月ごとの小計欄を作成します。

合計作成

選んだセルの行に、年間の合計欄を作成します。

取り消し

作成した小計欄／合計欄を取り消します。

ご注意

- 年間の合計欄よりも下の行(セル)にデータを追加で入力すると、エラーとなり入力されません。
 データを追加するときは、**取り消し**をクリックして合計欄を削除してから入力してください。

算定様式（C様式）の作りかた

硫黄化合物分析値の硫黄分（％）への換算のしかた（例）

① 分析値がSO₃の場合

計算式

$$\begin{aligned}\text{含有硫黄分（％）} &= \frac{\text{SO}_3 \text{ 値（％）}}{\text{SO}_3} \times \frac{S}{32} \\ &= \frac{\text{SO}_3 \text{ 値（％）}}{\text{SO}_3} \times \frac{32}{80}\end{aligned}$$

② 分析値がH₂Sの場合

● 分析値の単位が「重量％」

計算式

$$\begin{aligned}\text{含有硫黄分（％）} &= \frac{\text{H}_2\text{S 値（％）}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{S}{32} \times \text{換算係数}^{\ast} \\ &= \frac{\text{H}_2\text{S 値（％）}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{32}{34} \times \text{換算係数}^{\ast}\end{aligned}$$

● 分析値の単位が「g/m³」

計算式

$$\begin{aligned}\text{含有硫黄分（％）} &= \frac{\text{H}_2\text{S 値（g/m}^3\text{）}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{S}{32} \times \frac{22.4}{1000} \times \text{換算係数}^{\ast} \times 100 \\ &= \frac{\text{H}_2\text{S 値（g/m}^3\text{）}}{\text{H}_2\text{S}} \times \frac{32}{34} \times \frac{22.4}{1000} \times \text{換算係数}^{\ast} \times 100\end{aligned}$$

※換算係数は、実測により求めてください。

「⑩硫黄量（1）（kg）」の計算のしかた

① 固体燃原料の場合

計算式

$$\text{⑩硫黄量（1）（kg）} = \text{⑦装入量（kg）} \times \frac{\text{⑨含有硫黄分（％）}}{100}$$

② 液体燃原料の場合

計算式

$$\text{⑩硫黄量（1）（kg）} = \text{⑦装入量（ℓ）} \times \text{⑧密度（g/cm}^3\text{）} \times \frac{\text{⑨含有硫黄分（％）}}{100}$$

③ 気体燃原料の場合

計算式

$$\text{⑩硫黄量（1）（kg）} = \text{⑦装入量（m}^3\text{）} \times \frac{\text{⑨含有硫黄分（％）}}{100} \times \frac{32}{22.4}$$

「⑭硫黄量（2）（kg）」の計算のしかた

計算式

$$\text{⑭硫黄量（2）（kg）} = \text{⑫産出量（kg）} \times \frac{\text{⑬含有硫黄分（％）}}{100}$$

「⑯SO_x排出量（m³）」の計算のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を入力してください。

① 製品等脱硫の場合

計算式

$$\text{⑯ SO}_x \text{ 排出量（m}^3\text{）} = [\text{⑩硫黄量（1）（kg）} - \text{⑭硫黄量（2）（kg）}] \times \frac{22.4}{32}$$

② 排煙または集じん等脱硫のある場合

計算式

$$\text{⑯ SO}_x \text{ 排出量（m}^3\text{）} = [\text{⑩硫黄量（1）（kg）} - \text{⑭硫黄量（2）（kg）}] \times \frac{22.4}{32} \times \left(1 - \frac{\text{⑮補正後の脱硫効率（％）}}{100} \right)$$

算定様式（D様式）の作りかた

算定様式（D様式）とは

地方公共団体等の清掃工場などが廃棄物を焼却する際に発生する硫黄酸化物（SOx）の排出量を算定する場合に使用します。

D様式(a)

廃棄物などの含有硫黄分によって算定する場合は**D様式(a)**で算定してください。(32ページ)

- 脱硫装置などを使用し、脱硫効率を適用する場合は
→**E様式**も作成し、提出してください。(46ページ)
- 焼却の際に、1年間で密度や含有硫黄分の異なる助燃剤を使用した場合は
→それぞれの成績表などの数値を使用して加重平均した値を入力してください。
また、その場合**加重平均一覧表**を作成し、提出してください。(39ページ)

D様式(b)

排出ガス測定によって算定する場合は、**D様式(b)**で算定してください。(34ページ)

- 必要な添付書類について
→D様式(b)に入力する排出ガス量およびSOx濃度を明らかにするために**b様式**を作成し、提出してください。(60ページ)
- 排出ガス測定の頻度は
→原則2か月に1回以上測定してください。
- 測定する項目は
→各回ごとに排出ガス量、SOx濃度、O₂濃度を測定することが必要です。
- 焼却の際に、1年間で密度や含有硫黄分の異なる助燃剤を使用した場合は
→それぞれの成績表などの数値を使用して加重平均した値を入力してください。
また、その場合**加重平均一覧表**を作成し、提出してください。(39ページ)

作成時の留意点

Excel雛型ファイルに入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例：

年間排出量の算定の過程を示す書類（D）	
工場・事業場名	工場・事業場名は、半角 100 (または、全角 50)文字以下 で入力して下さい。
	(2)No. D- 01 01

Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず**入力チェック**をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。(37ページ)
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

用紙申告する際の留意点

- 3枚1組の複写式となっていますので、黒のボールペンではっきり記入してください。
- D様式が不足する場合は、商工会議所か機構に連絡し、入手してください。

算定様式(D様式)の作りかた

D様式(a)(廃棄物の焼却量と含有硫黄分より算定する場合)

(1) 賦課金番号

- 申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

(2) No.

- D様式の全使用枚数と通し番号です。
この例では、全2枚のうちの2枚目であることを表します。

Excel雛型ファイルでシートを追加すると、自動的にNo.が付与されます。

(12)a. 廃棄物の硫黄分より算定する場合

ラジオボタン(●)をクリックして選択してください。

(11) 廃棄物の種類

実際に焼却している廃棄物の名称を選択してください。

「その他の廃棄物」を選択すると、廃棄物の「具体名」を入力する欄が自動的に表示されます。

該当の番号に○、または実際に焼却している廃棄物の名称を記入してください。

燃原料のコードは、燃原料コード表(73ページ)から選び、記入してください。

操作のしかたは、36ページをご覧ください。

(廃棄物を焼却する清掃工場の場合)

20XX年度汚染負荷量賦課金

年間排出量の算定の過程を示す書類(D)

(1) 賦課金番号: 08041010

工場・事業場名: 大手町 西焼却場

(2) No.: D-02

(3) 脱硫の有無: ☒ 無 ☐ 排煙脱硫 ☐ 集じん等脱硫

種別	(5) 焼却年月	(6) 焼却量	単位	(7) 密度	(8) 含有硫黄分	(9) 補正後の脱硫効率	(10) SO ₂ 排出量
(4) 助燃剤等				g/cm ³	%	%	m ³ N
A重油	1月~12月	144,618	L	0.879	0.92		818.6
			L				0.0

XX年

(12) a. 廃棄物の硫黄分より算定する場合

月	焼却量	単位
1月	1,178,000	kg
2月	1,040,000	kg
3月	1,599,000	kg
4月	1,904,000	kg
5月	1,119,000	kg
6月	1,348,000	kg
7月	1,481,000	kg
8月	1,408,000	kg
9月	1,378,000	kg
10月	1,513,000	kg
11月	1,418,000	kg
12月	1,442,000	kg
年間焼却量	16,822,000	kg

(11) 廃棄物の種類: ○ (17) b. 排気ガス測定する場合

(18) 焼却年月	(19) 焼却量	(20) 補正排出ガス量	(21) 補正SO ₂ 濃度	(22) 測定中の焼却量	(23) 1t当たりのSO ₂ 量	(24) 年間SO ₂ 排出量
XX年	kg	m ³ N/h	ppm	kg/h	m ³ N/t	m ³ N
1月					0.000	
2月					0.000	
3月					0.000	
4月					0.000	
5月					0.000	
6月					0.000	
7月					0.000	
8月					0.000	
9月					0.000	
10月					0.000	
11月					0.000	
12月					0.000	
年間焼却量					0.000	

(14) 含有硫黄分: 0.03%

(15) 補正後の脱硫効率: %

(16) 年間SO₂排出量: 3,532.6 m³N

(27) SO₂排出量の合計 ((10)+(16)+(26)): 4,351.2 m³N

(26) 年間SO₂排出量 ((24) × (25))

(25) 平均値: 0.000 m³N

入力チェック 算定様式の追加 算定様式の削除 印刷 エクセル保存

前年度データ複写 終了

D様式_2 D様式_1

(3) 脱硫の有無

- 脱硫がない場合は「無」、脱硫がある場合は、該当する脱硫方式を選択してください。(複数選択可)

(4) 助燃剤等

- ☐ 実際に使用している助燃剤の名称を選択してください。
- ☐ 実際に使用している助燃剤の名称を記入してください。
助燃剤のコードは、燃原料コード表(73ページ)から選び、記入してください。

(5) 焼却年月

- 焼却した期間を、月単位で入力してください。(例：1月～12月)

(6) 焼却量

- 助燃剤の焼却量を、小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力してください。

単位

- 助燃剤に応じて、単位を選択してください。

(7) 密度 (g/cm³) ※

- 助燃剤購入先の成績表などの数値を利用して、小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値を入力してください。

(8) 含有硫黄分 (%) ※

- 助燃剤購入先の成績表などの数値を利用して、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値を入力してください。
- 硫黄分の分析データが無い場合は、標準的硫黄分一覧(73ページ)の数値を使用してください。

※「密度」「含有硫黄分」計算時の留意点

- 自社測定によらざるを得ない場合は、理由・測定方法・測定者・測定データを明記した書類を添付してください。
- 1年間で密度や含有硫黄分が異なる燃原料を使用した場合は、それぞれの成績表などの数値を使用して加重平均した値を入力してください。また、その場合加重平均一覧表を作成し、添付してください。(39ページ)

(9) 補正後の脱硫効率 (%)

- 脱硫装置を使用している場合、添付書類E様式にて補正後の脱硫効率を算定し、添付してください。
- E様式で算定した補正後の脱硫効率を、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)で入力してください。
- D様式において、年に複数回脱硫効率を求めている場合は、その平均値を入力してください。

(10) SOx排出量 (m³/h)

- ☐ (6)～(9)を入力すると、自動的に計算されます。
- ☐ SOx排出量を計算し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を記入してください。(38ページ)

各月の焼却量を、小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力してください。

(13) 年間焼却量

- ☐ 各月を入力すると、自動的に計算されます。
- ☐ 1月～12月までの焼却量の合計を記入してください。

(14) 含有硫黄分 (%)

- 分析値または測定データを使用して計算し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値を入力してください。
不明な場合には、標準的硫黄分一覧(73ページ)の数値(例：都市ごみ＝0.03%)を使用してください。

(15) 補正後の脱硫効率 (%)

- 脱硫装置を使用している場合は、E様式を作成し、E様式中の「2. (4) ⑦補正後の脱硫効率」の数値を入力してください。

(16) 年間SOx排出量 (m³/h/年)

- ☐ (12)～(15)を入力すると、自動的に計算されます。
- ☐ SOx排出量を計算し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を記入してください。(38ページ)

(27) SOx排出量の合計 ((10)+(16)+(26))

- ☐ 自動的に計算されます。
- ☐ (10)と(16)を合計してください。

算定様式(D様式)の作りかた

D様式(b)(排出ガス測定により算定する場合)

(1) 賦課金番号

- 申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

(2) No.

- D様式の全使用枚数と通し番号です。
この例では、全2枚のうちの2枚目であることを表します。

Excel雛型ファイルで様式を追加することにより、自動的にNo.が付与されます。

(11) 廃棄物の種類

実際に焼却している廃棄物の名称を選択してください。

「その他の廃棄物」を選択すると、廃棄物の「具体名」を入力する欄が自動的に表示されます。

該当の番号に○、または実際に焼却している廃棄物の名称を記入してください。

燃原料のコードは、燃原料コード表(73ページ)から選び、記入してください。

(17)b. 排出ガス測定より算定する場合

- ラジオボタン(●)をクリックして選択してください。

操作のしかたは、36ページをご覧ください。

(廃棄物を焼却する清掃工場の場合)

20XX年度汚染負荷量賦課金
年間排出量の算定の過程を示す書類(D)

(1) 賦課金番号: 08041010

工場・事業場名: 大手町 西焼却場

(2) No.: D-02 / 02

(3) 脱硫の有無
☒ 無
☐ 排煙脱硫
☐ 集じん器脱硫

種別	(5) 焼却年月	(8) 焼却量	単位	(7) 密度 g/cm ³	(8) 含有硫黄分 %	(9) 補正後の脱硫効率 %	(10) SO _x 排出量 m ³ N
(4) 助燃剤等	A 重油	1月~12月	94,772	L	0.853	0.07	39.6
				L			0.0

XX年

○ (12) 廃棄物の種類
 a. 廃棄物の名称の定義
 硫黄分
 10月
 11月
 12月
 (18) 年間焼却量

(18) 焼却年月	(19) 焼却量	(20) 補正SO _x 濃度 m ³ N/h	(21) 補正SO _x 濃度 ppm	(22) 測定中の焼却量 kg/h	(23) 1t当たりのSO _x 量 m ³ N/t	(16) 年間SO _x 排出量 m ³ N
XX年	kg					0.0
1月	3,386,430	45,000	25	5,825	0.193	
2月	2,728,040				0.000	
3月	2,781,090	36,900	21	4,990	0.155	
4月	2,009,600				0.000	
5月	2,116,500	41,200	26	5,082	0.211	
6月	2,482,110				0.000	
7月	3,448,830	47,200	28	5,387	0.248	
8月	3,718,880				0.000	
9月	1,155,550	43,500	24	5,028	0.207	
10月	2,843,720				0.000	
11月	3,155,820	49,800	23	5,124	0.223	
12月	2,936,780				0.000	
(24) 年間焼却量	kg				(25) 平均値	m ³ N
	32,763,130				0.205	6,716.4
(27) SO _x 排出量の合計 ((10)+(16)+(26))						m ³ N
						6,756.0

(11) 廃棄物の種類: 都市ごみ

(17) 排出ガス測定より算定する場合

(26) 年間SO_x排出量
((24) × (25))

(25) 平均値

(27) SO_x排出量の合計
((10)+(16)+(26))

入力チェック 算定様式の追加 算定様式の削除 印刷 エクセル保存

前年度データ複写

終了

D様式_2 D様式_1

(3) 脱硫の有無

- 脱硫がない場合は「無」、脱硫がある場合は、該当する脱硫方式を選択してください。(複数選択可)

■ 排ガス測定時に助燃剤等を使用している場合には、(4)～(10)欄の入力は不要です。**(4) 助燃剤等**

- ☐ ☒ 実際に使用している助燃剤の名称を選択してください。
- ☐ 実際に使用している助燃剤の名称を記入してください。助燃剤のコードは、燃原料コード表(73ページ)から選び、記入してください。

(5) 焼却年月

- 焼却した期間を、月単位で入力してください。(例：1月～12月)

(6) 焼却量

- 助燃剤の焼却量を、小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力してください。

単位

- 助燃剤に応じて、単位を選択してください。

(7) 密度 (g/cm³) ※¹

- 助燃剤購入先の成績表などの数値を利用して、小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値を入力してください。

(8) 含有硫黄分 (%) ※¹

- 助燃剤購入先の成績表などの数値を利用して、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値を入力してください。
- 硫黄分の分析データが無い場合は、標準的硫黄分一覧(73ページ)の数値を使用してください。

※¹「密度」「含有硫黄分」計算時の留意点

- 自社測定によらざるを得ない場合は、理由・測定方法・測定者・測定データを明記した書類を添付してください。
- 1年間で密度や含有硫黄分が異なる燃原料を使用した場合は、それぞれの成績表の数値を使用して加重平均した値を入力してください。また、その場合、加重平均一覧表を作成し、添付してください。(39ページ)

(9) 補正後の脱硫効率 (%)

- 脱硫装置を使用している場合、添付書類E様式にて補正後の脱硫効率を算定し、添付してください。
- E様式で算定した補正後の脱硫効率を、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)で入力してください。
- D様式において、年に複数回脱硫効率を求めている場合は、その平均値を入力してください。

(10) SOx排出量 (m³ / 年)

- ☐ ☒ (6)～(9)を入力すると、自動的に計算されます。
- ☐ SOx排出量を計算し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を記入してください。(38ページ)

(18) 焼却年月 (入力済みです)**(19) 焼却量 (kg)**

- 焼却量を、小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力してください。

(20) 補正排出ガス量 (m³ / h) ※²

- b様式の「4.⑮補正排出ガス量」(62～65ページ)で算定した補正排出ガス量を入力してください。

(21) 補正SOx濃度 (ppm) ※²

- b様式の「4.⑧補正SOx濃度」(62～65ページ)で算定した補正SOx濃度を入力してください。

(22) 測定中の焼却量 (kg/h) ※²

- 排ガス測定時の1時間当たりの焼却量をkg単位(1kg未満の端数は切り捨て)で入力してください。

(23) 1t当たりのSOx量 (m³ / t) ※²

- ☐ ☒ (19)～(22)を入力すると、自動的に計算されます。
- ☐ 1t当たりのSOx量を計算し、小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値を記入してください。(計算のしかたは、38ページをご覧ください。)

※²「(20)補正排出ガス量」または「(21)補正SOx濃度」を測定していない月は空欄のままとし、「0」は入力しないでください。

(24) 年間焼却量

- ☐ ☒ 各月を入力すると、自動的に計算されます。
- ☐ 1月～12月までの焼却量の合計を記入してください。

(25) 平均値

- ☐ ☒ 自動的に平均値が計算されます。
- ☐ 「(23)1t当たりのSOx量」を算術平均し、平均値を小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値とし、記入してください。

(26) 年間SOx排出量 ((24)×(25)) (m³ / 年)

- ☐ ☒ 自動的に計算されます。
- ☐ 「(24)年間焼却量」×「(25)平均値」× $\frac{1}{1000}$ で計算し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を記入してください。(計算のしかたは、38ページをご覧ください。)

(27) SOx排出量の合計 ((10)+(16)+(26))

- ☐ ☒ 自動的に計算されます。
- ☐ (10)と(26)を合計してください。

- 申告書「⑤(イ)硫黄酸化物排出量」欄には、算定様式ごとに算定された「年間SOx排出量」を合計し、小数点以下を切り捨てた数値を入力してください。

算定様式（D様式）の作りかた

ボタン操作のしかた

(廃棄物を焼却する清掃工場の場合)

20XX年度汚染負荷量賦課金

年間排出量の算定の過程を示す書類 (D)

(1) 賦課金番号 06041010

工場・事業場名 大手町 西焼却場

(2) No. D- 02 / 02

(3) 脱硫の有無
☒ 無
☐ 排煙脱硫
☐ 集じん等脱硫

種別	(5) 焼却年月	(6) 焼却量	単位	(7) 密度	(8) 含有硫黄分	(9) 補正後の脱硫効率	(10) SO _x 排出量
				g/cm ³	%	%	m ³ N
(4) 助燃剤等	A 重油	1月～12月	144,818	L	0.879	0.92	818.8
				L			0.0
	XX年	kg					
	1月	1,176,000					
	2月	1,040,000					
	3月	1,599,000					
	4月	1,904,000					
	5月	1,119,000					
	6月	1,348,000					
	7月	1,481,000					
	8月	1,406,000					
	9月	1,378,000					
	10月	1,513,000					
	11月	1,418,000					
	12月	1,442,000					
	(13) 年間焼却量	kg					
		18,822,000			0.03		3,532.8
(11) 廃棄物の種類							
	XX年	kg	(20) 補正排出ガス量	(21) 補正SO _x 濃度	(22) 測定中の焼却量	(23) 1t当たりのSO _x 量	
	1月		m ³ N/h	ppm	kg/h	m ³ N/t	
	2月					0.000	
	3月					0.000	
	4月					0.000	
	5月					0.000	
	6月					0.000	
	7月					0.000	
	8月					0.000	
	9月					0.000	
	10月					0.000	
	11月					0.000	
	12月					0.000	
	(24) 年間焼却量	kg				(25) 平均値	
		0				0.000	
							(26) 年間SO _x 排出量 ((24) × (25))
							m ³ N
							4,351.2
							(27) SO _x 排出量の合計 ((10) + (16) + (26))
							m ³ N

入力チェック 算定様式の追加 算定様式の削除 印刷 エクセル保存

前年度データ複写 終了

D様式_2 D様式_1 +

前年度データ複写

🌐 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。（複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です）

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
2. 前年度に提出したD様式のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。
 - D(a)形式／D(b)形式の選択も、前年度のデータをもとに自動的に行われます。
 - 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。
Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。（オンライン申告の場合は、印刷不要です。）

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようすると、メッセージが表示されることがあります。
そのときは、変更を保存して署名を破棄するを選んでファイルを保存してください。（5ページ）
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

🌐 算定様式の追加をすると、ワークシートが追加されます。

- ワークシートの名称は、変更しないでください。変更するとデータを正しく処理できません。

算定様式（D様式）の作りかた

「(10)SOx排出量 (m³/ℓ)」の計算のしかた

下記の計算式によって助燃剤等のSOx排出量を算定し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を入力してください。

① 固体燃料の場合

計算式

$$\boxed{\begin{array}{c} (10) \text{ SOx 排出量} \\ (\text{m}^3/\ell) \end{array}} = \boxed{\begin{array}{c} (6) \text{ 焼却量 (kg)} \\ (\text{年間助燃剤等使用量}) \end{array}} \times \boxed{\frac{(8) \text{ 含有硫黄分 (\%)}}{100}} \times \frac{22.4}{32}$$

② 液体燃料の場合

計算式

$$\boxed{\begin{array}{c} (10) \text{ SOx 排出量} \\ (\text{m}^3/\ell) \end{array}} = \boxed{\begin{array}{c} (6) \text{ 焼却量 (ℓ)} \\ (\text{年間助燃剤等使用量}) \end{array}} \times \boxed{(7) \text{ 密度 (g/cm}^3\text{)}} \times \boxed{\frac{(8) \text{ 含有硫黄分 (\%)}}{100}} \times \frac{22.4}{32}$$

③ 気体燃料の場合

計算式

$$\boxed{\begin{array}{c} (10) \text{ SOx 排出量} \\ (\text{m}^3/\ell) \end{array}} = \boxed{\begin{array}{c} (6) \text{ 焼却量 (m}^3/\ell\text{)} \\ (\text{年間助燃剤等使用量}) \end{array}} \times \boxed{\frac{(8) \text{ 含有硫黄分 (\%)}}{100}}$$

D (a) 「(16)年間SOx排出量 (m³/ℓ/年)」の計算のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を入力してください。

計算式

$$\boxed{(16) \text{ SOx 排出量 (m}^3/\ell\text{)}} = \boxed{(13) \text{ 年間焼却量 (kg)}} \times \boxed{\frac{(14) \text{ 含有硫黄分 (\%)}}{100}} \times \frac{22.4}{32}$$

D (b) 「(23)1t当たりのSOx量 (m³/ℓ/t)」の計算のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値を入力してください。

計算式

$$\boxed{\begin{array}{c} (23) \text{ 1 t 当たりの SOx} \\ \text{量 (m}^3/\ell/\text{t)} \end{array}} = \frac{\boxed{(20) \text{ 補正排出ガス量 (m}^3/\ell/\text{h)}} \times \boxed{(21) \text{ 補正 SOx 濃度 (ppm)}} \times 10^{-6}}{\boxed{(22) \text{ 測定中の焼却量 (kg/h)}}} \times 1000$$

D (b) 「(26)年間SOx排出量 (m³/ℓ/年)」の計算のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでの数値を入力してください。

計算式

$$\boxed{\begin{array}{c} (26) \text{ 年間 SOx 排出量} \\ (\text{m}^3/\ell) \end{array}} = \boxed{(25) \text{ 平均値}} \times \boxed{(24) \text{ 年間焼却量 (kg)}} \times \frac{1}{1000}$$

加重平均一覧表の作りかた

加重平均一覧表とは

同じ月に含有硫黄分の異なる燃原料を使用したときに、それぞれの燃原料を加重平均するための一覧表です。

- A～D様式を作成時、必要に応じて作成する場合があります。

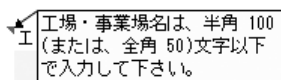
作成時の留意点

- 異なる種類の燃原料（例：「C重油」と「再生油」など）での加重平均は行わないでください。
- 前月に受け入れた燃原料の繰り越し分がある場合は、当月の燃原料の受け入れ分に前月繰り越し分も含めて加重平均をしてください。
- D様式を使用する場合、1月から12月の1年間で密度や含有硫黄分が異なる助燃剤を使用したときは、1年間の使用量や購入量で加重平均してください。

Excel雛型ファイルを入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例： 加重平均一覧表



Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず **入力チェック** をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。（42ページ）
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

算定様式

D

加重平均
添付書類

● 加重平均一覧表の作りかた
● 算定様式（D様式）の作りかた

加重平均一覧表の作りかた

賦課金番号

- 申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

燃原料の種類

- 燃原料コード表 (73ページ) から選び、入力してください。

関連する様式・番号

- この様式に関連する算定様式の番号を入力してください。(例:「A-01」など)

燃料／C様式原料

- 原料:C様式の原料を加重平均する場合に選択してください。
- 燃料:上記以外の場合に選択してください。

燃原料単位

- 燃原料の単位を選択してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

20XX年度汚染負荷量賦課金 加重平均一覧表

賦課金番号

03309012

工場・事業場名

青空工場(株) 仙台工場

燃料 / C 様式原料 燃原料単位

燃料

L

丸め方

● 丸め

○ 四捨五入

燃原料の種類 C重油

関連する様式・番号 A-01

	メーカー	使用量 又は 購入量 A(1)	密度 B(g/cm ³)	硫黄分 C(wt%)	A×B	A×B×C	加重平均値	
							密度(g/cm ³)	硫黄分(wt%)
1月	A社 (前月繰越)	79,828	0.943	2.29	75,089.204	171,954.27716	0.943910 ↓ 0.944 Σ(A×B) /ΣA	2.28294 ↓ 2.28 Σ(A×B×C) /Σ(A×B)
	B社	110,000	0.942	2.26	103,620.000	234,181.20000		
	C社	130,000	0.946	2.31	122,980.000	284,083.80000		
	D社	120,960	0.944	2.27	114,186.240	259,202.76480		
	合計	ΣA 440,588			Σ(A×B) 415,875.444	Σ(A×B×C) 949,422.04186		
2月	D社 (前月繰越)	78,324	0.944	2.27	72,049.856	163,553.17312	0.943707 ↓ 0.944 Σ(A×B) /ΣA	2.25003 ↓ 2.25 Σ(A×B×C) /Σ(A×B)
	A社	125,000	0.941	2.25	117,625.000	264,656.25000		
	B社	110,000	0.938	2.25	103,180.000	232,155.00000		
	C社	150,000	0.950	2.24	142,500.000	319,200.00000		
	合計	ΣA 481,324			Σ(A×B) 435,354.856	Σ(A×B×C) 979,564.42312		
3月	C社 (前月繰越)	45,718	0.950	2.24	43,432.100	97,287.90400	0.946234 ↓ 0.946 Σ(A×B) /ΣA	2.23365 ↓ 2.23 Σ(A×B×C) /Σ(A×B)
	A社	125,000	0.948	2.34	118,500.000	277,290.00000		
	B社	150,000	0.946	2.20	141,900.000	312,180.00000		
	D社	160,000	0.944	2.13	151,040.000	329,267.20000		
	合計	ΣA 480,718			Σ(A×B) 454,872.100	Σ(A×B×C) 1,016,025.10400		
4月	D社 (前月繰越)	76	0.944	2.13	71.744	156.40192	0.950077 ↓ 0.950 Σ(A×B) /ΣA	2.24858 ↓ 2.25 Σ(A×B×C) /Σ(A×B)
	A社	130,000	0.951	2.20	123,630.000	271,936.00000		
	B社	100,000	0.946	2.31	94,600.000	218,526.00000		
	C社	150,000	0.952	2.25	142,800.000	321,300.00000		
	合計	ΣA 456,000			Σ(A×B) 461,230.744	Σ(A×B×C) 811,962.40192		

12月	A社	125,000	0.940	2.29	117,500.000	266,875.00000	0.941041 ↓ 0.941 Σ(A×B) /ΣA	2.27415 ↓ 2.27 Σ(A×B×C) /Σ(A×B)
	B社	136,000	0.943	2.25	128,248.000	288,558.00000		
	C社	170,000	0.945	2.24	160,650.000	359,856.00000		
	合計	ΣA 506,656			Σ(A×B) 476,531.112	Σ(A×B×C) 1,083,704.47544		

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

入力行の追加

入力行の削除

終了

丸め方

- 加重平均値の端数処理の方法を選択します。
丸め：JIS Z 8401による方法(75ページ)で数値を端数処理をします。
四捨五入：四捨五入で数値を端数処理をします。

■ 各月ごとに加重平均してください。

メーカー

- 燃原料の購入先、製造ロット、あるいは前月の繰り越し分などを入力してください。

使用量又は購入量 A

- 燃原料の使用量または購入量を入力してください。
- 使用量で、1 ℓ、1 kg、1 m³/V未満の端数がある場合は、これを切り捨てて、整数値で入力してください。

Σ A

- 月別の「使用量又は購入量 A」の合計が、自動的に計算されます。
- 月別の「使用量又は購入量 A」の合計を計算し、記入してください。

密度 B (g/cm³)

- 密度は、購入先の成績表などの数値を使用し、**小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値**を入力してください。
- 自社測定値によらざるを得ない場合には、その理由、測定方法、測定者および測定データを明記したものを添付してください。

硫黄分 C (wt%)

- 硫黄分は、購入先の成績表などの数値を使用し、**小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値**を入力してください。(ただし、C様式の原料の場合は、**小数点以下4けた目を切り捨て、3けたまでの数値**を入力してください。)
- 固体または液体の燃原料は質量%で、気体の燃原料は容量%で示してください。
- 自社測定値によらざるを得ない場合には、その理由、測定方法、測定者および測定データを明記したものを添付してください。

A × B

- 「使用量又は購入量 A」と「密度 B」を入力すると、自動的に計算されます。
- 「使用量又は購入量 A」×「密度 B」で計算した数値を記入してください。

Σ (A × B)

- 月別の「A × B」の合計が、自動的に計算されます。
- 月別の「A × B」の合計を計算し、記入してください。

A × B × C

- 「使用量又は購入量 A」と「密度 B」と「硫黄分 C」を入力すると、自動的に計算されます。
- 「使用量又は購入量 A」×「密度 B」×「硫黄分 C」で計算した数値を記入してください。

Σ (A × B × C)

- 月別の「A × B × C」の合計が、自動的に計算されます。
- 月別の「A × B × C」の合計を計算し、記入してください。

加重平均値

- 密度 (g/cm³)
 ● 「使用量又は購入量 A」と「密度 B」を入力すると、自動的に計算されます。
 ● 加重平均密度を計算し、**小数点以下4けた目をJIS Z 8401による方法(75ページ)または四捨五入し、小数点以下3けたまでの数値**を記入してください。(計算のしかたは、43ページをご覧ください。)
- 硫黄分 (wt%)
 ● 「使用量又は購入量 A」と「密度 B」と「硫黄分 C」を入力すると、自動的に計算されます。
 ● 加重平均硫黄分を計算し、**小数点以下3けた目をJIS Z 8401による方法(75ページ)または四捨五入し、小数点以下2けたまでの数値**を記入してください。(計算のしかたは、43ページをご覧ください。)
 (ただし、C様式の原料の場合は、**小数点以下4けた目をJIS Z 8401による方法(75ページ)または四捨五入し、3けたまでの数値**を記入してください。)
- 加重平均値欄に入力されている「密度」と「硫黄分」を、関連する算定様式の「密度」、「硫黄分」の欄に入力してください。

■ 残りの月も、同様に計算してください。

- 操作のしかたは、42ページをご覧ください。

加重平均一覧表の作りかた

ボタン操作のしかた

20XX年度汚染負荷量賦課金
加重平均一覧表

燃料 / 様式原料 燃原料単位
燃料 L

賦課金番号
03309012

工場・事業場名
青空工場(株) 仙台工場

燃原料の種別 C重油

関連する様式・番号 A-01

丸め方
☒ 丸め
☐ 四捨五入

	メーカー	使用量 又は 購入量 A(l)	密度 B(g/cm3)	硫黄分 C(wt%)	A×B	A×B×C	加重平均値	
							密度(g/cm3)	硫黄分(wt%)
1月	A社 (前月繰越)	79,628	0.943	2.29	75,089.204	171,954.27716	0.943910 ↓ 0.944	2.28284 ↓ 2.28
	B社	110,000	0.942	2.28	103,620.000	234,181.20000		
	C社	130,000	0.946	2.31	122,980.000	284,083.80000		
	D社	120,960	0.944	2.27	114,186.240	259,202.76480		
12月	A社	125,000	0.940	2.29	117,500.000	266,875.00000	0.9416641 ↓ 0.941	2.27419 ↓ 2.27
	B社	136,000	0.943	2.25	128,248.000	288,558.00000		
	C社	170,000	0.945	2.24	160,650.000	359,856.00000		
合計		Σ A 506,656			Σ (A×B) 476,531.112	Σ (A×B×C) 1,083,704.47544	Σ (A×B) / Σ A	Σ (A×B×C) / Σ (A×B)

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

入力行の追加

入力行の削除

終了

入力行の追加

選んだ行の上に、入力行を1行追加します。

入力行の削除

選んだ行を1行削除します。

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。(オンライン申告の場合は、印刷不要です。)

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

前年度データ複写

前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。(複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です)

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
2. 前年度に提出した加重平均一覧表のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。

- 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようとする、メッセージが表示されることがあります。そのときは、[変更を保存して署名を破棄する](#)を選んでファイルを保存してください。(5ページ)
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

加重平均密度の算定のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下4けた目をJIS Z 8401による方法(75ページ)または四捨五入し、小数点以下3けたまでの数値を入力してください。

計算式

$$\text{加重平均密度} = \frac{(\text{使用量}_1 \times \text{密度}_1) + (\text{使用量}_2 \times \text{密度}_2) + (\text{使用量}_3 \times \text{密度}_3) + \dots}{\text{使用量}_1 + \text{使用量}_2 + \text{使用量}_3 + \dots}$$

例：下記のような数値の「A重油」を3種類使用した場合

使用量 (ℓ)	密度 (g/cm ³)
15,000	0.8368
8,000	0.8534
20,000	0.8656

計算の例

$$\frac{(15,000 \times 0.836) + (8,000 \times 0.853) + (20,000 \times 0.865)}{15,000 + 8,000 + 20,000} = 0.85265 \rightarrow 0.853 \text{ (g/cm}^3\text{)}$$

加重平均硫黄分の算定のしかた

下記の計算式によって算定し、小数点以下3けた目をJIS Z 8401による方法(75ページ)または四捨五入し、小数点以下2けたまでの数値を入力してください。

計算式

$$\text{加重平均硫黄分} = \frac{(\text{使用量}_1 \times \text{密度}_1 \times \text{硫黄分}_1) + (\text{使用量}_2 \times \text{密度}_2 \times \text{硫黄分}_2) + \dots}{\text{使用量}_1 \times \text{密度}_1 + \text{使用量}_2 \times \text{密度}_2 + \dots}$$

例：下記のような数値の「A重油」を3種類使用した場合

使用量 (ℓ)	密度 (g/cm ³)	硫黄分 (%)
15,000	0.8368	0.924
8,000	0.8534	0.917
20,000	0.8656	0.941

計算の例

$$\frac{(15,000 \times 0.836 \times 0.92) + (8,000 \times 0.853 \times 0.91) + (20,000 \times 0.865 \times 0.94)}{(15,000 \times 0.836) + (8,000 \times 0.853) + (20,000 \times 0.865)} = 0.9275 \rightarrow 0.93 \text{ (\%)}$$

排出ガス測定的一般事項 (E 様式および b 様式共通)

排出ガス中のSOx濃度、O₂濃度および排出ガス量の測定については、次の事項に注意してください。

- 44～69ページに記載されている「排出ガス量」は、全て「乾き排出ガス量」をいいます。

1. 排出ガス中のSOx濃度の測定

① 測定値の取扱い

- 原則として複数回の測定データの平均値とします。
- 測定値の有効範囲は、±10%程度を目途とします。

② 試料の採取方法

- 平均的な稼働状況において採取してください。

③ 試料の採取位置および採取点

- JIS Z 8808 (排ガス中のダスト濃度の測定方法) の5.(測定位置、測定孔および測定点)
- JIS K 0095 (排ガス試料採取方法) の5. (試料ガスの採取位置、採取点および採取口)

によってください。

ただし、JISによる測定が困難または不適当な場合 (例：等速吸引不能など) は、他の適切な方法で測定してください。

④ SOx濃度の分析方法

JIS K 0103 (排ガス中の硫黄酸化物分析方法) による硫黄酸化物(SO₂ + SO₃)の分析方法を使用してください。

ただし、硫黄酸化物(SO₂ + SO₃)とSO₂との比が一定で、その比率がわかっている場合は、SO₂を分析することによって硫黄酸化物(SO₂ + SO₃)濃度を求めてください。

硫黄酸化物(SO₂ + SO₃)の分析方法は、JISに定められていますが、20 ℓ 採取の場合の標準的測定濃度範囲は、イオンクロマトグラフ法0.5～290ppm、沈殿滴定法140 (光度滴定の場合は50) ～700ppm、(附属書：比濁法5～300ppm、中和滴定法70～2800ppm) となっていますので、濃度および妨害成分に応じて分析方法を選択してください。

なお、標準的測定濃度範囲より低濃度の分析を行う場合には、イオンクロマトグラフ法によって分析してください。

2. 排出ガス量の測定

① 試料の採取方法、採取位置および採取点

- 上記「1. ②試料の採取方法」および「1. ③試料の採取位置および採取点」に準じます。

② 排出ガス量の測定方法

- JIS Z 8808またはこれと同等の測定値が得られる方法を使用してください。

ただし、排出ガス測定位置がダクトの屈曲部分または断面形状の急激に変化する部分にあるなどの理由で平均流速値が得にくい場合は、燃料使用量および排出ガス中のO₂濃度などの値から排出ガス量を算定してください。

3. 排出ガス中のO₂濃度の測定

① 試料の採取方法、採取位置および採取点

- 上記「1. ②試料の採取方法」および「1. ③試料の採取位置および採取点」に準じます。

② O₂濃度の測定方法

- JIS K 0301 (排ガス中の酸素分析方法) に規定するオルザット式およびヘンペル式、またはこれらと同等の測定値が得られる分析方法を用いてください。

4. 測定に関する注意事項

- SOx量の測定については「大気汚染防止法施行規則別表第1の備考欄」に掲げる方法で行ってください。
- SOx濃度と排出ガス量は同時に測定してください。なお、同時に測定していない場合は、各々の測定時におけるO₂濃度を測定してください。
- 排出ガス測定は、ばい煙発生施設および脱硫施設が平均的稼働状態にある時に行ってください。

5. アフターバーナーに関する注意事項

出口SOx量測定箇所より後にアフターバーナーがある場合 (45ページ「簡略図の作成例」の例2)、アフターバーナーに使用する燃量は、別に算定する必要があります。

脱硫工程の簡略図

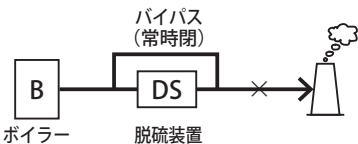
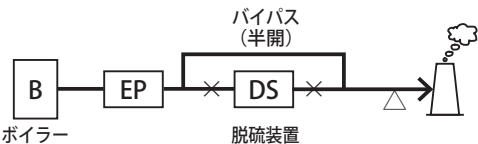
用紙申告の場合は、48～52、61ページ、の記載例を参照して、脱硫対象施設の排出ガスが排出口に至るまでの過程および測定点を記入してください。

凡 例

項目	脱硫対象施設	電気集じん機	脱硫装置	測定箇所	排出ガスの流れ	排出口	アフターバーナー
図記号	B	EP	DS	×	→		△

簡略図の作成例

測定点を明確に記入してください。

	例1	例2
内容	● 施設の排出ガス：全量脱硫装置で脱硫する。 ● 入 口 S O x 量：燃原料から求める。 ● 出 口 S O x 量：排出ガス測定から求める。	● 施設の排出ガス：半量脱硫装置で脱硫する。 ● 入 口 S O x 量：排出ガス測定から求める。 ● 出 口 S O x 量：排出ガス測定から求める。 ● その他の装置：・電気集じん機 ・アフターバーナー(出口SOx量測定箇所より後)
簡略図		

算定様式（E様式）の作りかた

算定様式（E様式）とは

排煙脱硫装置などを使用している施設について、脱硫効率を算定する際に使用します。
排煙脱硫装置などの稼働率や排出ガスの処理割合などを乗じて、補正後の脱硫効率を算定します。
入力の際は、44ページ「排出ガス測定的一般事項（E様式およびb様式共通）」をまずお読みください。

- A様式、C様式、D様式（a）の算定様式を作成時、必要に応じて作成する必要があります。
- 補正後の脱硫効率の算定 1 回につき 1 枚作成してください。
（例：年 6 回測定し、補正後の脱硫効率を算定した場合は、E様式を 6 枚（6 回分）作成してください。）
- 脱硫効率の算定は、1 つの施設から排出される SOx 量に応じて、必要な測定回数が下記の通り異なります。

排出 SOx 量が 10 m³ /h 以上の場合

2 か月に 1 回以上算定（測定）してください。

排出 SOx 量が 10 m³ /h 未満の場合

年に 1 回以上算定（測定）してください。

例：年に 2 回測定した場合には、E様式を 2 枚作成してください。

大気汚染防止法、電気事業法で
SOx 量の常時測定義務がある場合

月に 1 回算定（測定）してください。

- 数値は、常時測定を行い、1 か月間の測定値を平均したものを使用してください。

作成時の留意点

Excel 雛型ファイルに入力する際の留意点

- Excel 雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例：

補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

脱硫効率の算定式	工場・事業場名	工場・事業場名は、半角 100 (または、全角 50)文字以下 で入力して下さい。
(イ)		

Excel 雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず入力チェックをクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。（55ページ）
- 入力チェックが完了していない Excel 雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

E 様式 (共通)

ヘッダー部と、「1. 一般事項」は、(イ) (ロ) (ハ) 共通です。

脱硫効率の算定式

脱硫効率の算定式を「イ」「ロ」「ハ」から選択し、入力してください。

標準的硫黄分を使用してSO_x量を算定している場合は、必ずE様式(イ)で計算してください。

- **脱硫前の燃原料から求めたSO_x量**と、**脱硫後の排出ガス中のSO_x濃度**と、**排出ガス量**から脱硫効率を求める場合
→E様式(イ)で算定してください。(48ページ)
- **SO_x濃度**と**排出ガス量**を、**脱硫前と脱硫後で測定**して、脱硫効率を求める場合
→E様式(ロ)で算定してください。(50ページ)
- **SO_x濃度**と**O₂濃度**を、**脱硫前と脱硫後で測定**して、脱硫効率を求める場合
→E様式(ハ)で算定してください。(52ページ)
E様式(ハ)は、排出ガス量が測定できない場合の算定式です。

賦課金番号

申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

ナンバー No.

E様式の全使用枚数と通し番号です。
この例では、全12枚のうちの1枚目であることを表します。

Excel雛型ファイルで様式を追加すると、自動的にNo.が付与されます。

20XX年度汚染負荷量賦課金
修正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類 (E)

賦課金番号 03309012 脱硫効率の算定式 (イ) 工場・事業場名 青空工業(株) 仙台工場 No. E- 01 枚目 12 全枚数

1. 一般事項			
① 関連する様式・番号	A-02/03	⑤ 脱硫方式	水酸化マグネシウム法
② 測定機関(又は部門)	NS分析センター	⑥ 施設最大排出ガス量	16,000 m3N
③ 脱硫対象施設名	2号ボイラー	⑦ 脱硫装置処理能力	18,000 m3N
④ 最大燃原料使用量	種類	使用量	入口SO _x 濃度 出口SO _x 濃度 %
	C重油	980 L/h	1,100 110 30
		L/h	
		⑧ 脱硫効率(設計値)	
		⑨ 脱硫装置稼働開始年月日	20XX年X月X日
		⑩ 脱硫装置の制作メーカー	(株) DS工業
2. 測定及び算定内容			
(1) 共通事項			
⑪ 測定		⑫ 適用期間中における	種類 使用量
			C重油 636 L/h

1. 一般事項

- ① 関連する様式・番号※: この様式に関連する算定様式の番号を入力してください。
 - ② 測定機関(または部門)※: 排出ガスの測定機関(自社測定の場合は部門)などの名称を入力してください。
 - ③ 脱硫対象施設名※: 脱硫の対象となるばい煙発生施設などの施設名を入力してください。
 - ④ 最大燃原料使用量: 使用量の単位を選択し、脱硫対象施設(③)の最大燃原料使用量を入力してください。
 - ⑤ 脱硫方式: 脱硫装置の脱硫方式を入力してください。
 - ⑥ 施設最大排出ガス量: 脱硫対象施設(③)の最大排出ガス量(湿りガス量)を入力してください。
 - ⑦ 脱硫装置処理能力: 脱硫装置の処理能力(湿りガス量)を入力してください。
 - ⑧ 脱硫効率(設計値): 脱硫装置の脱硫効率の設計値を入力してください。
 - ⑨ 脱硫装置稼働開始年月日: 脱硫装置が稼働開始した年月日を入力してください。
 - ⑩ 脱硫装置の制作メーカー: 脱硫装置を制作したメーカー名を入力してください。
- 入力必須項目です。
- 2枚以上作成する場合、2枚目以降の「1. 一般事項」は変更が無ければ記入する必要はありません。

算定様式（E 様式）の作りかた

E 様式（イ）

- 下図の内容は、SO_x濃度測定時の記載例です。
SO₂濃度測定の場合には、50ページ「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSO_x量」の記載例に倣って、「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSO_x量」の数値を入力してください。

（イ）を選択してください。（47ページ）

作成のしかたは、47ページをご覧ください。

20XX年度汚染負荷量賦課金
補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

賦課金番号 03309012	脱硫効率の算定式 (イ)	工場・事業場名 青空工業（株） 仙台工場	01 枚目 12 全枚数
-------------------	-----------------	-------------------------	-----------------

1. 一般事項

①関連する様式・番号 A-02/03	②脱硫方式 水酸化マグネシウム法	③脱硫装置の稼働時間数 (h) 1416
④測定機関(又は部門) NS分析センター	⑤施設最大排出ガス量 16,000 m ³ N/h	⑥脱硫装置の稼働時間数 (h) 1345
⑦脱硫対象施設名 2号ボイラー	⑧脱硫装置処理能力 18,000 m ³ N/h	⑨脱硫装置の稼働時間数 (h) 9569
⑩最大燃原料使用量 C重油 980 L/h	⑪脱硫効率(設計値) 1,100 110 30	⑫脱硫装置稼働開始年月日 20XX年X月X日
	⑬脱硫装置稼働終了年月日	⑭脱硫装置の制作メーカー (株) DS工業

2. 測定及び算定内容

(1) 共通事項

①測定 年月日 20XX年X月X日	②適用期間中における 平均燃原料使用量 C重油 636 L/h	③脱硫適用期間 20XX年X月～X月
-------------------------	---------------------------------------	-----------------------

(2) 燃原料から求めるSO_x量(Sf)

項目	①燃原料の種類	②測定時の使用量	③密度	④含有硫黄分	⑤SO _x 量
測定値又は 計算値等	C重油	636 L/h	0.944 g/cm ³	2.28 %	9.838
		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	
⑥合計SO _x 量(有効数字4桁) Sf=					9.838

(3) 排出ガス測定から求めるSO_x量

項目	a 脱硫装置前(入口)のSO _x 量	b 脱硫装置後(出口)のSO _x 量
① SO _x 濃度測定値 (ppm)	105	122 114
②平均SO _x 濃度 (ppm)	(有効数字3桁)	(有効数字3桁) 113
③SO _x 濃度への補正係数	(有効数字3桁)	(有効数字3桁)
④補正SO _x 濃度 (ppm)	(有効数字3桁) Si=	(有効数字3桁) Se= 113
⑤SO _x 濃度測定時の○2濃度測定値(%)	7.1	6.6 6.8
⑥SO _x 濃度測定時の平均○2濃度(%)	(有効数字3桁) Oi=	(有効数字3桁) Oe= 6.83
⑦排出ガス量測定値(乾基) (m ³ N/h)	9980	9860 9490
⑧平均排出ガス量 (m ³ N/h)	(有効数字4桁)	(有効数字4桁) 9776
⑨排出ガス量測定時の○2濃度測定値(%)	7.4	7.2 6.8
⑩排出ガス量測定時の平均○2濃度(%)	(有効数字3桁)	(有効数字3桁) 7.13
⑪補正排出ガス量 (m ³ N/h)	(有効数字4桁) Vi=	(有効数字4桁) Ve= 9569
⑫SO _x 量 (m ³ N/h)	(有効数字4桁)	(有効数字4桁) 1.081
硫黄化合物濃度の測定	⑬SO _x 濃度測定法	⑭採取ガス量(L)
		⑮採取ガス量(L)
		イオンクロマトグラフ法 20

(4) 脱硫効率及び脱硫効率の補正

項目	測定値又は計算値等
①脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 89.01
②施設の稼働時間数 (h)	1416
③脱硫装置の稼働時間数 (h)	1345
④施設の排出ガス量 (m ³ N/h)	9569
⑤脱硫装置の処理ガス量 (m ³ N/h)	9569
⑥その他の補正係数	(有効数字3桁)
⑦補正後の脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 84.54

バイパス
(常時閉)

ボイラー 脱硫装置

● 操作のしかたは、54ページをご覧ください。

● 用紙申告の場合は、この位置に脱硫過程の簡略図を描いてください。（45ページ）
2枚目以降には、変更が無ければ記入する必要はありません。

2. 測定及び算定内容 (E様式 (イ))

(1) 共通事項

- ① 測定年月日^{※1} : SOx濃度と排出ガス量を測定した年月日を入力してください。
 - ② 脱硫適用期間^{※1} : この様式で算定した補正後の脱硫効率を適用する期間を入力してください。
(必ず、SOx濃度測定などを実施した「月」を含めてください。)
 - ③ 適用期間中における : 適用期間中において、脱硫対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均燃原料使用量^{※2※3}を入力してください。
- ※1: 入力必須項目です。

(2) 燃原料から求めるSOx量 (Sf)

- 「① 燃原料の種類」、「② 測定時の使用量 (小数点以下切り捨て) ^{※2※3}」、「③ 密度 (小数点4けた目を切り捨て、3けたまで)」、「④ 含有硫黄分 (小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値)」を入力してください。
 「① 燃原料の種類」～「④ 含有硫黄分」を入力すると、「⑤ SOx量」、「⑥ 合計SOx量」が自動的に計算されます。
 「⑤ SOx量^{※4}」、「⑥ 合計SOx量^{※4}」を計算して記入してください。(計算のしかたは、56ページをご覧ください。)

(3) 排出ガス測定から求めるSOx量

- 「a脱硫装置前 (入口) のSOx量」の欄は、使用しません。「b脱硫装置後 (出口) のSOx量」の欄を入力してください。

● SOx濃度

- ① SOx (またはSO₂) 濃度測定値 : 「項目」欄で、濃度を測定した項目を、SOx (またはSO₂) から選択してください。
 ① で[SOx]を選択した場合 : 濃度測定値の欄に、全ての測定値を入力してください。
 ① で[SO₂]を選択した場合 : 濃度測定値の欄には、何も入力しません。
- ② 平均SOx (またはSO₂) 濃度^{※5※6} : SOx (またはSO₂) 濃度測定値の平均値を記入してください。
- ③ SOx濃度への補正係数^{※5} : ① で[SO₂]を選択した場合は、補正係数 (57ページ) を入力してください。
- ④ 補正SOx濃度^{※5※6} : ① で[SOx]を選択した場合 : ②の数値を記入してください。
 ① で[SO₂]を選択した場合 : ②×③の数値を記入してください。

● SOx測定時のO₂濃度

- ⑤ SOx濃度測定時のO₂濃度測定値 : ① で[SOx]を選択した場合 : SOx濃度測定時の全てのO₂濃度測定値を入力してください。
 ① で[SO₂]を選択した場合 : 適用期間中のO₂濃度の平均値を入力してください。
- ⑥ SOx濃度測定時の平均O₂濃度^{※5※6} : 「⑤ SOx濃度測定時のO₂濃度測定値」の平均値を記入してください。

● 排出ガス量測定時のO₂濃度および排出ガス量

- ⑦ 排出ガス量測定値 (乾き) : 排出ガス量 (乾きガス量) の全ての測定値を入力してください。
- ⑧ 平均排出ガス量^{※4※7} : 「⑦ 排出ガス量測定値 (乾き)」の平均値を記入してください。
- ⑨ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値 : 排出ガス測定時の全てのO₂濃度の測定値を入力してください。
- ⑩ 排出ガス量測定時の平均O₂濃度^{※5※7} : 「⑨ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値」の平均値を記入してください。
- ⑪ 補正排出ガス量^{※4※6} : 補正の必要がある場合は、計算して記入してください。(58ページ)
 SOx (またはSO₂) 濃度測定時と排出ガス量測定時のO₂濃度が異なる場合は、必ず補正をしてください。補正の必要がない場合は、「⑧平均排出ガス量」の数値を記入してください。
- ⑫ SOx量^{※4※6} : SOx量を計算して、記入してください。(58ページ)

● 硫黄酸化物濃度の測定

- ⑬ SOx濃度測定法 : ① で[SOx]を選択した場合 : JIS K 0103のいずれか該当する測定法を入力してください。
 ① で[SO₂]を選択した場合 : JIS B 7981のいずれか該当する測定法を入力してください。
- ⑭ 採取ガス量 : ①を測定したときの採取ガス量 (吸引ガス量) を入力してください。

(4) 脱硫効率及び脱硫効率の補正

- ① 脱硫効率 : 脱硫効率を計算し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値 (%表示) を記入してください。(計算のしかたは、58ページをご覧ください。)
- ② 施設の稼働時間数 : 脱硫装置の適用期間における施設の稼働時間 (1時間未満切り捨て) を入力してください。
- ③ 脱硫装置の稼働時間数 : 脱硫装置の適用期間における脱硫装置の稼働時間 (1時間未満切り捨て) を入力してください。
- ④ 施設の排出ガス量 : 施設の排出ガス量を入力してください。
- ⑤ 脱硫装置の処理ガス量 : 脱硫装置の処理ガス量を入力してください。
- ⑥ その他の補正係数^{※5} : その他、何らかの補正係数がある場合、入力してください。
- ⑦ 補正後の脱硫効率^{※7} : 施設と脱硫装置の稼働時間または排出ガス量が異なるなどの場合は、脱硫効率 (%) を補正し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値 (%表示) を入力してください。(計算のしかたは、59ページをご覧ください。) 補正する必要がない場合は、①の数値を入力してください。

※2: 該当する単位を選択してください。

※3: 1時間当たりの量を入力してください。

※4: 有効数字4けた (5けた以下は切り捨て)

※5: 有効数字3けた (4けた以下は切り捨て)

※6: 自動的に計算されます。

※7: 自動計算されませんので、適切な数値を入力してください。

算定様式（E 様式）の作りかた

E 様式（ロ）

- 下図の内容は、SO₂ 濃度測定時の記載例です。
SO_x濃度測定の場合には、48ページ「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSO_x量」の記載例に倣って、「2.(3)a 脱硫装置前（入口）のSO_x量」および「2.(3)b 脱硫装置後（出口）のSO_x量」の数値を入力してください。

（ロ）を選択してください。（47ページ）

作成のしかたは、47ページをご覧ください。

20XX年度汚染負荷量賦課金
補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

賦課金番号 033090112		脱硫効率の算定式 (ロ)		工場・事業場名 青空工業（株） 仙台工場		01 枚目 01 全枚数	
--------------------	--	-----------------	--	-------------------------	--	-----------------	--

1. 一般事項

①開通する様式・番号	A-02/04	④脱硫方式	苛性ソーダ法
②測定機関（又は部門）	NS分析センター	⑤施設最大排出ガス量	115,700 m ³ N
③脱硫対象施設名	4号ボイラー	⑥脱硫装置処理能力	150,000 m ³ N
⑦最大燃原料使用量	種類 使用量 A重油 11,960 L/h	⑧脱硫効率（設計値）	入口SO _x 濃度 出口SO _x 濃度 % 1,300 130 90
	L/h	⑨脱硫装置稼働開始年月日	20XX年X月X日
	L/h	⑩脱硫装置の制作メーカー	K工業（株）

2. 測定及び算定内容

(1) 共通事項

①測定 年月日	SO _x 濃度 20XX年X月X日	④適用期間中における 平均燃原料使用量	種類 使用量 A重油 2,262 L/h
②脱硫適用期間	排出ガス量 20XX年X月X日		L/h
	20XX年X月～X月		L/h

(2) 燃原料から求めるSO_x量 (Sf)

項目	①燃原料の種類	②測定時の使用量	③密度	④含有硫黄分	⑤SO _x 量
測定値又は 計算値等		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	
		L/h	g/cm ³	%	

⑥合計SO_x量（有効数字4桁） Sf=

(3) 排出ガス測定から求めるSO_x量

項目	a 脱硫装置前（入口）のSO _x 量	b 脱硫装置後（出口）のSO _x 量
① SO ₂ 濃度測定値 (ppm)		
②平均 SO ₂ 濃度 (ppm)	(有効数字3桁) 956	(有効数字3桁) 8
③SO _x 濃度への補正係数	(有効数字3桁) 1.03	(有効数字3桁) 1.03
④補正 SO _x 濃度 (ppm)	(有効数字3桁) Si= 984	(有効数字3桁) Se= 8.24
⑤SO _x 濃度測定時のO ₂ 濃度測定値 (%)	6.4	6.5
⑥SO _x 濃度測定時の平均O ₂ 濃度 (%)	(有効数字3桁) Oi= 6.4	(有効数字3桁) Oe= 6.5
⑦排出ガス量測定値 (乾基) (m ³ N/h)	95600	101200
⑧平均排出ガス量 (m ³ N/h)	(有効数字4桁) 95600	(有効数字4桁) 101200
⑨排出ガス量測定時のO ₂ 濃度測定値 (%)	6.4	6.5
⑩排出ガス量測定時の平均O ₂ 濃度 (%)	(有効数字3桁) 6.4	(有効数字3桁) 6.5
⑪補正排出ガス量 (m ³ N/h)	(有効数字4桁) Vi= 95600	(有効数字4桁) Ve= 101200
⑫SO _x 量 (m ³ N/h)	(有効数字4桁) 94.07	(有効数字4桁) 0.8338
硫黄酸化物濃度の測定	⑬SO _x 濃度測定法 赤外線吸収法	⑭SO _x 濃度測定法 赤外線吸収法
	⑮採取ガス量 (L)	⑯採取ガス量 (L)

(4) 脱硫効率及び脱硫効率の補正

項目	測定値又は計算値等
①脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 99.11
②施設の稼働時間数 (h)	744
③脱硫装置の稼働時間数 (h)	744
④施設の排出ガス量 (m ³ N/h)	101200
⑤脱硫装置の処理ガス量 (m ³ N/h)	50800
⑥その他の補正係数	(有効数字3桁)
⑦補正後の脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 49.55

バイパス
(半開)

ボイラー 脱硫装置

(2) 燃原料から求めるSO_x量
何も入力しません。

2. 測定及び算定内容 (E様式 (ロ))

(1) 共通事項

- ① 測定年月日^{※1} : SOx濃度と排出ガスを測定した年月日を入力してください。
 - ② 脱硫適用期間^{※1} : この様式で算定した補正後の脱硫効率を適用する期間を入力してください。
(必ず、SOx濃度測定などを実施した「月」を含めてください。)
 - ③ 適用期間中における : 適用期間中において、脱硫対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均
平均燃原料使用量^{※2※3}を入力してください。
- ※1 :   入力必須項目です。

(3) 排出ガス測定から求めるSOx量

脱硫前の数値 : 下記にしたがって、「a脱硫装置前(入口)のSOx量」の欄に入力してください。

脱硫後の数値 : 下記にしたがって、「b脱硫装置後(出口)のSOx量」の欄に入力してください。

● SOx濃度

- ① SOx(またはSO₂)濃度測定値 : 「項目」欄で、濃度を測定した項目を、SOxまたはSO₂から選択してください。
①で[SOx]を選択した場合 : 濃度測定値の欄に、全ての測定値を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合 : 濃度測定値の欄には、何も入力しません。
- ② 平均SOx(またはSO₂)濃度^{※5※6} :  SOx(またはSO₂)濃度測定値の平均値を記入してください。
- ③ SOx濃度への補正係数^{※5} : ①で[SO₂]を選択した場合は、補正係数(57ページ)を入力してください。
- ④ 補正SOx濃度^{※5※6} :  ①で[SO₂]を選択した場合 : ②×③の数値を記入してください。
①で[SOx]を選択した場合 : ②の数値を記入してください。

● SOx測定時のO₂濃度

- ⑤ SOx濃度測定時のO₂濃度測定値 : ①で[SOx]を選択した場合 : SOx濃度測定時の全てのO₂濃度測定値を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合 : 適用期間中のO₂濃度の平均値を入力してください。
- ⑥ SOx濃度測定時の平均O₂濃度^{※5※6} :  「⑤ SOx濃度測定時のO₂濃度測定値」の平均値を記入してください。

● 排出ガス量測定時のO₂濃度および排出ガス量

- ⑦ 排出ガス量測定値(乾き) : 排出ガス量(乾きガス量)の平均値を入力してください。
- ⑧ 平均排出ガス量^{※4※6} :  平均値(「⑦ 排出ガス量測定値(乾き)」と同じ数値)を記入してください。
- ⑨ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値 : 排出ガス測定時のO₂濃度の平均値を入力してください。
- ⑩ 排出ガス量測定時の平均O₂濃度^{※5※6} :  平均値(「⑨ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値」と同じ数値)を記入してください。
- ⑪ 補正排出ガス量^{※4※6} :  補正の必要がある場合は、計算して記入してください。(58ページ)
SOx(またはSO₂)濃度測定時と排出ガス量測定時のO₂濃度が異なる場合は、必ず補正をしてください。
補正の必要がない場合は、「⑧ 平均排出ガス量」の数値を記入してください。
- ⑫ SOx量^{※4※6} :  SOx量を計算して、記入してください。(58ページ)

● 硫酸酸化物濃度の測定

- ⑬ SOx濃度測定法 : ①で[SOx]を選択した場合 : JIS K 0103のいずれか該当する測定法を入力してください。
①で[SO₂]を選択した場合 : JIS B 7981のいずれか該当する測定法を入力してください。
- ⑭ 採取ガス量 : ①を測定したときの採取ガス量(吸引ガス量)を入力してください。

(4) 脱硫効率及び脱硫効率の補正

- ① 脱硫効率 :  脱硫効率を計算し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を記入してください。(計算のしかたは、58ページをご覧ください。)
- ② 施設の稼働時間数^{※3} : 脱硫装置の適用期間における施設の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
- ③ 脱硫装置の稼働時間数^{※3} : 脱硫装置の適用期間における脱硫装置の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
- ④ 施設の排出ガス量 : 施設の排出ガス量を入力してください。
- ⑤ 脱硫装置の処理ガス量 : 脱硫装置の処理ガス量を入力してください。
- ⑥ その他の補正係数^{※5} : その他、何らかの補正係数がある場合、入力してください。
- ⑦ 補正後の脱硫効率^{※7} : 施設と脱硫装置の稼働時間または排出ガス量が異なるなどの場合は、脱硫効率(%)を補正し、
小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を入力してください。(計算のしかたは、59ページをご覧ください。)補正する必要がない場合は、①の数値を入力してください。

※2 : 該当する単位を選択してください。

※3 : 1時間当たりの量を入力してください。

※4 : 有効数字4けた(5けた以下は切り捨て)

※5 : 有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)

※6 :   自動的に計算されます。

※7 :   自動計算されませんので、適切な数値を入力してください。

算定様式（E 様式）の作りかた

E 様式（ハ）

- 下図の内容は、SO₂ 濃度測定時の記載例です。なお、E 様式（ハ）は排出ガス量が測定できない場合の算定式です。SO_x 濃度測定の場合には、48 ページ「2.(3)b 脱硫装置後（出口）の SO_x 量」の記載例に倣って、「2.(3)a 脱硫装置前（入口）の SO_x 量」および「2.(3)b 脱硫装置後（出口）の SO_x 量」の数値を入力してください。

（ハ）を選択してください。（47 ページ）

作成のしかたは、47 ページをご覧ください。

20XX年度汚染負荷量賦課金 補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）					
賦課金番号 033090112		脱硫効率の算定式 (ハ)		工場・事業場名 青空工業（株） 仙台工場	
01 枚目		01 全校数			
1. 一般事項					
① 関連する様式・番号	A-03/04, 04/04		③ 脱硫方式	苛性ソーダ法	
② 測定機関（又は部門）	NS分析センター		④ 施設最大排出ガス量	95,000	m3N
③ 脱硫対象施設名	廃棄物焼却炉		④ 脱硫装置処理能力	120,000	m3N
④ 最大燃原料使用量	種類	使用量	⑤ 入口 SO _x 濃度	⑤ 出口 SO _x 濃度	⑤ 脱硫効率 (%)
	A重油	980 L/h	1,200	80	90
	排水汚泥	1,000 L/h	⑥ 脱硫装置稼働開始年月日 20XX年X月X日		
			⑦ 脱硫装置の制作メーカー	CC工業	
2. 測定及び算定内容					
(1) 共通事項					
① 測定 年月日	SO _x 濃度 排出ガス量	20XX年X月X日 未測定	② 適用期間中における 平均燃原料使用量	種類	使用量
② 脱硫適用期間	20XX年X月～X月			A重油	856 L/h
				排水汚泥	890 L/h
(2) 燃原料から求める SO _x 量 (Sf)					
項目	① 燃原料の種類	② 測定時の使用量	③ 密度	④ 含有硫黄分	⑤ SO _x 量
測定値又は 計算値等		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
⑥ 合計 SO _x 量 (有効数字 4 桁) Sf =					
(3) 排出ガス測定から求める SO _x 量					
項目	a 脱硫装置前（入口）の SO _x 量		b 脱硫装置後（出口）の SO _x 量		
① SO ₂ 濃度測定値 (ppm)					
② 平均 SO ₂ 濃度 (ppm)	(有効数字 3 桁) 1050		(有効数字 3 桁) 16		
③ SO _x 濃度への補正係数	(有効数字 3 桁) 1.03		(有効数字 3 桁) 1.03		
④ 補正 SO _x 濃度 (ppm)	(有効数字 3 桁) Si = 1080		(有効数字 3 桁) Se = 16.4		
⑤ SO _x 濃度測定時の O ₂ 濃度測定値 (%)	6.7		7.2		
⑥ SO _x 濃度測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	(有効数字 3 桁) Oi = 6.7		(有効数字 3 桁) Oe = 7.2		
⑦ 排出ガス量測定値 (乾き) (m3N/h)					
⑧ 平均排出ガス量 (m3N/h)	(有効数字 4 桁)		(有効数字 4 桁)		
⑨ 排出ガス量測定時の O ₂ 濃度測定値 (%)					
⑩ 排出ガス量測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	(有効数字 3 桁)		(有効数字 3 桁)		
⑪ 補正排出ガス量 (m3N/h)	(有効数字 4 桁) Vi =		(有効数字 4 桁) Ve =		
⑫ SO _x 量 (m3N/h)	(有効数字 4 桁)		(有効数字 4 桁)		
硫黄化合物濃度の測定	⑬ SO _x 濃度測定法	⑭ 採取ガス量 (L)	⑮ SO _x 濃度測定法	⑯ 採取ガス量 (L)	
	赤外線吸収法		赤外線吸収法		
(4) 脱硫効率及び脱硫効率の補正					
項目	測定値又は計算値等				
① 脱硫効率 (%)	(小数点以下 2 桁) 98.42				
② 施設の稼働時間数 (h)	720				
③ 脱硫装置の稼働時間数 (h)	720				
④ 施設の排出ガス量 (m3N/h)	113000				
⑤ 脱硫装置の処理ガス量 (m3N/h)	113000				
⑥ その他の補正係数	(有効数字 3 桁)				
⑦ 補正後の脱硫効率 (%)	(小数点以下 2 桁) 98.42				

バイパス (常時閉)

ボイラー → DS (脱硫装置) → 煙突

入力チェック	算定様式の追加	算定様式の削除	印刷	エクセル保存
前年度データ複写				終了

(2) 燃原料から求める SO_x 量
何も入力しません。

● 操作のしかたは、54 ページを
ご覧ください。

■ 用紙申告の場合は、この位置に脱硫過程の簡略図を描いてください。（45 ページ）
2 枚目以降には、変更が無ければ記入する必要はありません。

2. 測定及び算定内容 (E様式 (ハ))

(1) 共通事項

- ① 測定年月日^{※1} : SOx濃度を測定した年月日を入力してください。
- ② 脱硫適用期間^{※1} : この様式で算定した補正後の脱硫効率を適用する期間を入力してください。
(必ず、SOx濃度測定などを実施した「月」を含めてください。)
- ③ 適用期間中における : 適用期間中において、脱硫対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均燃原料使用量^{※2※3}を入力してください。

※1: 入力必須項目です。

(3) 排出ガス測定から求めるSOx量

脱硫前の数値 : 下記にしたがって、「a脱硫装置前(入口)のSOx量」の欄に入力してください。

脱硫後の数値 : 下記にしたがって、「b脱硫装置後(出口)のSOx量」の欄に入力してください。

● SOx濃度

- ① SOx(またはSO₂)濃度測定値 : 「項目」欄で、濃度を測定した項目を、SOxまたはSO₂から選択してください。
- ① で[SOx]を選択した場合 : 濃度測定値の欄に、全ての測定値を入力してください。
- ① で[SO₂]を選択した場合 : 濃度測定値の欄には、何も入力しません。
- ② 平均SOx(またはSO₂)濃度^{※4※5} : SOx(またはSO₂)濃度測定値の平均値を記入してください。
- ③ SOx濃度への補正係数^{※4} : ① で[SO₂]を選択した場合は、補正係数(57ページ)を入力してください。
- ④ 補正SOx濃度^{※4※5} : ① で[SO₂]を選択した場合 : ②×③の数値を記入してください。
- ① で[SOx]を選択した場合 : ②の数値を記入してください。

● SOx測定時のO₂濃度

- ⑤ SOx濃度測定時のO₂濃度測定値 : ① で[SOx]を選択した場合 : SOx濃度測定時の全てのO₂濃度測定値を入力してください。
- ① で[SO₂]を選択した場合 : 適用期間中のO₂濃度の平均値を入力してください。
- ⑥ SOx濃度測定時の平均O₂濃度^{※4※5} : 平均値(「⑤ SOx濃度測定時のO₂濃度測定値」と同じ数値)を記入してください。

● 排出ガス量測定時のO₂濃度および排出ガス量

- ⑦ 排出ガス量測定値(乾き) : 何も入力しません。
- ⑧ 平均排出ガス量 : 何も入力しません。
- ⑨ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値 : 何も入力しません。
- ⑩ 排出ガス量測定時の平均O₂濃度 : 何も入力しません。
- ⑪ 補正排出ガス量 : 何も入力しません。
- ⑫ SOx量 : 何も入力しません。

● 硫黄酸化物濃度の測定

- ⑬ SOx濃度測定法 : ① で[SOx]を選択した場合 : JIS K 0103のいずれか該当する測定法を入力してください。
- ① で[SO₂]を選択した場合 : JIS B 7981のいずれか該当する測定法を入力してください。
- ⑭ 採取ガス量 : ①を測定したときの採取ガス量(吸引ガス量)を入力してください。

(4) 脱硫効率及び脱硫効率の補正

- ① 脱硫効率 : 脱硫効率を計算し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を記入してください。(計算のしかたは、58ページをご覧ください。)
- ② 施設の稼働時間数 : 脱硫装置の適用期間における施設の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
- ③ 脱硫装置の稼働時間数 : 脱硫装置の適用期間における脱硫装置の稼働時間(1時間未満切り捨て)を入力してください。
- ④ 施設の排出ガス量 : 施設の排出ガス量を入力してください。
- ⑤ 脱硫装置の処理ガス量 : 脱硫装置の処理ガス量を入力してください。
- ⑥ その他の補正係数^{※4} : その他、何らかの補正係数がある場合、入力してください。
- ⑦ 補正後の脱硫効率^{※6} : 施設と脱硫装置の稼働時間または排出ガス量が異なるなどの場合は、脱硫効率(%)を補正し、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値(%表示)を入力してください。(計算のしかたは、59ページをご覧ください。) 補正する必要がない場合は、①の数値を入力してください。

※2: 該当する単位を選択してください。

※5: 自動的に計算されます。

※3: 1時間当たりの量を入力してください。

※6: 自動計算されませんので、適切な数値を入力してください。

※4: 有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)

算定様式（E様式）の作りかた

ボタン操作のしかた

20XX年度汚染負荷量賦課金
補正後の脱硫効率の算定の過程を示す書類（E）

賦課金番号
03309012

脱硫効率の算定式
(イ)

工場・事業場名
青空工業（株） 仙台工場

No. E-
02 枚目
02 全枚数

1. 一般事項

①関連する様式・番号	A-02/03	④脱硫方式	水酸化マグネシウム法
②測定機関(又は部門)	NS分析センター	⑤施設最大排出ガス量	18,000 m3N
③脱硫対象施設名	2号ボイラー	⑥脱硫装置処理能力	18,000 m3N
⑦最大燃原料使用量	種類	使用量	入口SOx濃度 出口SOx濃度 %
	C重油	980 L/h	1,100 110 30
		⑧脱硫効率(設計値)	
		⑨脱硫装置稼働開始年月日	20XX年X月X日
		⑩脱硫装置の制作メーカー	(株) DS工業

2. 測定及び算定内容

(1)共通事項

①測定年月日	SOx濃度	20XX年X月X日	④適用期間中における平均燃原料使用量	種類	使用量
	排出ガス量	20XX年X月X日		C重油	636 L/h
②脱硫適用期間		20XX年X月～X月			L/h
					L/h

(2)燃原料から求めるSOx量(Sf)

項目	①燃原料の種類	②測定時の使用量	③密度	④含有硫黄分	⑤SOx量
測定値又は計算値等	C重油	636 L/h	0.944 g/cm3	2.28 %	9.838
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
		L/h	g/cm3	%	
⑥合計SOx量(有効数字4桁) Sf=					9.838

(3)排出ガス測定から求めるSOx量

項目		a 脱硫装置前(入口)のSOx量		b 脱硫装置後(出口)のSOx量	
① SOx	濃度測定値 (ppm)			105	122
②平均SOx濃度 (ppm)	(有効数字3桁)			(有効数字3桁)	113
③SOx濃度への補正係数	(有効数字3桁)			(有効数字3桁)	
④補正SOx濃度 (ppm)	(有効数字3桁) Si=			(有効数字3桁) Se=	113
⑤SOx濃度測定時の○2濃度測定値(%)				7.1	6.6
⑥SOx濃度測定時の平均○2濃度(%)	(有効数字3桁) Oi=			(有効数字3桁) Oe=	6.83
⑦排出ガス量測定値(乾き) (m3N/h)				9980	9860
⑧平均排出ガス量 (m3N/h)	(有効数字4桁)			(有効数字4桁)	9776
⑨排出ガス量測定時の○2濃度測定値(%)				7.4	7.2
⑩排出ガス量測定時の平均○2濃度(%)	(有効数字3桁)			(有効数字3桁)	7.13
⑪補正排出ガス量 (m3N/h)	(有効数字4桁) Vi=			(有効数字4桁) Ve=	9569
⑫SOx量 (m3N/h)	(有効数字4桁)			(有効数字4桁)	1.081
硫黄酸化物濃度の測定		⑬SOx濃度測定法	⑭採取ガス量(L)	⑮SOx濃度測定法	⑯採取ガス量(L)
				イオンクロマトグラフ法	20

(4)脱硫効率及び脱硫効率の補正

項目	測定値又は計算値等
①脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 89.01
②施設の稼働時間数 (h)	1416
③脱硫装置の稼働時間数 (h)	1345
④施設の排出ガス量 (m3N/h)	9569
⑤脱硫装置の処理ガス量 (m3N/h)	9569
⑥その他の補正係数	(有効数字3桁)
⑦補正後の脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 84.54

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

終了

E様式_2

E様式_1

前年度データ複写

🌐 ■ 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。（複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です）

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
2. 前年度に提出したE様式のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。
 - E様式（イ）／E様式（ロ）／E様式（ハ）は、前年度のデータの状態にかかわらず、自動では選択されません。
 - 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。（オンライン申告の場合は、印刷不要です。）

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようとする、メッセージが表示されることがあります。そのときは、変更を保存して署名を破棄するを選んでファイルを保存してください。（5ページ）
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

🌐 ■ 算定様式の追加をすると、ワークシートが追加されます。

- ワークシートの名称は、変更しないでください。変更するとデータを正しく処理できません。

算定様式（E 様式）の作りかた

「2.(2)⑤ SOx 量」の計算のしかた

下記の計算式で算定し、有効数字4けた（5けた以下は切り捨て）を入力してください。

① 固体燃料使用の場合

計算式

$$(2) \text{ ⑤ SOx 量 (m}^3 \text{ /h)} = (2) \text{ ②測定時の使用量} \times \frac{(2) \text{ ④含有硫黄分 (\%)}}{100} \times \frac{22.4}{32}$$

② 液体燃料の場合

計算式

$$(2) \text{ ⑤ SOx 量 (m}^3 \text{ /h)} = (2) \text{ ②測定時の使用量} \times (2) \text{ ③密度 (g/cm}^3 \text{)} \times \frac{(2) \text{ ④含有硫黄分 (\%)}}{100} \times \frac{22.4}{32}$$

③ 気体燃料の場合

計算式

$$(2) \text{ ⑤ SOx 量 (m}^3 \text{ /h)} = (2) \text{ ②測定時の使用量} \times \frac{(2) \text{ ④含有硫黄分 (\%)}}{100}$$

例：液体燃料使用の場合

(2) ①燃原料の種類	(2) ②測定時の使用量	(2) ③密度 (g/cm ³)	(2) ④含有硫黄分 (%)
C 重油	653 ℓ	0.944 g/cm ³	2.28%

計算の例

$$\begin{aligned} (2) \text{ ⑤ SOx 量 (m}^3 \text{ /h)} &= (2) \text{ ②測定時の使用量} \times (2) \text{ ③密度 (g/cm}^3 \text{)} \times \frac{(2) \text{ ④含有硫黄分 (\%)}}{100} \times \frac{22.4}{32} \\ &= 653 \times 0.944 \times \frac{2.28}{100} \times \frac{22.4}{32} \\ &= 9.83825 \rightarrow 9.838 \text{ m}^3 \text{ /h 有効数字 4 けた (5 けた以下切り捨て)} \end{aligned}$$

「2.(2)⑥ 合計 SOx 量」の計算のしかた

燃原料ごとの「(2)⑤ SOx 量」(m³ /h)を合計し、有効数字4けた（5けた以下は切り捨て）を入力してください。

計算の例

下記のような数値から合計 SOx 量を計算する場合

④含有硫黄分	⑤ SOx 量
2.28 % ▼	9.838
0.04 % ▼	8.024
0.20 % ▼	6.517
% ▼	
% ▼	
% ▼	
⑥ 合計 SOx 量 (有効数字 4 桁) Sf= 24.37	

$$\begin{aligned} (2) \text{ ⑥ 合計 SOx 量 (m}^3 \text{ /h)} &= 9.838 + 8.024 + 6.517 \\ &= 24.379 \rightarrow 24.37 \text{ m}^3 \text{ /h} \\ &\text{有効数字 4 けた (5 けた以下切り捨て)} \end{aligned}$$

「2.(3) ③ SOx 濃度への補正係数」の計算のしかた

SOx 濃度測定ではなく、SO₂ 濃度測定を行っているときは、SOx 濃度への補正係数をあらかじめ求め、下記の計算式で補正 SOx 濃度を算定し、有効数字 3 けた（4 けた以下は切り捨て）を入力してください。

ご 注 意

- 年 1 回以上、排出ガス中の SO₂ 濃度と SOx 濃度を同時に測定して、SOx 濃度への補正係数を算定してください。
- SOx 濃度 < SO₂ 濃度の場合は補正係数を 1 としてください。
- 溶液導電率方式、赤外線吸収方式、紫外線吸収方式、紫外線蛍光方式、干渉分光方式、定電位電解方式および炎光光度検出分析方式による排出ガス測定は SO₂ 濃度が対象であるため、SOx 濃度に補正する必要があります。
- その他測定時の実態に応じて補正する必要がある場合には、その補正理由および補正方法を明示してください。

① 補正係数の計算

計算式

$$(3)③ \text{ SOx 濃度への補正係数} = \frac{\text{SOx 濃度}}{\text{SO}_2 \text{ 濃度}}$$

② 補正 SOx 濃度の計算

計算式

$$(3)④ \text{ 補正 SOx 濃度 (ppm)} = (3)② \text{ 平均 SO}_2 \text{ 濃度 (ppm)} \times (3)③ \text{ SOx 濃度への補正係数 (①の計算結果)}$$

例：下記のような数値が測定された場合

SOx 濃度 (ppm)	SO ₂ 濃度 (ppm)	②平均 SO ₂ 濃度 (ppm)
88.5	85.9	86.2

計算の例

補正係数の計算

$$\begin{aligned} (3)③ \text{ SOx 濃度への補正係数} &= \frac{\text{SOx 濃度}}{\text{SO}_2 \text{ 濃度}} \\ &= \frac{88.5 \text{ ppm}}{85.9 \text{ ppm}} = 1.030 \rightarrow \mathbf{1.03} \text{ 有効数字 3 けた（4 けた以下切り捨て）} \end{aligned}$$

補正 SOx 濃度の計算

$$\begin{aligned} (3)④ \text{ 補正 SOx 濃度 (ppm)} &= (3)② \text{ 平均 SO}_2 \text{ 濃度 (ppm)} \times (3)③ \text{ SOx 濃度への補正係数} \\ &= 86.2 \text{ ppm} \times 1.03 \\ &= 88.78 \rightarrow \mathbf{88.7 \text{ ppm}} \text{ 有効数字 3 けた（4 けた以下切り捨て）} \end{aligned}$$

算定様式（E 様式）の作りかた

「2.(3) ⑪ 補正排出ガス量 (m³ /h)」の計算のしかた

SOx 濃度（または SO₂ 濃度）測定時の O₂ 濃度と、排出ガス量測定時の O₂ 濃度が異なる場合は、下記の計算式で排出ガスを補正し、有効数字4けた（5けた以下切り捨て）を入力してください。

ご注意

- その他測定時の実態に応じて補正する必要がある場合には、その補正理由および補正方法を明示してください。

① 補正排出ガス量の計算

計算式

$$(3)⑪ \text{補正排出ガス量 (m}^3 \text{/h)} = (3)⑧ \text{平均排出ガス量 (m}^3 \text{/h)} \times \frac{21 (\%) - (3)⑩ \text{排出ガス量測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 (\%)}}{21 (\%) - (3)⑥ \text{ SOx 濃度測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 (\%)}}$$

例：下記のような数値が測定された場合

(3)⑥ SOx 濃度測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	(3)⑩ 排出ガス量測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	(3)⑧ 平均排出ガス量 (m ³ /h)
6.15	5.85	45,930

計算の例

$$\begin{aligned} (3)⑪ \text{補正排出ガス量 (m}^3 \text{/h)} &= (3)⑧ \text{平均排出ガス量 (m}^3 \text{/h)} \times \frac{21 (\%) - (3)⑩ \text{排出ガス量測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 (\%)}}{21 (\%) - (3)⑥ \text{ SOx 濃度測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 (\%)}} \\ &= 45,930 \times \frac{21 - 5.85}{21 - 6.15} \\ &= 46,857 \rightarrow 46,850 \text{ m}^3 \text{/h 有効数字 4 けた (5 けた以下切り捨て)} \end{aligned}$$

「2.(3) ⑫ SOx 量 (m³ /h)」の計算のしかた

下記の計算式で算定し、有効数字4けた（5けた以下切り捨て）を入力してください。

計算式

$$(3)⑫ \text{ SOx 量 (m}^3 \text{/h)} = (3)④ \text{補正 SOx 濃度 (ppm)} \times (3)⑪ \text{補正排出ガス量 (m}^3 \text{/h)} \times 10^{-6}$$

「2.(4) ① 脱硫効率 (%)」の計算のしかた

「脱硫効率の算定式」で選択した内容（イ・ロ・ハ）に応じて、下記のいずれかの算定式を使用して計算してください。
数値は、%表示で小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値を入力してください。

ご注意

- 脱硫装置の入口測定位置と出口測定位置の間で、余剰空気のもれこみ以外の要素（例：アフターバーナーなど）があるときは、これらの計算式は使えません。
- 標準的硫黄分を採用している場合は、必ず（イ）式で計算してください。

① E 様式（イ）（脱硫前の燃原料から求めた SOx 量と、脱硫後の排出ガス中の SOx 濃度と、排出ガス量から脱硫効率を求める場合）

計算式

$$(4)① \text{脱硫効率 (\%)} = \left\{ 1 - \frac{Se \times Ve \times 10^{-6}}{Sf} \right\} \times 100$$

Sf : 燃原料から求めた SOx 量 (m³ /h)
Se : 出口補正 SOx 濃度 (ppm)
Ve : 出口補正排出ガス量 (m³ /h)

② E様式(ロ) (SOx濃度と排出ガス量を、脱硫前と脱硫後で測定して、脱硫効率を求める場合)

計算式

$$(4)①脱硫効率(\%) = \left\{ 1 - \frac{Se \times Ve \times 10^{-6}}{Si \times Vi \times 10^{-6}} \right\} \times 100$$

Si : 入口補正SOx濃度 (ppm)
Vi : 入口補正排出ガス量 (m³/h)
Se : 出口補正SOx濃度 (ppm)
Ve : 出口補正排出ガス量 (m³/h)

③ E様式(ハ) (SOx濃度とO₂濃度を、脱硫前と脱硫後で測定して、脱硫効率を求める場合)

計算式

$$(4)①脱硫効率(\%) = \left\{ 1 - \frac{Se \times (21 - Oi)}{Si \times (21 - Oe)} \right\} \times 100$$

Si : 入口補正SOx濃度 (ppm)
Oi : 入口平均O₂濃度 (%)
Se : 出口補正SOx濃度 (ppm)
Oe : 出口平均O₂濃度 (%)
21 : 空気中の酸素割合 (%)

「2.(4) ⑦ 補正後の脱硫効率(%)」の計算のしかた

脱硫効率を時間比および排出ガス量比などで補正し、補正後の脱硫効率(%)を、小数点以下3けた目を切り捨て、2けたまでの数値を求めてください。

ご注意

- 稼働時間や排出ガスの処理量が同じであり、補正する必要がないときは、「(4) ①脱硫効率」と同じ数値になります。
- A様式「⑪補正後の脱硫効率」C様式「⑮補正後の脱硫効率」D様式(a)「⑨補正後の脱硫効率」「⑮補正後の脱硫効率」は、この値を入力してください。
- その他、測定位置などの実態に応じて補正する必要がある場合には、その補正理由および補正方法を明示してください。

① 脱硫装置の稼働時間が施設の稼働時間と異なる場合

項目	測定値又は計算値等
①脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 99.01
②施設の稼働時間数 (h)	1416
③脱硫装置の稼働時間数 (h)	1345
④施設の排出ガス量 (m ³ /h)	9569
⑤脱硫装置の処理ガス量 (m ³ /h)	9569
⑥その他の補正係数	(有効数字3桁)
⑦補正後の脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 94.54

1416
1345

2. (4)② 施設の稼働時間数 (h) と
2. (4)③ 脱硫装置の稼働時間数 (h) が異なります。

計算式

$$Y_R = Y_P \times K_t$$

凡 例

Y_R : 補正後の脱硫効率 (%)

Y_P : 脱硫装置の脱硫効率 (%)

$$K_t : \text{時間比} = \frac{\text{脱硫装置の稼働時間数 (h)}}{\text{施設の稼働時間数 (h)}}$$

$$K_Q : \text{排出ガス量比} = \frac{\text{脱硫装置の処理ガス量 (m}^3\text{/h)}}{\text{施設の排出ガス量 (m}^3\text{/h)}}$$

② 排出ガスの一部を脱硫装置へ通し、他は通さない場合

項目	測定値又は計算値等
①脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 99.11
②施設の稼働時間数 (h)	744
③脱硫装置の稼働時間数 (h)	744
④施設の排出ガス量 (m ³ /h)	101200
⑤脱硫装置の処理ガス量 (m ³ /h)	50800
⑥その他の補正係数	(有効数字3桁)
⑦補正後の脱硫効率 (%)	(小数点以下2桁) 49.55

101200
50800

2. (4)④ 施設の排出ガス量 (m³/h) と
2. (4)⑤ 脱硫装置の処理ガス量 (m³/h) が異なります。

計算式

$$Y_R = Y_P \times K_Q$$

③ 上記①と②を共用する場合

計算式

$$Y_R = Y_P \times K_t \times K_Q$$

算定様式（b 様式）の作りかた

算定様式（b 様式）とは

B様式、D様式（b）を使用してSOx排出量を算定する場合の測定結果を明らかにするための書類です。入力の際は、44ページ「排出ガス測定の一般事項（E様式およびb様式共通）」をまずお読みください。

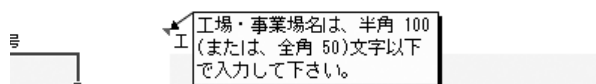
- 1枚に、3回分の測定データを入力することができます。
- 排出ガス測定の頻度は
→原則2か月に1回以上測定してください。
ただし、大気汚染防止法、電気事業法でSOx量の常時測定義務がある施設については、1か月間の平均値を使用して月1回の算定としてください。
- 脱硫装置などのある施設で、測定適用期間において、脱硫装置などの稼働時間が施設の稼働時間と異なる場合は
→脱硫装置の稼働時と停止時に分けて排出ガス測定を行い、個々にB様式を作成してください。

作成時の留意点

Excel雛型ファイルに入力する際の留意点

- Excel雛型ファイルの黄色で塗られた項目（セル）が、入力する箇所です。
- 数字は、半角で入力してください。
- 数字のカンマ（,）は、自動で表示されます。（例：「1234567」と入力すると、「1,234,567」と表示されます。）
- 各セルの右上の「」マークにマウスポインターを移動させると、入力の際の留意点を表示します。

例： 排出ガス測定の結果を示す書類（b）



Excel雛型ファイルの入力が全て完了したら

- 保存する前に、必ず**入力チェック**をクリックして、入力にもれや誤りがないかを確認してください。（67ページ）
- 入力チェックが完了していないExcel雛型ファイルをオンライン申告システムからアップロードしようとすると、エラーになり、送信できません。

b 様式 (共通)

「1. 一般事項」、「2. 排出ガス測定による理由」、「3. 排出ガス経路及び測定位置」は、SOx濃度測定/SO₂濃度測定の場合も共通です。
 ④ b様式を2枚以上使用する場合、1～3については、変更がなければ、2枚目以降に入力する必要はありません。

1. 一般事項

- ① 関連する様式・番号：この様式に関連する算定様式の番号を入力してください。
- ② 測定機関（又は部門）：排出ガスの測定をした機関（自社測定の場合は部門）などの名称を入力してください。
- ③ 測定対象施設名：測定の対象となるばい煙発生施設などの施設名を入力してください。
- ④ 最大燃原料使用量：測定対象施設（③）で使用した燃原料の種類を入力し、該当する単位を選択後、1時間当たりの最大燃原料使用量を入力してください。（3種類以上の燃原料を使用する場合は、硫酸化合物（SOx）を排出する主たる燃原料を2種類選んで入力してください。）

賦課金番号

④ 申告書に入力されている汚染負荷量賦課金番号を入力してください。

申告書に入力した納付義務者名、工場・事業場名を入力してください。

ナンバ No.

④ b様式の全使用枚数と通し番号です。
 この例では、全12枚のうちの1枚目であることを表します。

④ Excel雛型ファイルで様式を追加すると、自動的にNo.が付与されます。

20XX年度汚染負荷量賦課金
排出ガス測定の結果を示す書類（b）

賦課金番号 03309012

工場・事業場名 青空工業(株)仙台工場

No. b- 01 枚目
12 全枚数

1. 一般事項

① 関連する様式・番号 B-02/03	④ 最大燃原料使用量	種類	使用量
② 測定機関(又は部門) MS分析センター		ペーパー・スラッジ	313 kg/h
③ 測定対象施設名 焼却炉		黒液	177 kg/h

2. 排出ガス測定による理由

燃原料より求める方法(A様式)で算定できないなどの理由を選んで、併せてその具体的な理由を記入して下さい。

☐ (1) 燃原料の把握が困難
☒ (2) 燃原料の密度、硫黄分の把握が困難
☒ (3) 製品等への脱硫効率の算定が困難
☒ (4) 脱硫装置などの脱硫効率の算定が困難
☐ (5) その他

(上記の具体的な理由) ① 黒液中の硫黄分の把握が正確にできない。② スムルトに吸収されるS量がとらえにくい。

ボイラー 脱硫装置

4. 測定及び算定内容

項目	測定値又は計算値等 [4]	測定値又は計算値等 [5]	測定値又は計算値等 [6]
① 測定 年 月 日	20XX年X月X日	20XX年X月X日	20XX年X月X日
排出ガス量	20XX年X月X日	20XX年X月X日	20XX年X月X日
② 測定適用期間	20XX年X月	20XX年X月	20XX年X月
③ 適用期間中における 平均燃原料使用量	種類 使用量 スラッジ 229 kg/h 黒液 142 kg/h	種類 使用量 スラッジ 250 kg/h 黒液 152 kg/h	種類 使用量 スラッジ 265 kg/h 黒液 148 kg/h
④ 測定時における 燃原料使用量	種類 使用量 スラッジ 229 kg/h 黒液 142 kg/h	種類 使用量 スラッジ 250 kg/h 黒液 152 kg/h	種類 使用量 スラッジ 265 kg/h 黒液 148 kg/h
⑤ SO ₂ 濃度測定値 (ppm)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)
	有効数字 15	有効数字 3桁	有効数字 3桁

添付書類

b

● 算定様式（b様式）の作りかた

2. 排出ガス測定による理由

- 該当する理由を選択してください。（複数選択可）
- 併せて、選択した項目について、具体的な理由も必ず入力してください。
 - ④ 半角120文字(全角60文字)以内

3. 排出ガス経路及び測定位置

④ 用紙申告の場合は、この位置に脱硫過程の簡略図を描いてください。（45ページ）

算定様式（b様式）の作りかた

SOx濃度測定値をもとに作成する場合

作成のしかたは、61ページをご覧ください。

20XX年度汚染負荷量賦課金
排出ガス測定の結果を示す書類（b）

賦課金番号
03309012

工場・事業場名
青空工業㈱仙台工場

01 枚目
02 全枚数

1. 留意事項

① 関連する様式・番号	B-01/03	④ 最大燃原料使用量	種類	使用量	
② 測定機関（又は部門）	MS分析センター		黒炭	18,000	kg/h
③ 測定対象施設名	1号黒炭回収ボイラー				L/h

2. 排出ガス測定による理由

燃原料より求める方法（A様式）で算定できないなどの理由を選んで、併せてその具体的な理由を記入して下さい。

☐ (1) 燃原料の把握が困難
☒ (2) 燃原料の密度、硫黄分の把握が困難
☒ (3) 製品等への脱硫効率の算定が困難
☐ (4) 脱硫装置などの脱硫効率の算定が困難
☐ (5) その他

（上記の具体的な理由）① 黒炭中の硫黄分の把握が正確にできない。② スメルトに吸収される量がとらえにくい。

4. 測定及び算定内容

項目	測定値又は計算値等 [1]	測定値又は計算値等 [2]	測定値又は計算値等 [3]
① 測定 年 月 日	20XX年X月X日	20XX年X月X日	20XX年X月X日
② 測定適用期間	20XX年X月	20XX年X月	20XX年X月
③ 適用期間中における 平均燃原料使用量	種類 使用量 黒炭 12230 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 12245 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 13038 kg/h L/h
④ 測定時における 燃原料使用量	種類 使用量 黒炭 11616 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 11866 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 12516 kg/h L/h
⑤ SOx 濃度測定値 (ppm)	(1) 150 (2) 160 (3) 160	(1) 170 (2) 170 (3) 160	(1) 150 (2) 170 (3) 160
⑥ SOx 平均濃度 (ppm)	有効数字 3桁 156	有効数字 3桁 166	有効数字 3桁 160
⑦ SOx濃度への補正係数	有効数字 3桁	有効数字 3桁	有効数字 3桁
⑧ 補正SOx濃度 (ppm)	小数点以下切捨て 156	小数点以下切捨て 166	小数点以下切捨て 160
⑨ SOx濃度測定時のO2濃度測定値 (%)	(1) 6 (2) 6.5 (3)	(1) 7 (2) 6.7 (3)	(1) 6.6 (2) 6.9 (3)
⑩ SOx濃度測定時の平均O2濃度 (%)	有効数字 3桁 6.25	有効数字 3桁 6.85	有効数字 3桁 6.75
⑪ 排出ガス量測定値 (乾き) (m3N/h)	(1) 63900 (2) 66200 (3)	(1) 69100 (2) 71700 (3)	(1) 75000 (2) 72300 (3)
⑫ 平均排出ガス量 (m3N/h)	有効数字 4桁 65050	有効数字 4桁 70400	有効数字 4桁 73650
⑬ 排出ガス量測定時のO2濃度測定値 (%)	(1) 6 (2) 6.5 (3)	(1) 6.8 (2) 7.3 (3)	(1) 7.2 (2) 6.7 (3)
⑭ 排出ガス量測定時の平均O2濃度 (%)	有効数字 3桁 6.25	有効数字 3桁 7.05	有効数字 3桁 6.95
⑮ 補正排出ガス量 (m3N/h)	有効数字 4桁 68480	有効数字 4桁 71620	有効数字 4桁 75640
硫黄酸化物濃度の測定	① SOx濃度測定法 沈殿測定法	② SOx濃度測定法 沈殿測定法	③ SOx濃度測定法 沈殿測定法
（排出ガス量の補正の理由と方法） 黒炭使用量と排出ガス量がほぼ比例するため。また、SOx濃度と排出ガス量測定時のO2濃度が異なるため。 $70400 \times (21 - 7.05) \div (21 - 6.85) \times (12245 \div 11866) = 71620$ $73650 \times (21 - 6.95) \div (21 - 6.75) \times (13038 \div 12516) = 75640$			

入力チェック

前年度データ複写

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

終了

操作のしかたは、66ページをご覧ください。

SO₂ではなく、SO_x濃度を測定している場合に、以下のように入力してください。

1枚に、3回分の測定データを入力することができます。

4. 測定及び算定内容

- ① 測定年月日：SO_x濃度と排出ガス量を測定した年月日を入力してください。
- ② 測定適用期間：測定結果を適用する期間を入力してください。
測定適用期間には、必ずSO_x濃度測定などを実施した「月」を含めてください。
- ③ 適用期間中における平均燃原料使用量：適用期間中において、測定対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均使用量を小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力し、該当する単位を選択してください。
- ④ 測定時における燃原料使用量：測定時において、測定対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの使用量を小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力し、該当する単位を選択してください。(3種類以上の燃原料を使用する場合は、硫酸化物(SO_x)を排出する主たる燃原料を2種類選んで入力してください。)

● SO_x濃度

- ⑤ [SO_x] 濃度測定値^{*1}：全てのSO_x濃度測定値を入力してください。
- ⑥ SO_x 平均濃度^{*2}：☐「⑤ [SO_x] 濃度測定値」の平均値を有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)にして記入してください。
- ⑦ SO_x濃度への補正係数：何も入力しません。
- ⑧ 補正 SO_x 濃度^{*2}：☐「⑥の数値を小数点以下の端数を切り捨てた整数値で記入してください。
● 関連するB様式「⑪補正SO_x濃度」あるいはD様式(b)「(21) 補正SO_x濃度」に、この数値を入力してください。

● SO_x測定時のO₂濃度

- ⑨ SO_x濃度測定時のO₂濃度測定値：SO_x濃度測定時の全てのO₂濃度の測定値を入力してください。
- ⑩ SO_x濃度測定時の平均O₂濃度^{*2}：☐「⑨ SO_x濃度測定時のO₂濃度測定値」の平均値を有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)にして記入してください。

● 排出ガス量および排出ガス測定時のO₂濃度

- ⑪ 排出ガス量測定値(乾き)：全ての排出ガス量(乾きガス量)の測定値を入力してください。
- ⑫ 平均排出ガス量^{*2}：☐「⑪ 排出ガス量測定値(乾き)」の平均値を有効数字4けた(5けた以下は切り捨て)にして記入してください。
- ⑬ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値：排出ガス測定時の全てのO₂濃度の測定値を入力してください。
- ⑭ 排出ガス量測定時の平均O₂濃度^{*2}：☐「⑬ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値」の平均値を有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)にして記入してください。
- ⑮ 補正排出ガス量^{*3}：補正の必要がある場合は、計算して入力してください。(69ページ)
補正の必要がない場合は、「⑫平均排出ガス量」の数値を有効数字4けた(5けた以下は切り捨て)にして入力してください。
● ⑩と⑭の数値が異なる場合は、必ず補正をしてください。
● ③と④の数値が異なり、必要がある場合には、補正をしてください。
● 関連するB様式「⑩補正排出ガス量」あるいはD様式(b)「(20)補正排出ガス量」に、この数値を入力してください。

● 硫酸化物濃度の測定

- ⑯ SO_x 濃度測定法：JIS K 0103のいずれか該当する測定法を入力してください。
- ⑰ 採取ガス量：①を測定したときの採取ガス量(吸引ガス量)を入力してください。

排出ガス量の補正の理由と方法

排出ガス量を補正している場合は、その理由、方法を必ず入力してください。

☐ 半角200文字(全角100文字)以内

※1：SO_x濃度の測定回数が4回以上の場合、その平均値を入力してください。

※2：☐ 自動的に計算されます。 ※3：☐ 自動的に計算されません。

算定様式（b 様式）の作りかた

SO₂ 濃度測定値をもとに作成する場合

作成のしかたは、61 ページをご覧ください。

20XX年度汚染負荷量賦課金 排出ガス測定の結果を示す書類（b）

賦課金番号
03309012

工場・事業場名
青空工業㈱仙台工場

01 枚目
12 全枚数

1. 留意事項

① 関連する様式・番号	B-02/03	④ 最大燃原料使用量	種類	使用量
② 測定機関（又は部門）	MS分析センター		スラッジ	313 kg/h
③ 測定対象施設名	焼却炉		黒液	177 kg/h

2. 排出ガス測定による理由

燃原料より求める方法（A様式）で算定できないなどの理由を選んで、併せてその具体的な理由を記入して下さい。

- ☐ (1) 燃原料の把握が困難
- ☐ (2) 燃原料の密度、硫黄分の把握が困難
- ☒ (3) 製品等への脱硫効率の算定が困難
- ☐ (4) 脱硫装置などの脱硫効率の算定が困難
- ☐ (5) その他

（上記の具体的な理由）① 黒液中の硫黄分の把握が正確にできない。② スメルトに吸収される量がとらえにくい。

4. 測定及び算定内容

項目	測定値又は計算値等 [4]	測定値又は計算値等 [5]	測定値又は計算値等 [6]
① 測定 年 月 日	20XX年X月X日	20XX年X月X日	20XX年X月X日
② 測定適用期間	20XX年X月	20XX年X月	20XX年X月
③ 適用期間中における 平均燃原料使用量	種類 使用量 スラッジ 229 kg/h 黒液 142 kg/h	種類 使用量 スラッジ 250 kg/h 黒液 152 kg/h	種類 使用量 スラッジ 265 kg/h 黒液 148 kg/h
④ 測定時における 燃原料使用量	種類 使用量 スラッジ 229 kg/h 黒液 142 kg/h	種類 使用量 スラッジ 250 kg/h 黒液 152 kg/h	種類 使用量 スラッジ 265 kg/h 黒液 148 kg/h
⑤ SO ₂ 濃度測定値 (ppm)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)
⑥ SO ₂ 平均濃度 (ppm)	有効数字 3桁 13	有効数字 3桁 15	有効数字 3桁 24.8
⑦ SO ₂ 濃度への補正係数	有効数字 3桁 1	有効数字 3桁 1	有効数字 3桁 1
⑧ 補正 SO ₂ 濃度 (ppm)	小数点以下切捨て 13	小数点以下切捨て 15	小数点以下切捨て 24
⑨ SO ₂ 濃度測定時の O ₂ 濃度測定値 (%)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)
⑩ SO ₂ 濃度測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	有効数字 3桁 6.5	有効数字 3桁 6.7	有効数字 3桁 6.4
⑪ 排出ガス量測定値 (乾き) (m ³ N/h)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)
⑫ 平均排出ガス量 (m ³ N/h)	有効数字 4桁 15600	有効数字 4桁 16000	有効数字 4桁 14200
⑬ 排出ガス量測定時の O ₂ 濃度測定値 (%)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)	(1) (2) (3)
⑭ 排出ガス量測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	有効数字 3桁 6.5	有効数字 3桁 6.7	有効数字 3桁 6.4
⑮ 補正排出ガス量 (m ³ N/h)	有効数字 4桁 15600	有効数字 4桁 16000	有効数字 4桁 14200
硫黄酸化物濃度の測定	① SO ₂ 濃度測定法 赤外線吸収法	② SO ₂ 濃度測定法 赤外線吸収法	③ SO ₂ 濃度測定法 赤外線吸収法

（排出ガス量の補正の理由と方法）

「SO₂」を選択
してください。

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

終了

操作のしかたは、66 ページをご覧ください。

SO_xではなく、SO₂濃度を測定している場合に、以下のように入力してください。

1枚に、3回分の測定データを入力することができます。

4. 測定及び算定内容

- ① 測定年月日 : SO₂濃度と排出ガス量を測定した年月日を入力してください。
SO₂連続系平均値の場合は、「〇〇年〇月1日」としてください。
- ② 測定適用期間 : 測定結果を適用する期間を入力してください。
測定適用期間には、必ずSO₂濃度測定などを実施した「月」を含めてください。
- ③ 適用期間中における平均燃原料使用量 : 適用期間中において、測定対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの平均使用量を小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力し、該当する単位を選択してください。
- ④ 測定時における燃原料使用量 : 測定時において、測定対象施設で使用した燃原料の種類と1時間当たりの使用量を小数点以下の端数を切り捨てた整数値で入力し、該当する単位を選択してください。
(3種類以上の燃原料を使用する場合は、硫黄酸化物(SO_x)を排出する主たる燃原料を2種類選んで入力してください。)

●SO_x濃度

- ⑤ [SO₂]濃度測定値 : 何も入力しません。
- ⑥ SO₂平均濃度^{*1} : ① 1か月の平均SO₂濃度を有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)で記入してください。
- ⑦ SO_x濃度への補正係数 : 補正係数(68ページ)を入力してください。
- ⑧ 補正SO_x濃度^{*1} : ⑥×⑦の数値を小数点以下の端数を切り捨てた整数値で記入してください。
● 関連するB様式「⑪補正SO_x濃度」あるいはD様式(b)「(21)補正SO_x濃度」に、この数値を入力してください。

●SO_x測定時のO₂濃度

- ⑨ SO_x濃度測定時のO₂濃度測定値 : ① 測定適用期間のO₂濃度の平均値を記入してください。
- ⑩ SO_x濃度測定時の平均O₂濃度^{*1} : ① 測定適用期間のO₂濃度の平均値を記入してください。

●排出ガス量および排出ガス測定時のO₂濃度

- ⑪ 排出ガス量測定値(乾き) : 全ての排出ガス量(乾きガス量)の測定値を入力してください。
- ⑫ 平均排出ガス量^{*1} : ①「⑪排出ガス量測定値(乾き)」の平均値を有効数字4けた(5けた以下は切り捨て)にして記入してください。
- ⑬ 排出ガス量測定時のO₂濃度測定値 : 排出ガス測定時の全てのO₂濃度の測定値を入力してください。
- ⑭ 排出ガス量測定時の平均O₂濃度^{*1} : ①「⑬排出ガス量測定時のO₂濃度測定値」の平均値を有効数字3けた(4けた以下は切り捨て)にして記入してください。
- ⑮ 補正排出ガス量^{*2} : 補正の必要がある場合は、計算して入力してください。(69ページ)
補正の必要がない場合は、「⑫平均排出ガス量」の数値を有効数字4けた(5けた以下は切り捨て)にして入力してください。
● ⑩と⑭の数値が異なる場合は、必ず補正をしてください。
● ③と④の数値が異なり、必要がある場合には、補正をしてください。
● 関連するB様式「⑩補正排出ガス量」あるいはD様式(b)「(20)補正排出ガス量」に、この数値を入力してください。

●硫黄酸化物濃度の測定

- ⑯ SO_x濃度測定法 : JIS B 7981のいずれかが該当する測定法を入力してください。
- ⑰ 採取ガス量 : ①を測定したときの採取ガス量(吸引ガス量)を入力してください。

排出ガス量の補正の理由と方法

排出ガス量を補正している場合は、その理由、方法を必ず入力してください。

Ⓐ 半角200文字(全角100文字)以内

※1: Ⓐ 自動的に計算されます。 ※2: Ⓐ 自動的に計算されません。

算定様式（b様式）の作りかた

ボタン操作のしかた

20XX年度汚染負荷量賦課金
排出ガス測定の結果を示す書類（b）

賦課金番号
03309012

工場・事業場名
青空工業㈱仙台工場

No. b-
01 枚目
02 全枚数

1. 一般事項

① 関連する様式・番号
8-01/03

② 測定機関（又は部門）
MS分析センター

③ 測定対象施設名
1号黒炭回収ボイラー

④ 最大燃原料使用量

種類
黒炭

使用量
18,000
kg/h

種類
L/h

2. 排出ガス測定による理由

燃原料より求める方法（A様式）で算定できないなどの理由を選んで、併せてその具体的な理由を記入して下さい。

☐ (1) 燃原料の把握が困難

☐ (2) 燃原料の密度、硫黄分の把握が困難

☒ (3) 製品等への脱硫効率の算定が困難

☐ (4) 脱硫装置などの脱硫効率の算定が困難

☐ (5) その他

(上記の具体的な理由) ① 黒炭中の硫黄分の把握が正確にできない。② スムルトに吸収されるS量がとらえにくい。

4. 測定及び算定内容

項目	測定値又は計算値等 [1]	測定値又は計算値等 [2]	測定値又は計算値等 [3]
① 測定 年月日	20XX年X月X日 排出ガス量	20XX年X月X日 排出ガス量	20XX年X月X日 排出ガス量
② 測定適用期間	20XX年X月	20XX年X月	20XX年X月
③ 適用期間中における 平均燃原料使用量	種類 使用量 黒炭 12230 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 12245 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 13038 kg/h L/h
④ 測定時における 燃原料使用量	種類 使用量 黒炭 11616 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 11866 kg/h L/h	種類 使用量 黒炭 12516 kg/h L/h
⑤ SOx 濃度測定値 (ppm)	(1) 150 (2) 160 (3) 160	(1) 170 (2) 170 (3) 160	(1) 150 (2) 170 (3) 160
⑥ SOx 平均濃度 (ppm)	有効数字 3桁 156	有効数字 3桁 166	有効数字 3桁 160
⑦ SOx濃度への補正係数	有効数字 3桁	有効数字 3桁	有効数字 3桁
⑧ 補正 SOx濃度 (ppm)	小数点以下切捨て 156	小数点以下切捨て 166	小数点以下切捨て 160
⑨ SOx濃度測定時のO2濃度測定値 (%)	(1) 6 (2) 6.5 (3)	(1) 7 (2) 6.7 (3)	(1) 6.6 (2) 6.9 (3)
⑩ SOx濃度測定時の平均O2濃度 (%)	有効数字 3桁 6.25	有効数字 3桁 6.85	有効数字 3桁 6.75
⑪ 排出ガス量測定値 (乾き) (m3N/h)	(1) 63900 (2) 66200 (3)	(1) 69100 (2) 71700 (3)	(1) 75000 (2) 72300 (3)
⑫ 平均排出ガス量 (m3N/h)	有効数字 4桁 65050	有効数字 4桁 70400	有効数字 4桁 73650
⑬ 排出ガス量測定時のO2濃度測定値 (%)	(1) 6 (2) 6.5 (3)	(1) 6.8 (2) 7.3 (3)	(1) 7.2 (2) 6.7 (3)
⑭ 排出ガス量測定時の平均O2濃度 (%)	有効数字 3桁 6.25	有効数字 3桁 7.05	有効数字 3桁 6.95
⑮ 補正排出ガス量 (m3N/h)	有効数字 4桁 68480	有効数字 4桁 71620	有効数字 4桁 75640
硫黄酸化物濃度の測定	⑯ SOx濃度測定法 沈殿測定法	⑰ SOx濃度測定法 沈殿測定法	⑱ SOx濃度測定法 沈殿測定法

(排出ガス量の補正の理由と方法)
黒炭使用量と排出ガス量がほぼ比例するため。また、SOx濃度と排出ガス量測定時のO2濃度が異なるため。
 $70400 \times (21 - 7.05) \div (21 - 6.85) \times (12245 \div 11866) = 71620$
 $73650 \times (21 - 6.95) \div (21 - 6.75) \times (13038 \div 12516) = 75640$

入力チェック

算定様式の追加

算定様式の削除

印刷

エクセル保存

前年度データ複写

終了

s b様式_2

s b様式_1

+

前年度データ複写

🌐 ■ 前年度、オンライン申告またはFD・CD申告した場合は、下記手順で前年度のExcel雛型ファイルから入力情報を複写できます。（複写できる項目は、図の水色で塗られた箇所です）

1. 「前年度データ複写」をクリックする。
 2. 前年度に提出したb様式のExcel雛型ファイルを選択し、「開く」をクリックする。
- 前年度にオンライン申告またはFD・CD申告していない場合は、前年度データ複写はできません。

入力チェック

⚠ 入力後、必ず行ってください

入力内容に不備がないかをチェックできます。

- 不備がある場合は、不備の内容をメッセージで案内しますので、メッセージにしたがって修正してください。
- 不備がない場合は、「入力チェック完了」と表示されますので、OKをクリックしてください。

算定様式の追加／算定様式の削除

算定様式のワークシートを追加／削除します。

お願い

- 算定様式の追加／削除は、必ずこのボタンから行ってください。
Excelの「ワークシートの挿入／コピー／削除」機能から追加することはできません。

印刷

入力した内容をA4用紙に印刷することができます。（オンライン申告の場合は、印刷不要です。）

お願い

- 印刷する際は、必ずこのボタンから行ってください。Excelの印刷ダイアログから行くと、正常に印刷できません。

エクセル保存

パソコンの任意の場所に、Excel雛型ファイルを保存することができます。

お願い

- Excel雛型ファイルを保存する際は、必ずこのボタンから行ってください。他の方法では、正常に保存できません。
- 「算定様式の追加」をしたファイルを保存しようとする、メッセージが表示されることがあります。
そのときは、**変更を保存して署名を破棄する**を選んでファイルを保存してください。（5ページ）
- 保存したExcel雛型ファイルの名称は変更しないでください。アップロードができなくなります。

終了

現在開いているExcel雛型ファイルを閉じます。

- 終了する前に、ファイルを保存したことを必ず確認してください。

🌐 ■ 算定様式の追加をすると、ワークシートが追加されます。

- ワークシートの名称は、変更しないでください。変更するとデータを正しく処理できません。

算定様式（b様式）の作りかた

「4.⑦SOx濃度への補正係数」と「4.⑧補正SOx濃度(ppm)」の計算のしかた

SOx濃度測定ではなく、SO₂濃度測定を行っているときは、SOx濃度への補正係数をあらかじめ求め、下記の計算式で補正SOx濃度を算定し、有効数字3けた（4けた以下切り捨て）を入力してください。

ご注意

- 年1回以上、排出ガス中のSO₂濃度とSOx濃度を同時に測定して、SOx濃度への補正係数を算定してください。
- SOx濃度<SO₂濃度の場合は補正係数を1としてください。
- 溶液導電率方式、赤外線吸収方式、紫外線吸収方式、紫外線蛍光方式、干渉分光方式、定電位電解方式および炎光光度検出分析方式による排出ガス測定はSO₂濃度が対象であるため、SOx濃度に補正する必要があります。
- その他測定時の実態に応じて補正する必要がある場合には、その補正理由および補正方法を明示してください。

① 補正係数の計算

計算式

$$\boxed{\text{⑦ SOx 濃度への補正係数}} = \frac{\text{SOx 濃度}}{\text{SO}_2 \text{ 濃度}}$$

② 補正SOx濃度の計算

計算式

$$\boxed{\text{⑧ 補正 SOx 濃度 (ppm)}} = \boxed{\text{⑥ SO}_2 \text{ 平均濃度 (ppm)}} \times \boxed{\text{⑦ SOx 濃度への補正係数 (①の計算値)}}$$

例：下記のような数値が測定された場合

SOx 濃度 (ppm)	SO ₂ 濃度 (ppm)	⑥ SO ₂ 平均濃度 (ppm)
88.5	85.9	86.2

計算の例

補正係数の計算

$$\begin{aligned}\boxed{\text{⑦ SOx 濃度への補正係数}} &= \frac{\text{SOx 濃度}}{\text{SO}_2 \text{ 濃度}} \\ &= \frac{88.5 \text{ ppm}}{85.9 \text{ ppm}} = 1.030 \rightarrow \mathbf{1.03} \quad \text{有効数字 3 けた（4 けた以下切り捨て）}\end{aligned}$$

補正SOx濃度の計算

$$\begin{aligned}\boxed{\text{⑧ 補正 SOx 濃度 (ppm)}} &= \boxed{\text{⑥ SO}_2 \text{ 平均濃度 (ppm)}} \times \boxed{\text{⑦ SOx 濃度への補正係数}} \\ &= 86.2 \text{ ppm} \times 1.03 \\ &= 88.786 \rightarrow \mathbf{88 \text{ ppm}} \quad \text{（小数点以下切り捨て）}\end{aligned}$$

「4. ⑮ 補正排出ガス量 (m³/h)」の計算のしかた

補正が必要な場合には、下記の計算式などで排出ガス量を補正し、有効数字4けた(5けた以下切り捨て)を入力してください。

ご注意

- その他測定時の実態に応じて補正する必要がある場合には、その補正理由および補正方法を明示してください。

- ① 「⑩ SOx 濃度 (または SO₂ 濃度) 測定時の平均 O₂ 濃度」と、「⑭ 排出ガス量測定時の平均 O₂ 濃度」が異なる場合

計算式

$$\text{⑮ 補正排出ガス量 (m³/h)} = \text{⑫ 平均排出ガス量 (m³/h)} \times \frac{21 (\%) - \text{⑭ 排出ガス量測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 } (\%)}{21 (\%) - \text{⑩ SOx 濃度測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 } (\%)}$$

- 例：下記のような数値が測定された場合

⑩ SOx 濃度測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	⑭ 排出ガス量測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	⑫ 平均排出ガス量 (m³/h)
6.15	5.85	45,930

計算の例

$$\begin{aligned} \text{⑮ 補正排出ガス量 (m³/h)} &= \text{⑫ 平均排出ガス量 (m³/h)} \times \frac{21 (\%) - \text{⑭ 排出ガス量測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 } (\%)}{21 (\%) - \text{⑩ SOx 濃度測定時の平均 O}_2 \text{ 濃度 } (\%)} \\ &= 45,930 \times \frac{21 - 5.85}{21 - 6.15} \\ &= 46,85\overline{7} \rightarrow \text{46,850 m³/h 有効数字 4 けた (5 けた以下切り捨て)} \end{aligned}$$

- ② 排出ガス量測定時の1時間当たりの燃原料使用量が、適用期間中の1時間当たりの平均燃原料使用量と異なり補正する必要がある場合(この補正は、D様式(b)を使用する場合には、必要ありません。)

62ページの記載例を参考にするなどし、排ガスを補正してください。

- 複数の燃原料を使用している場合には、計算のしかたが異なる場合があります。

計算式

$$\text{⑮ 補正排出ガス量 (m³/h)} = \text{⑫ 平均排出ガス量 (m³/h)} \times \frac{\text{③ 適用期間中の 1 時間当たりの平均燃原料使用量}}{\text{④ 排出ガス量測定時の 1 時間当たりの燃原料使用量}}$$

- 例：下記のような数値が測定された場合

③ 適用期間中の 1 時間当たりの平均燃原料使用量	④ 排出ガス量測定時の 1 時間当たりの燃原料使用量	⑫ 平均排出ガス量 (m³/h)
12,230	11,616	65,050

計算の例

$$\begin{aligned} \text{⑮ 補正排出ガス量 (m³/h)} &= \text{⑫ 平均排出ガス量 (m³/h)} \times \frac{\text{③ 適用期間中の 1 時間当たりの平均燃原料使用量}}{\text{④ 排出ガス量測定時の 1 時間当たりの燃原料使用量}} \\ &= 65,050 \times \frac{12,230}{11,616} \\ &= 68,48\overline{8} \rightarrow \text{68,480 m³/h 有効数字 4 けた (5 けた以下切り捨て)} \end{aligned}$$

誤りの多い事例

内 容	回 答
■ 前年度の申告書または算定様式を使用している。	Excel雛型ファイルは、毎年度更新しています。必ず当年度にダウンロードしたExcel雛型ファイルを使用してください。
④ ■ 申告書または算定様式に入力した賦課金番号に誤りがある。	別途配布の「申告書情報」に記載されている賦課金番号をよくお確かめください。
現在分の賦課金額の計算において、現在分SOx排出量の欄に前年度に申告したSOx排出量を記載している。	工場・事業場における全ての施設から前年に排出された総量を入力してください。算定様式で算出した合計値となります。FD・CD申告、オンライン申告では「算定様式の取り込み」ボタンにより作成した算定様式(A～D様式)のデータを取り込み、自動的に前年の排出量を計算します。
成績表から算定様式に燃原料の密度・硫黄分を転記する際、四捨五入している。	端数処理のしかた一覧(74ページ)に従い端数処理を行ってください。
㊦ 過去分および現在分賦課金額の1円未満を四捨五入している。または汚染負荷量賦課金額の100円未満を四捨五入している。	過去分および現在分賦課金額の1円未満は切り捨て、汚染負荷量賦課金額の100円未満は切り捨てとなります。
現在分SOx排出量を算定様式から申告書に転記する際、小数点以下を四捨五入している。または切り捨てずに入力している。	それぞれの算定様式で算出したSOx排出量を合算後、申告書へ転記する際1m ³ N未満は切り捨てとなります。(12、74ページ)FD・CD申告、オンライン申告では「算定様式の取り込み」ボタンにより作成した算定様式(A～D様式)のデータを取り込み、自動的に前年の排出量を計算します。
E様式、加重平均一覧表から算定様式へ転記した数値に誤りがある。	転記誤りがないよう、十分に注意してください。(エクセル雛型ファイルではE様式、加重平均一覧表に記載した数値が自動的に算定様式へ反映されません)
非常用施設を申告していない。	大気汚染防止法対象外施設でも燃原料を使用している場合は、申告する必要があります。
硫黄分0.01%未満の燃原料を申告していない。	灯油、LPGなどで硫黄分が0.01%未満の燃原料を使用している場合は、年間計のみ申告してください。(16ページ)
申告書の代理人欄に記載していない。	代理人を選任した場合は、代理人名を記載してください。
申告書の最大排出ガス量欄に記載していない。	最大排出ガス量欄は4月1日現在の工場・事業場におけるばい煙発生施設などの1時間当たりの最大排出ガス量(湿りガス)の総量を記載してください。
算定様式の施設名欄に記載していない。	算定様式の施設名欄は、「ボイラー」など対象となる施設の名称を記載してください。
算定様式、添付書類を添付していない。 またはオンライン申告において算定様式、添付書類をアップロードしていない。	算定様式、添付書類は忘れずに提出してください。
自社分析した燃原料の資料を添付していない。	自社分析によらざるを得ない場合は、その理由、測定方法、測定者および測定データを明記したものを添付してください。

FAQ

内 容	回 答
④ ■ エクセルのマクロ表示が出ない場合はどうすればよいですか？	● 「コンテンツの有効化」の設定をしてください。(4ページ) ● 「算定様式の追加」を行ったExcel雛型ファイルの場合、保存時に環境再生保全機構の署名が破棄されるため、「コンテンツの有効化」の設定をしても、マクロ表示が出ない場合があります。その時は、セキュリティレベルを変更してください。(6ページ)
■ ファイルをメディアに保存する時は、保存する順番はありますか？	保存する順番はありません。 なお、保存したファイルの名称は変更しないでください。
④ ■ 算定様式を複数枚作成する時は、必要枚数分ダウンロードする必要がありますか？	算定様式が複数枚必要なときは、「算定様式の追加」ボタンで必要枚数を追加してください。 ※ C様式については、1施設について1様式に入力します。複数の施設分を算定する場合は、入力されていないC様式のExcel雛型ファイルを必要な施設分だけコピーして、施設ごとに作成してください。
「名称等変更届出書」などの、届出書の様式はどこで入手できますか？	賦課金ホームページ(http://www.erca.go.jp/fukakin/index.html)にExcel雛型ファイルを用意しておりますので、ダウンロードしてご利用ください。 ● 別冊の「申告・納付の手続き」に届出様式の雛型を載せておりますので、コピーしてお使いください。 ● オンライン申告を行っている場合は、オンライン申告システムで名称等の変更を届け出ることができますので、そちらをご利用ください。

Excel 雛型ファイルについて

内 容	回 答
● ホームページにアクセスできない。 ● ダウンロードできない。	● URLの誤入力 → 正しいURLになっているか、確認してください。 ● メッセージが出る場合： ブラウザソフトのセキュリティオプションの設定か、事業場のサーバやネットワークのセキュリティ上の問題である可能性があります。 → システム管理者に相談してください。 ● 回線が混雑していると思われる場合： 時間帯を変えて、再度接続を試みてください。
ダウンロードしたExcel 雛型ファイルを解凍できない・開けない。	● ダウンロード中にファイルが破損した可能性があります。 → 再度、Excel 雛型ファイルをダウンロードしてください。 ● パソコンに解凍ソフトがインストールされていない場合 → Windows 標準機能でファイルを解凍してください。 (→ 別冊「申告・納付の手続き」22～23 ページ)
● Excel 雛型ファイルが開かない。(開こうとすると強制終了する) ● 入力チェック 印刷 様式の追加などをクリックすると、Excel が強制終了する。(メッセージが表示される場合もあります) ● 「プロジェクトまたはライブラリが見つかりません」などのエラーメッセージが表示され、マクロが機能しなくなった。 ● 作業中にフリーズする。	● Excel が、Dynamic Data Exchange (DDE) を無視するように設定されている。 → 下記手順で設定を変更してください。 ① Excel で、ファイル ▶ オプション ▶ 詳細設定 をクリックする。 ② 「全般」の「Dynamic Data Exchange (DDE) を使用するほかのアプリケーションを無視する」にチェックが入っている場合はチェックを外す。 ③ OK をクリックする。 ● 事業場内でのセキュリティの問題から、マクロファイルを使用できない環境で無理に使用した場合、強制終了されることがあります。 ● ネットワークの環境や、PC とプリンターの接続などシステム環境により、印刷ができない、強制終了されるなどのケースがまれに発生します。 → 事業場のシステム管理者にご相談ください。 ● Excel 雛型ファイルは、ブックやシートに保護がかけられています。入力できないセルの操作、マクロ情報の編集、ファイル名の変更などを行うと、Excel 雛型ファイルが損傷する原因となりますので、このような変更は行わないでください。 ● 事業場内のインターネット接続環境や、ダウンロード時の状況により、ダウンロードしたファイルの一部が損傷する場合があります。 → 再度、Excel 雛型ファイルをダウンロードしてください。
Excel のマクロ表示が出ない	● 「コンテンツの有効化」の設定をしてください。(4 ページ) ● 「算定様式の追加」を行った Excel 雛型ファイルの場合、保存時に環境再生保全機構の署名が破棄されるため、「コンテンツの有効化」の設定をしても、マクロ表示が出ない場合があります。その時は、セキュリティレベルを変更してください。(6 ページ)
算定様式で使用量なしの月に「0」と入力すると、エラー表示となる。	● 算定様式は「0」の入力に対応していません。 → 0 の場合は空白 (何も入力しない) としてください。(全様式共通)
様式の追加 を実行すると、「メモリ不足」のメッセージが表示される。	● Excel 雛型ファイルを FD・CD などのメディア上で実行している場合、メモリ不足の可能性があります。 → Excel 雛型ファイルをデスクトップやマイドキュメントなどのハードディスク上にコピーして実行してください。
Excel を終了できない。	● Excel 雛型ファイルを閉じる前に、Excel を終了しようとする、エラーメッセージが表示されて Excel を閉じることができません。 → Excel 雛型ファイル内の 終了 をクリックして Excel 雛型ファイルを閉じてから、Excel を閉じてください。

業種名とその分類一覧

申告書に入力すべき業種名	日本標準産業分類 中分類（一部大分類および小分類を含む）
02 旅館・飲食店	飲食店、旅館その他の宿泊業（ホテルを含む）、映画業、娯楽業
03 学校・病院	医療業、教育・学習支援業（試験研究機関を含む）、保健業（保健所、健康相談施設、検疫所（動・植物検疫を除く）等）
04 浴場業	公衆浴場、特殊浴場
05 洗たく業	洗たく業（リネンサプライを含む）、洗張・染物業
06 廃棄物焼却場	清掃業（公共団体所管のものを含む）
10 農・林・漁業	農業、農業・園芸サービス業（ライスセンター等）、林業、狩猟業、漁業、水産養殖業
11 鉱業	金属鉱業、石炭・亜炭鉱業、原油・天然ガス鉱業、その他の鉱業（鉱業法に定める鉱業）
12 建設業	総合工事業（アスファルトプラント等）、職別工事業、設備工事業
14 電気業	電気業（電気事業法に定める電気事業） （JRの発電所を含む。自家発電は各産業別に含める）
16 ガス業	ガス業（ガス事業法に定めるガス事業）
20 その他事業場	製造業以外で上記に含まれないもの、熱供給業、葬儀・火葬業、分類不能の産業
21 食料品製造業	食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業（食品加工業および砂糖、清涼飲料、ビール、酒、有機質肥料、たばこの製造業等）
23 繊維工業	繊維工業、衣服その他の繊維製品製造業（製糸業、紡績業および織物、メリヤス、レース、網、衣服の製造業等並びに染色整理業）
25 木材・木製品工業	製材業、木製品製造業、家具・装備品製造業（一般製材業、単板、床板、チップ、合板、パーティクルボードおよび家具・装備品製造業等）
27 パルプ・紙加工品業	パルプ・紙・紙加工品製造業、印刷・同関連業（パルプ、紙、加工紙、段ボール、セロファン、繊維板の製造業等および新聞、出版、印刷、製本業等）
29 化学工業	化学工業（化学肥料、無機化学工業製品、有機化学工業製品、石油化学製品、化学繊維、薬品、洗剤、塗料、化粧品等の製造業等）
31 石油・石炭製品業	石油製品・石炭製品製造業 （石油精製業および潤滑油、グリース、コークスの製造業）
33 ゴム・皮革業	ゴム製品製造業、なめし革・同製品・毛皮製品製造業（タイヤ、チューブ、ゴムベルト、ゴム、革、毛皮製品の製造業等）
35 窯業・土石製造業	窯業・土石製品製造業（セメント、ガラス製品、かわら、陶磁器、耐火物、炭素・黒鉛、石綿、石灰の製造業等）
37 鉄鋼業	鉄鋼業（製鉄業、製鋼・製鋼圧延業および鋼材、表面処理鋼材、鍛鋼、鋳鋼、鋳鉄鋳物の製造業等）
39 非鉄金属業	非鉄金属製造業 （非鉄金属の製錬・精製、圧延業および鋳物、電線・ケーブルの製造業等）
41 金属製品業	金属製品製造業 （洋食器、刃物、手道具、暖房装置、建設用金属製品、くぎ、ねじ、ボルトの製造業等）
43 機械工業	一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、電子部品・デバイス製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、武器製造業（ボイラ・原動機、建設機械、電気機械・器具、一般産業用機械、通信機械器具、電子計算機、自動車、鉄道車両、船舶、航空機、武器の製造業等）
50 その他製造業	楽器、玩具、運動用具、鉛筆、プラスチック成型品等の上記以外の製造業

標準的硫黄分一覧

分類	廃棄物等名	燃焼性 硫黄分 (%)	平均的 水分 (%)
紙くず	板紙	0.10	8
	その他	0.01	7
繊維くず	植物繊維	0.02	6
	合成繊維	0.02	—
	絹	0.07	7
	毛	2.50	10
ゴム	ゴムタイヤ	1.50	—
	その他	0.80	—
合成樹脂	合成樹脂	0.01	—
廃油	廃油（密度 0.880）	0.50	—
石油かす	オイルタール（密度 1.000）	0.20	—
	オイルピッチ	6.00	—
動・植物性残渣	バガス	0.01	50
	生皮	0.10	50
	なめし皮	1.00	20
	羽毛	0.70	70
排水処理汚泥	活性汚泥（食品系）	0.10	90
	抄紙系汚泥	0.04	60
	パルプ系汚泥	0.20	70
	油泥	0.50	80
一般廃棄物	都市ごみ	0.03	60
	し尿汚泥ケーキ	0.04	70
	下水汚泥ケーキ	0.01	80
木・わら	木屑	0.04	10
	わら	0.04	10

※ 廃棄物等の焼却時の水分が分析によって上表の平均的水分と異なる場合は、焼却量を補正し、標準的硫黄分をそのまま乗じて SOx 排出量を求めてください。

計算式

補正後の焼却量の計算

$$\text{補正後の焼却量 (kg)} = \text{焼却量 (kg)} \times \frac{100 - W}{100 - W_o}$$

W = 焼却時に分析した水分 (%)

W_o = 上表に記載した平均的水分 (%)

SOx 排出量の計算

$$\text{SOx 量 (m}^3\text{N)} = \text{補正後の焼却量 (kg)} \times \frac{S_o}{100} \times \frac{22.4}{32}$$

S_o = 上表に記載した標準的硫黄分 (%)

※ 分析データ、分析方法を明らかにする書類を添付してください。

燃原料コード表

分類	コード	燃原料名
液体燃料	01	A 重油
	03	B 重油
	05	C 重油
	09	混合重油
	11	軽油
	13	灯油
	14	ナフサ
	15	原油
	22	黒液
	29	その他の液体燃料
固体燃料	31	石炭
	33	コークス
	35	木材
	39	その他の固体燃料
気体燃料	41	都市ガス
	42	天然ガス (LNG)
	44	液化石油ガス (LPG)
	46	コークス炉ガス
	47	高炉ガス
	59	その他の気体燃料
廃棄物	61	都市ごみ
	62	汚泥ケーキ
	63	排水処理汚泥
	64	紙くず
	65	繊維くず
	66	動・植物性残渣
	67	ゴム
	68	合成樹脂
	69	石油かす
原材料	71	廃液
	79	その他の廃棄物
	84	窯業・土石原料
	85	鉄鋼原料
	86	非鉄金属原料
	91	セメント原料用石炭
	99	その他の原料

※ 以下のような燃原料の場合、次のように分類してください。

燃原料	コード / 燃原料名
木屑・わら	35：木材
オイルコークス	39：その他の固体燃料
RPF・RDF	
ブタンガス	44：液化石油ガス (LPG)
発生炉ガス	59：その他の気体燃料
セメント原料	84：窯業・土石原料
ガラス原料	
陶器原料	

● ● ●
燃原料コード表
標準的硫黄分一覧
業種名とその分類一覧

必要ときに

端数処理のしかた一覧

申告書	
現在分 SOx 排出量 (m ³ /h)	小数点以下切り捨て
過去分賦課金額・現在分賦課金額 (円)	1 円未満切り捨て
合計賦課金額 (円)	100 円未満切り捨て

A 様式・B 様式・C 様式・D 様式	
使用量 (ℓ・kg・m ³ /h) ※ C 様式は装入量・産出量 (ℓ・kg・m ³ /h) ※ D 様式は焼却量 (ℓ・kg・m ³ /h)	小数点以下切り捨て
密度 (g/cm ³)	小数点以下 4 けた目を切り捨て、3 けたまで ※加重平均値：上記の数値で加重平均し、その結果を JIS Z 8401 による丸めまたは四捨五入によって、小数点以下 3 けたまでとする。
含有硫黄分 (%)	● A、B、D 様式の場合 小数点以下 3 けた目を切り捨て、2 けたまで ※加重平均値：上記の数値で加重平均し、その結果を JIS Z 8401 による丸めまたは四捨五入を行い、小数点以下 2 けたまでとする。
	● C 様式の場合 ・燃料：A 様式に準じる。 ・原材料、製品：同じ月の分析値が 1 つの場合は、小数点以下 4 けた目を切り捨て、3 けたまで ※加重平均値：上記の数値で加重平均し、その結果を JIS Z 8401 による丸めまたは四捨五入を行い、小数点以下 3 けたまでとする。
脱硫効率 (%)	小数点以下 3 けた目を切り捨て、2 けたまで
補正後の脱硫効率 (%)	
SOx 排出量 (m ³ /h)	小数点以下 2 けた目を切り捨て、1 けたまで

E 様式	
平均 SO ₂ ・SOx 濃度 (ppm) SOx 濃度への補正係数 補正 SOx 濃度 (ppm) SOx 濃度測定時の平均 O ₂ 濃度 (%) 排出ガス量測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	有効数字 3 けたまで (4 けた以下を切り捨て)
平均排出ガス量 (m ³ /h) 補正排出ガス量 (m ³ /h) SOx 量 (m ³ /h)	有効数字 4 けたまで (5 けた以下を切り捨て)

B 様式・D 様式 (b)・b 様式	
平均 SO ₂ ・SOx 濃度 (ppm) SOx 濃度への補正係数 SOx 濃度測定時の平均 O ₂ 濃度 (%) 排出ガス量測定時の平均 O ₂ 濃度 (%)	有効数字 3 けたまで (4 けた以下を切り捨て)
適用期間中における平均燃原料使用量 測定時における燃原料使用量 補正 SOx 濃度 (ppm)	小数点以下切り捨て
平均排出ガス量 (m ³ /h) 補正排出ガス量 (m ³ /h)	有効数字 4 けたまで (5 けた以下を切り捨て)
D 様式 (b)：測定中の焼却量 (kg/h)	1kg 未満の端数は切り捨て
D 様式 (b)：1t あたりの SOx 量 (m ³ /h)	小数点以下 4 けた目を切り捨て、3 けたまで

JIS Z 8401 による数値の丸めかた

例：加重平均した硫黄分の数値を小数点以下2けたまでの数値に丸める

① . ② ③ ④ ⑤ ※①②③④⑤は任意の数字

- ④ (小数点以下3けた目) の数値が0、1、2、3、4の場合

→ 切り捨てます。

例：0.9245 → 0.92

- ④ (小数点以下3けた目) の数値が6、7、8、9の場合

→ 切り上げます。

例：0.9265 → 0.93

- ④ (小数点以下3けた目) の数値が5の場合

ー ⑤ (小数点以下4けた目) 以降の数値が0以外のとき

→ 切り上げます。

例：0.9251 → 0.93

ー ⑤ (小数点以下4けた目) 以降の数値が全て0のとき

→ ③ (小数点以下2けた目) が1、3、5、7、9であれば、切り上げます。

例：0.9150 → 0.92

→ ③ (小数点以下2けた目) が0、2、4、6、8であれば、切り捨てます。

例：0.9250 → 0.92

数値を丸める際の留意点

- 元の数値を一段階で丸めてください。

例： 0.9147 を小数点以下2けたまでの数値に丸める場合

○ 0.9147 → 0.91 (1段階)

× 0.9147 → 0.915 → 0.92 (2段階)

● JIS Z 8401 による数値の丸めかた
● 端数処理のしかた一覧

必要なきに

申告後に誤りを訂正する場合

申告後に誤りなどから申告内容を修正する場合は、事前に機構へご連絡ください。

修正申告書記載例（用紙申告の場合）

新たに申告書を作成し、申告書の右肩に「修正分」と朱書きしたうえ、機構または商工会議所へ提出してください。

※ 納付義務者等に変更があった場合、最新の情報を入力してください。

提出年月日を入力してください。

申告区分を「11」と入力してください。

朱書きで「修正分」と入力してください。

機 構 用		20XX年度汚染負荷量賦課金申告書		修正分	
				20XX年 7月 1日	
独立行政法人環境再生保全機構理事長 殿					
公害健康被害の補償等に関する法律第55条第1項の規定に基づき、次のとおり申告します。					
①	申告区分	賦課金区分	汚染負荷量賦課金番号	納付義務者番号	工場・事業場 C・D
	11	1	03309012		
② （ばい付煙発生施設等設置者）	（フリガナ）	カナガワケン カワサキシ サイワイク オオミヤチョウ 1310			
	（イ）住 所	郵便番号	212-8554 神奈川県 川崎市 幸区 大宮町 1310		
	（フリガナ）	アオゾラ コウギョウ カブシキガイシャ			
	（ロ）氏名又は名称	青空工業株式会社 (印)			
		電 話 番 号 044 - 520 - 9503			
	（ハ）代表者氏名	（フリガナ）	アオゾラ イチロウ	（フリガナ）	オオモリ カズオ
	青空 一郎 (印)	（ニ）同 左 代理人	大森 一夫 (印)		
③ 対象工場・事業場	（フリガナ）	ミヤギケン センダイシ ミヤギノク ミナト 1-2-3			
	（イ）所 在 地	郵便番号	983-0001 宮城県 仙台市 宮城野区 港 1-2-3		
	（フリガナ）	センダイ コウジヨウ			
	（ロ）名 称	仙 台 工 場		電話番号 022 - 562 - 8181	
	（ハ）工場長の氏名	（フリガナ）	オオモリ カズオ	（ニ）業 種 名	④ 1時間当たり の最大排出ガ ス量
	大森 一夫	鉄 鋼 業	立方メートル/時 百万 千 m³/h		
⑤ 汚 染 負 荷 計 算	（イ）硫酸化物排出量	（ロ）単位排出量当たり賦課金（円/立方メートル）	（ハ）(イ) × (ロ) 汚染負荷量賦課金額		
	過去分	累積換算量（立方メートル/年度換算期） 百万 千 m³/a	円 銭	百万 千 円	
		41278	XX.XX	458598	
	現在分	前年の排出量（立方メートル/年） 百万 千 m³/a	1. 5. XX.XX.XX	3464187	
		37789		4198735	
	⑥延納の申請	（イ）する （ロ）しない	合計 3922700 4657300		
⑦ 汚 染 負 荷 量 賦 課 金 の 期 別 納 付 額 内 訳					
（イ）全期又は第1期（初期）		（ロ）第2期	（ハ）第3期	（ニ）第4期	
十 百 千 円 十 百 千 円 十 百 千 円 十 百 千 円		十 百 千 円 十 百 千 円 十 百 千 円 十 百 千 円		十 百 千 円 十 百 千 円 十 百 千 円	
9809000		9806000		9806000	
A 3 B 2 (92016) (0401)		仙 台			
E 6 b 12					
注）「事業者用」裏面の注意をよく読んで記入してください。					
作 成		所 属 課 環 境 課			
担 当 者		電話番号 022-562-8181(内263)			
		フリガナ タイキ マモル			
		氏 名 大 伊 木 守			

- 修正前の数字は上段に（ ）書きとし、その下に正しい数字を記入してください。
- 延納の場合、期別納付額内訳の額の記入は、修正申告する期日によって異なります。機構にご相談のうえ、記入してください。

修正申告書記載例（オンライン申告、FD・CD申告の場合）

提出年月日を入力してください。

申告区分を「11」に変更してください。

申告区分を「11」に変更すると、自動的に「修正分」が表示されます。

前年度データ複写	入力チェック	印刷	エクセル保存	終了
----------	--------	----	--------	----

20XX年度 汚染負荷量賦課金申告書

修正分

提出年月日 20XX年7月5日

独立行政法人環境再生保全機構理事長 殿

公害健康被害の補償等に関する法律第55条第1項の規定に基づき、次のとおり申告します。

①	申告区分	賦課金区分	汚染負荷量賦課金番号		
			納付義務者番号	工場・事業場	C・D
	11	1	03309	01	2

② 納税義務者設置者	(イ)住所	〒1310 神奈川県川崎市幸区大宮町 1 3 1 0		
	(ロ)氏名又は名称	青空工業株式会社 印		
	(ハ)代表者氏名	青空一郎 印	(ニ)同左代理人	大森一夫 印
	(ホ)資本金	6,230,000 千円		
	(ヘ)工場・事業場	〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港 1 丁目 2-3		
③ 対象工場・事業場	(イ)所在地	〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港 1 丁目 2-3		
	(ロ)名称	仙台工場 電話番号 022-562-8181		
	(ハ)工場長氏名	大森一夫	(ニ)業種名	鉄鋼業
⑤ 汚染課金額の算出	(イ)硫酸化物排出量 (t/年)	41,278	(ロ)単位排出量当たり賦課金 (円/立方メートル)	XX.XX
	(イ)前年の排出量 (t/年)	37,789	(ロ)単位排出量当たり賦課金 (円/立方メートル)	XX.XX
	(イ)延納の申請	○する ○しない	(ロ)単位排出量当たり賦課金 (円/立方メートル)	XX.XX
	(イ)延納の申請	○する ○しない	(ロ)単位排出量当たり賦課金 (円/立方メートル)	XX.XX
⑦ 汚染負荷量賦課金の期別納付額内訳	(イ)全期又は第1期(初期)	(ロ)第2期	(ハ)第3期	(ニ)第4期
	980,900 円	1,715,200 円	980,600 円	980,600 円
	商工会議所			
	作成担当者 氏名 大伊木守			

訂正後の数値を入力してください。

例: 31,178→37,789

- 前年の排出量を訂正すると、汚染負荷量賦課金額は自動的に再計算されます。
- 延納の場合、期別納付額内訳の額の入力、修正申告する期日によって異なります。機構にご相談のうえ、入力してください。

※ 提出した申告書を修正する場合、申告区分の「10」をクリックすると11、12、13の修正申告区分が表示されます。

【例】初めての修正を行う場合: 「11 修正申告1回目」をクリックします。

※ 用紙の印刷や保存方法などは、10ページを参照してください。

● 申告後に誤りを訂正する場合

必要となるときに

申告後に誤りを訂正する場合

修正納付書記載例

収納区分を「11」と入力してください。

朱書きで「修正分」と入力してください。

独立行政法人環境再生保全機構

汚染負荷量賦課金 納付書・領収証書

住所 983-0001 宮城県仙台市城野区港1-2-3 氏名 アオソラコウギョウ 青空工業株式会社 センダイコウジョウ 仙台工場 殿	収納機関	収納区分	納付義務者番号	工場・事業場番号	C・D	下記の納付額を 領収しました。 (領収年月日、領収者名 及び領収印)又は(領 収者名の表示のある領 収日付印)
	1	11	03309	01	2	
	納付期限	20XX年 X月 XX日				
	受取人	独立行政法人環境再生保全機構				
	納付目的	平成XX年度 汚染負荷量賦課金				
	納付区分	全期・第1期				
納付場所 独立行政法人環境再生保全機構又は下記の 取扱金融機関の本店 各都市銀行 各地方銀行 商工組合中央金庫 北洋銀行	複数事業所分 をまとめて納付	する・ <u>しない</u> (「する」の場合には3枚目裏面に 必ずその事業所名等をご記入ください)				収入印紙 〔取扱金融機関 が貼付〕
	納付額	百十億千百十萬千百十円 ¥183500				
	なお、裏面取扱金融機関の本店で納付する 場合は、手数料は不要です。 (取扱店⇒納付義務者)					

● 申告後に誤りを訂正する場合

必要なときに

「申告書類作成マニュアル」について、ご不明な点などがございましたら、
独立行政法人 環境再生保全機構までお問い合わせください。

- 申告手続等に関する一般事項の照会 …………… 補償業務部 業務課 TEL 044-520-9544
- オンライン申告、FD・CD申告に関する事項の照会 … 補償業務部 業務課 TEL 044-520-9543
フリーダイヤル ☎ 0120-135-304
(受付: 平日 9:30～18:00)
- 申告等賦課金算定に関する事項の照会 …………… 補償業務部 調査管理課 TEL 044-520-9547
- 汚染負荷量賦課金の納付に関する事項の照会 …………… 補償業務部 業務課 TEL 044-520-9553
- 汚染負荷量賦課金申告に関する情報は …………… <http://www.erca.go.jp/fukakin/>
- 機構業務案内等に関する情報は …………… <http://www.erca.go.jp/>

独立行政法人 環境再生保全機構

〒 212-8554

神奈川県川崎市幸区大宮町 1310

ミューザ川崎セントラルタワー 8 F

T E L 044-520-9544

F A X 044-520-2133

Eメール h-gyoumu@erca.go.jp

